



京都教育大学

アニュアルレポート2004

2004年12月

国立大学法人 京都教育大学

アニュアルレポート 2004 の発刊によせて

京都教育大学長 村田隆紀

京都教育大学では、これまで「自己点検評価報告書」、「研究者総覧」、「教官業績一覧」などの種々の刊行物を外部への報告書として積極的に作成してきました。しかしながら、これらの報告書は、大学基準協会への加盟のために作成したものや、大学評価・学位授与機構の分野別、テーマ別の自己評価の報告書などの外部機関に提出するもののほか、教員の活動の中で主として研究活動に焦点を合わせた報告書であり、大学全体の活動の現状を俯瞰するためには、必ずしも十分なものとはいえないものでした。

本年度からの国立大学の法人化に伴って、本学に法人の組織の一つとして設置した大学評価室では、大学の概要をまとめ、あわせて教員個人の教育研究活動を掲載した報告書の作成を企画して、新しい形のアニュアルレポートを準備してきました。

このレポートではさまざまな工夫が盛り込まれています。まず第1に、本学が抱える7つの課題について最初の2ページにまとめたことです。そこには本学がこれらの課題に取り組む際の具体的な行動指針も記されています。第2に、第1部の大学の概要紹介を、単に数字の羅列に終わらせることなく、自己点検評価の観点から現状の問題点について大学評価室の考え方を記したことです。第3に、教員の個人別教育研究活動については書式を統一し、平成14年度からの活動について、1人あたり見開き2ページとして、わかりやすい形をとりました。

なおこのレポートでは、大学の教育研究活動に限って報告したため、事務局と附属学校の概要紹介とその課題点検は省略しました。

アニュアルレポートの名が示すとおり、今後はこのレポートを定期的に刊行して、課題の達成状況を年次的に報告する予定をしています。

このレポートについてお気づきのことや、ご質問、ご意見などがあれば、それらを大学にお寄せください。このレポートによって、本学の現状が広く社会に認識されて、今後の本学の教育研究活動の充実に資すること、また本学の社会貢献活動をさらに広げていくために活用されることを心から願っています。

目 次

京都教育大学7つの課題	1
第 部 大学概要	
1) 法人組織	3
2) 教員数	3
3) 学生数	5
4) 入学者選抜状況	7
5) 学生支援の状況	9
6) 卒業生および修了者数	10
7) 卒業生および修了者の進路	11
8) 国際交流	12
9) 獲得した研究費	16
10) 施設	17
11) 公開講座	18
12) 社会貢献	19
13) 授業アンケート	20
第 部 教員個人別教育研究活動（研究者総覧）	
教員個人別教育研究活動（研究者総覧）凡例	23
学長，副学長	25
国語教育講座	30
日本語教育講座	42
社会科教育講座	44
地域科学講座	68
数学教育講座	70
理科教育講座	80
物質科学講座	108
生命・環境科学講座	110
音楽教育講座	112
美術教育講座	124
保健体育講座	150
野外教育講座	170
技術教育講座	172
情報学講座	182
家政教育講座	186
英語教育講座	198
障害児教育講座	214
幼児教育講座	224
学校教育講座	228
外国人教師	252
教育実践総合センター	254
環境教育実践センター	264
保健管理センター	268
氏名索引	270

京都教育大学 7つの課題

本学の自己点検評価と大学基準協会および大学評価・学位授与機構からの評価等をふまえ、以下の課題に自覚的に取り組んでいる。

1. 入試(Admission)

アドミッション・ポリシーの明確化

本学が育てて社会に送り出す学生像を明確にし、そのためにどのような学生を求めるのかを提示します。

細分化された募集定員の問題を改善します。

入試方法改善のための全学的な取り組みをさらに充実させます。

2. 学部教育(Undergraduate Education)

学生にあった教育方法の全学的取り組み

教養教育の位置づけを明確にし、運営の責任体制を確立します。

授業ガイダンスを充実させ、シラバスの内容の充実と活用を推進させます。

教育方法・授業方法改善のための全学的な取り組みを推進させます。

授業期間と実習時期の重なり問題の解決に取り組めます。

成績評価の厳格性を保ちます。

教育が就職率の向上に繋がる工夫を探ります。

教育内容が教育目標の達成に十分寄与していないものについて、改善の努力をします。

3. 大学院(Graduate School)

目的の明確化

教育学研究科としての目的を明確にします。

運営・改善のための組織体制を充実させます。

「現職教員が定員の3分の1」の目標数に達する工夫をします。

成績評価基準等シラバスを作成して活用します。

教育内容、教育方法について、大学全体として組織的に検討します。

4. 附属学校(Attached Schools)

大学との連携の強化

多様な教育実習の実現を図ります。

大学と附属学校との研究連携を全学的なものとして活性化させます。

大学院の教育に積極的に活用します。

公立学校にない、特色ある取り組みを探究します。

5 . 事業(Undertaking)

学外との積極的な連携

京都府と京都市の教育委員会，学校現場との連携を強化します。

学外連携のための全学的組織の整備に努めます。

社会貢献，社会サービスに関する全学的な取り組みをすすめます。

公開講座や公開講演会の内容と受講生のニーズにマッチしたものとなるよう工夫します。

高大連携の取り組みを進めます。

6 . 組織(Organization)

執行責任体制の明確化

教員組織と教育組織との整合性を高めます。

大学の目的に沿った組織の運営のあり方を探ります。

学内の3センター(教育実践総合センター，環境教育実践センター，情報処理センター)

相互の連携を推し進めます。

7 . 情報(Infomation)

情報公開の推進

学内外への情報公開に努めます。

教員個人の情報発信に努めます。

図書館が利用しやすいように改善します。

(注) ここにあげた課題は，過去に受けた外部評価の結果から大学全体で取り組むべき活動についてまとめたものであり，個々の教員とその集団レベルの活動としては，相応の水準で達成されているものが多く含まれている。

第

部

第 部 大 学 概 要

平成15年度の京都教育大学の概要を示した。ただし、一部に平成16年度秋までの項目や経年変化を示すために他の年度を併記した項目がある。

各項目に関わる必要最小限の説明を現状を示すデータの前後に示してある。特徴ある変化を示している点について、その意義等のコメントを加えた。

1) 法人組織

京都教育大学は、法人化への移行にあたって、法人運営に関わる人員を厳選し、必要最小限の組織としている。これにより、機動力のある大学運営の展開を期している。

法人役員は、学長、理事3名(内学外者1名)、監事(非常勤)2名の合計6名で構成されている。経営協議会は8名(内学外者4名)、教育研究評議会は学内者8名(内教授会選出2名)で構成した。

2) 教員数

表1 講座教員数(専任)

16.10.1現在

専攻	専修	教授	助教授	講師	計
学校教育専攻	学校教育専修	11	9	0	20
障害児教育専攻	障害児教育専修	3	1	1	5
教科教育専攻	国語教育専修	4	3	1	8
	社会科教育専修	7	4	2	13
	数学教育専修	3	3	1	7
	理科教育専修	7	7	2	16
	音楽教育専修	5	2	0	7
	美術教育専修	8	4	0	12
	保健体育専修	8	3	1	12
	技術教育専修	5	1	1	7
	家政教育専修	3	3	0	6
	英語教育専修	3	5	0	8
計		67	45	9	121

現在121人の教員が学生指導に当たっており、教員一人当たり正規学生数は平均で約10人である。これは小規模な単科大学の特色であり、理想的な勉学の環境といえる。

表2 教員の年齢別構成数

14年度以降は5月1日現在

教授，助教授，講師，助手	平成13年10月1日現在		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	人数	構成比率	人数	構成比率	人数	構成比率	人数	構成比率
29歳以下	1	0.8	1	0.8	1	0.8	0	0
30-39歳	18	13.5	16	12.0	14	11.0	18	14.5
40-49歳	48	36.1	48	36.1	47	37.0	46	37.1
50-59歳	51	38.3	51	38.3	53	41.7	51	41.1
60歳以上	15	11.3	17	12.8	12	9.4	9	7.3
合計	133	100.0	133	100.0	127	100.0	124	100.0

教員の年齢は50歳代を中心に広く分布しており，社会的にその発言等の重みが尊重されると共に，重い責任を負うべき世代が中心である。

年齢構成別に見ると，40歳代以上が8割近くであり，教員の高齢化の傾向が見られる。平成16年度には30歳代の割合に増加があり，高齢化に歯止めがかかっている。

表3 教育学部専任/非常勤別の授業科目数及び教員数

教育学部	平成11年度			平成12年度			平成13年度			平成14年度			平成15年度		
	科目数	教員数		科目数	教員数		科目数	教員数		科目数	教員数		科目数	教員数	
		専任	非常勤												
通年科目	294	205	89	30	27	3	44	41	3	39	35	4	34	34	0
前期科目	507	370	137	656	438	218	678	457	221	751	490	261	718	501	217
後期科目	462	299	163	652	421	231	638	421	217	696	435	261	681	449	232
合計	1,263	874	389	1,338	886	452	1,360	919	441	1,486	960	526	1,433	984	449

表4 大学院専任/非常勤別の授業科目数及び教員数

大学院	平成11年度			平成12年度			平成13年度			平成14年度			平成15年度		
	科目数	教員数		科目数	教員数		科目数	教員数		科目数	教員数		科目数	教員数	
		専任	非常勤												
通年科目	22	19	3	21	17	4	19	15	4	17	14	3	30	29	1
前期科目	130	115	15	128	112	16	136	114	22	148	128	20	143	128	15
後期科目	120	224	16	122	108	14	121	106	15	144	127	17	139	121	18
合計	272	358	34	271	237	34	276	235	41	309	269	40	312	278	34

大学として，専任教員中心で授業を運営すべきことは当然のことであるが，一方で教員養成課程の法制上の授業の多様さと，総合科学課程をかかえることにより，多数の非常勤講師に依存せざるを得ない状態が続いている。

平成 15 年度は、教育学部の全授業のうち非常勤教員の担当授業は 31.3%を占めているが、平成 11 年度からの推移を見ると、その割合は減少傾向にある。大学院の全授業のうち非常勤教員の占める割合は、10.9%であり、これも同様である。これらは専任教員中心で教育を運営する努力がされていることの現れと見ることが出来る。

3) 学生数

表 5 教育学部における課程別学生数

各年度の 5 月 1 日現在

課 程		平成 1 2 年 度	平成 1 3 年 度	平成 1 4 年 度	平成 1 5 年 度	平成 1 6 年 度
平成 1 2 年度改組による課程	学校教育教員養成課程	195	382	561	759	822
	総合科学課程	173	337	496	655	681
平成 9 年度改組による課程	初等教育教員養成課程	477	352	204	26	7
	中学校教員養成課程	349	244	138	33	14
	養護学校教員養成課程	64	48	26	8	4
	総合科学課程	471	344	196	44	23
合 計		1,848	1,756	1,644	1,528	1,552

平成 12 年度に学部の改組を行い、それまでの一学年 420 人体制から、学校教育教員養成課程 160 人、総合科学課程 140 人の 300 人の体制となった。改組の完成年度である平成 15 年度以降の在学生数のうち 1200 人を超えている分については、留年生がその大部分を占めている。

表 6 大学院における専攻別学生数

専 攻	平成 1 2 年度	平成 1 3 年度	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度	平成 1 6 年度
学校教育専攻	29	42	52	46	47
障害児教育専攻	13	11	13	11	11
教科教育専攻	128	119	100	98	103
合 計	170	172	165	155	161

大学院生の数は 160 名前後で、全体として安定している。細かな数字の変動は、入試ガイダンスなどの影響があることも推測される。

表 7 現職教員の所属専攻

専 攻	平成 1 2 年度	平成 1 3 年度	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度	平成 1 6 年度
学校教育専攻	5	7	7	15	11
障害児教育専攻	0	1	1	2	2
教科教育専攻	9	7	8	15	24
合 計	14	15	16	32	37

学生数は160名前後で安定して推移している。表にあらわれていないが、入試方法の改善や制度の変更によって、現職教員が平成15年度から飛躍的に増加している。しかしながら全学として中期目標に掲げた目標数である定員の3分の1にはまだ達していない。

表8 その他の学生における学生身分別数

学生区分		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
研究生	学部	16	15	19	17	14	17	19	0	27	-
	大学院			1	1					1	-
科目等履修生	学部	63	52	48	39	64	78	94	93	91	-
	大学院	10	9	14	10	16	11	10	9	5	-
小計		89	76	82	67	94	106	123	102	124	-
合計		165		149		200		225		124	
特別聴講学生	学部	315		375		468		543		441	
	大学院	2		5		1		3		1	
特別研究学生		0		0		0		1		0	
総計		482		529		669		772		566	

正規学生以外では、パートタイムの学生が増えている。学部学生では、研究生数はそれほど変化しないが、科目等履修生、特別聴講生で注目すべき増加が明らかで、いずれも教員免許の取得を目的にした学生である。大学院生では、科目等履修生が20～30人程度で目立った増加はないが、本学における臨床心理学関係の資格取得と関係している事例が多い。

4) 入学者選抜状況

平成14年度から16年度各々について、学部入試の詳細データを別々に列挙した。特に、前期、後期、推薦を比較した点での年次推移の動向に注目した集計としている。

表9 教育学部における入学者選抜実施状況（課程別内訳，編入学を除く）

教員養成課程	平成14年度													
	募集 人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
前期日程	64	110	104	214	105	103	208	40	37	77	2.7	40	36	76
後期日程	53	172	231	403	107	157	264	26	33	59	4.5	21	28	49
推薦入学	43	105	285	390	105	284	389	11	46	57	6.8	11	46	57
合計	160	387	620	1,007	317	544	861	77	116	193	5.1	72	110	182
総合科学課程	平成14年度													
	募集 人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
前期日程	36	61	70	131	61	66	127	18	21	39	3.3	17	20	37
後期日程	85	314	372	686	211	232	443	50	56	106	4.1	38	49	87
推薦入学	19	26	47	73	26	47	73	5	17	22	3.3	5	17	22
合計	140	401	489	890	298	345	643	73	94	167	5.1	60	86	146

教員養成課程	平成15年度													
	募集 人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
前期日程	64	104	78	182	102	75	177	45	34	79	2.2	44	34	78
後期日程	53	153	236	389	85	151	236	29	41	70	3.4	25	37	62
推薦入学	43	84	220	304	84	218	302	12	42	54	5.6	12	42	54
合計	160	341	534	875	271	444	715	86	117	203	3.5	81	113	194
総合科学課程	平成15年度													
	募集 人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
前期日程	36	44	45	89	42	42	84	19	20	39	2.2	17	17	34
後期日程	85	339	356	695	216	252	468	36	79	115	4.1	31	67	98
推薦入学	19	26	42	68	26	41	67	7	16	23	2.9	7	16	23
合計	140	409	443	852	284	335	619	62	115	177	3.5	55	100	155

教員養成課程	平成16年度													
	募集 人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
前期日程	64	97	90	187	96	89	185	45	34	79	2.3	44	33	77
後期日程	53	200	208	408	131	130	261	45	32	77	3.4	42	31	73
推薦入学	43	101	252	353	100	251	351	12	45	57	6.2	12	45	57
合計	160	398	550	948	327	470	797	102	111	213	3.7	98	109	207
総合科学課程	平成16年度													
	募集 人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
前期日程	36	39	31	70	38	29	67	21	22	43	1.6	21	20	41
後期日程	85	218	296	514	137	187	324	44	75	119	2.7	38	69	107
推薦入学	19	16	28	44	16	28	44	8	11	19	2.3	8	11	19
合計	140	273	355	628	191	244	435	73	108	181	2.4	67	100	167

全体的な傾向として受験倍率が低下している。とりわけ総合科学課程の低下が目立ち、前期日程では平成16年度で1.6倍となった。さらに推薦入学でも、平成15年度に3倍を割り、平成16年度では2.3倍に落ち込んだ。要因について検討中であるが、前後期の定員バランス、センター試験との配点バランス等の複合要因があると考えられる。

表10 教育学部における入学者選抜のうち編入学実施の状況

度	募集人員	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者			
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	
平成14年度	総合科学課程	若干名	16	11	27	13	10	23	3	6	9	2.6	3	5	8
平成15年度	総合科学課程	若干名	19	9	28	18	9	27	7	3	10	2.7	6	3	9
平成16年度	学校教育教員養成課程	若干名	48	39	87	48	39	87	3	12	15	5.8	1	11	12
	総合科学課程	若干名	2	10	12	2	9	11	1	3	4	2.8	1	3	4
計			50	49	99	50	48	98	4	15	19	5.2	2	14	16

編入学は平成15年度までは総合科学課程で若干名の募集を行っていたが、平成16年度から学校教育教員養成課程にも導入した結果、小学校教員の免許取得を目的とする編入学希望者が多いことが明らかとなった。学校教育教員養成課程での募集は、希望専攻の届出は行いが、入試は専攻を区別せずに、一括で実施する点が、他の入試と大きく異なる点である。5.8倍という倍率は、この入試が注目されていることを示している。

表11 大学院教育学研究科における入学者選抜実施状況

留学生特別選抜は除く。

平成14年度	募集人員	区分	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
			男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
学校教育専攻	15	一般	27	64	91	24	58	82	9	9	18	4.6	7	9	16
		現職	8	13	21	8	12	20	5	4	9	2.2	5	4	9
障害児教育専攻	5	一般	0	6	6	0	5	5	0	5	5	1.0	0	4	4
		現職	0	2	2	0	2	2	0	2	2	1.0	0	2	2
教科教育専攻	50	一般	28	29	57	25	28	53	18	21	39	1.4	16	16	32
		現職	9	3	12	9	3	12	8	3	11	1.1	8	2	10
計	70	一般	55	99	154	49	91	140	27	35	62	2.3	23	29	52
		現職	17	18	35	17	17	34	13	9	22	1.5	1	8	21

平成15年度	募集人員	区分	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
			男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
学校教育専攻	15	一般	30	47	77	27	42	69	5	12	17	4.1	2	8	10
		現職	8	7	15	8	7	15	6	3	9	1.7	5	3	8
障害児教育専攻	5	一般	2	7	9	2	7	9	2	7	9	1.0	1	3	4
		現職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教科教育専攻	50	一般	31	27	58	29	25	54	16	19	35	1.5	13	18	31
		現職	3	3	6	3	3	6	2	2	4	1.5	2	2	4
計	70	一般	63	81	144	58	74	132	23	38	61	2.2	16	29	45
		現職	11	10	21	11	10	21	8	5	13	1.6	7	5	12

平成16年度	募集	区分	志願者			受験者			合格者			倍率	入学者		
	人員		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計
学校教育専攻	15	一般	30	38	68	30	33	63	17	9	26	2.4	14	6	20
		現職	2	9	11	2	9	11	2	3	5	2.2	2	3	5
障害児教育専攻	5	一般	2	7	9	2	6	8	2	3	5	1.6	1	3	4
		現職	0	3	3	0	3	3	0	2	2	1.5	0	2	2
教科教育専攻	50	一般	40	30	70	34	28	62	22	19	41	1.5	20	19	39
		現職	5	3	8	5	2	7	5	2	7	1.0	5	1	6
計	70	一般	72	75	147	66	67	133	41	31	72	1.8	35	28	63
		現職	7	15	22	7	14	21	7	7	14	1.5	7	6	13

大学院受験者数は年々減少傾向にある。学校教育専攻では教育学，実践教育学，教育・発達心理学，教育臨床心理学，幼児教育学の5分野に更に分けて合格者を判定しているが，教育臨床心理の分野を希望する倍率が極端に高くなっている。ただし，学校教育専攻全体では，平成16年度では2.4倍にとどまっており，(財)臨床心理士認定協会の判断による臨床心理士養成指定校の動向に受験生が反応していることがわかる。なお，平成17年度より，学校教育専攻は，教育学・幼児教育学コース，実践教育学コース，教育・発達心理学コース，教育臨床心理学コースの4コース制で別々に受入れる体制とした。

5) 学生支援の状況

表12 授業料免除の実施状況

注1 「学内免除」とは本学での予算の範囲内で行った免除

注2 「本省免除」とは学内予算の範囲では免除できず，文部科学省に超過免除申請をして許可されたもの

学部学生		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		前期	後期								
学生数		1,911	1,886	1,822	1,791	1,721	1,704	1,614	1,582	1,502	1,484
学 内 免 除	出願者数	175	187	206	196	182	176	150	143	140	136
	出願率(%)	9.2	9.9	11.3	10.9	10.6	10.3	9.3	9.0	9.3	9.2
	全額免除者数	118	124	124	108	99	101	77	74	69	69
	半額免除者数	23	27	0	39	0	0	0	0	0	0
	不適格者数	34	36	40	23	33	24	16	10	11	6
本 省 免 除	本省申請者数	0	0	42	26	57	59	57	59	60	61
	全額免除者数	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0
	半額免除者数	0	0	33	26	7	17	18	16	21	23
	不許可者数	0	0	0	0	50	42	39	43	39	38

大学院学生		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		前期	後期								
学生数		143	137	156	154	164	153	155	151	147	141
学 内 免 除	出願者数	32	24	45	31	37	30	30	29	34	32
	出願率(%)	22.4	17.5	28.8	20.1	22.6	19.6	19.4	19.2	23.1	22.7
	全額免除者数	19	16	24	14	20	16	16	17	18	17
	半額免除者数	4	2	0	8	0	0	0	0	0	0
	不適格者数	9	6	13	6	10	6	4	1	6	4
本 省 免 除	本省申請者数	0	0	8	3	7	8	10	11	10	11
	全額免除者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	半額免除者数	0	0	7	3	1	3	4	1	2	4
	不許可者数	0	0	0	0	6	5	6	10	8	7

学部学生の出願率は近年9%台で推移している。全額免除は年々減少傾向にあるが、本省免除により半額免除が増えている。また、大学院生の、出願率が20%を超えている。そのうち、約半数の者が、全額免除を受け、本省免除で数人が半額免除となっている。

表13 奨学金貸与の状況

	平成13年度			平成14年度			平成15年度			
	教 育 学 部	専 攻 科	大 学 院	教 育 学 部	専 攻 科	大 学 院	教 育 学 部	専 攻 科	大 学 院	
学生数	1,694	20	146	1,644	17	165	1,502	16	147	
日本育英会	第一種奨学生	195	1	32	201	0	30	195	0	34
	第二種奨学生	41	0	0	0	0	0	0	0	0
	きぼう21プラン	173	0	14	258	0	9	241	0	9
その他の奨学生	25	0	0	15	0	0	13	0	0	

第一種奨学生は、学部生で約12%、大学院生で約20%の者が奨学金を貸与されている。また、きぼう21プランは、学部学生で約15%、大学院生で約5%となっており、いずれかの奨学金を貸与される、学部学生および大学院生は約3割である。

6) 卒業生および修了者数

平成15年度に365人の学部卒業生を出しているが、留年者(中途退学者、除籍者を除く)がその3分の1弱にあたる115人(31.5%)であった。この比率は、平成13年度(21.5%)、平成14年度(19.9%)と比べて高い。課程別の推移では、教員養成課程で22.2%(平成13年度)、18.2%(平成14年度)、19.8%(平成15年度)と概ね下降傾向にあるが、総合科学課程では、20.1%(平成13年度)、23.4%(平成14年度)、28.9%(平成15年度)と上昇傾向である。

総合科学課程の留年率が全体の留年率を押し上げていることがわかる。留年の要因は複雑であるが、適格で明瞭な進路情報の提供が必要である。

表 1 4 教育学部における卒業生

学 士 区 分	平成 1 1 年度	平成 1 2 年度	平成 1 3 年度	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度
学士（教育学）	320	281	281	311	210
学士（教養学）	109	148	143	147	155
合 計	429	20	424	458	365
特殊教育特別専攻科	19	20	19	16	16

表 1 5 大学院教育学研究科における修了者数

専 攻	平成 1 1 年度	平成 1 2 年度	平成 1 3 年度	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度
学校教育専攻	7	9	15	23	25
障害児教育専攻	4	4	4	4	6
教科教育専攻	44	53	60	40	42
合 計	55	66	79	67	73

平成12年度の改組によって大学院学生の定員増を行ったが、最初の修了者を出した平成15年度は73人が修了した。しかし、留年は20人（中途退学者を除く）で、留年率は21.5%であり、18.6%（平成13年度）、20.2%（平成14年度）であった改組前と同様上昇傾向にある。専攻別には学校教育専攻が25.0%（平成13年度）、8.0%（平成14年度）、7.4%（平成15年度）、障害児教育専攻が55.6%（平成13年度）、20.0%（平成14年度）、14.3%（平成15年度）と下降しているのに対して、教科教育専攻では11.8%（平成13年度）、25.9%（平成14年度）、28.8%（平成15年度）と上昇している。教科教育専攻における留年問題は、その原因を探り適切な方策を講じる必要がある。

7) 卒業生および修了者の進路

平成16年3月末において、平成12年度学部改組の初の卒業生を出した。教員就職率は61.5%で、前年度の初等教育教員養成課程と中等教育教員養成課程との合計47.6%に比べて改善が見られた。

表 1 6 教育学部における進路の状況

（各年10月1日現在）

「卒業生都道府県別教員就職状況」は、5月1日現在での調査のため、計数は一致しない。

平成 1 5 年度 卒業生	卒業 者数	公立学校		国立学校		私立学校		企業	公務員等	進学	その他
		正規	非常勤	正規	非常勤	正規	非常勤				
学校教育教員養成課程	169	45	57	0	1	0	1	12	11	21	21
初等教育教員養成課程	18	2	3	0	0	0	1	2	0	0	10
中学校教員養成課程	19	2	3	0	0	0	0	2	1	1	10
養護学校教員養成課程	4	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1
総合科学課程	155	4	14	0	1	1	2	49	17	27	40
合 計	365	54	78	0	2	1	4	66	29	49	82

総合科学課程の卒業生の中から教員になるものが増加する傾向にある。平成13年度に卒業生143人のうち講師11人、平成14年度に卒業生147人のうち講師16人であったものが、平成15年度は卒業生153人のうち正規採用5人、講師17人である。

表 1 7 大学院教育学研究科の就職状況

平成16年3月末

専攻・専修	修了者数	公立		国立		私立		就職		進学	その他
		正規	講師	正規	講師	正規	講師	企業等	官公庁		
学校教育専攻	23*2	[6]8	0	0	0	[1]1	1	1	4		[1]8*2
障害児教育専攻	6*0	[0]1	0	0	0	[0]0	0	2	1		[1]2*0
教科教育専攻 小計	37*5	[5]9	6	0	0	[1]1	3	4	1	1	[0]10*3
合計	66*7	[11]18	6	0	0	[2]2	4	7	6	1	[2]21*5

現職教員として在学していた者については〔 〕を付し、内数として記入している。

留学生については「*」を付し、外数として記入している。

学校教育専攻においては、現職教員等（7人）以外の修了生15人中、教員として就職した者は3人（うち講師1人）、障害児教育専攻においては、現職教員等（1人）以外の修了生5人中、教員として就職した者は1人である。教科教育専攻においては、現職教員等（6人）以外の修了生29人中、教員として就職した者は13人（うち講師9人）であり、専攻別にみると、教科教育専攻修了生の教員就職率が最も高い。

8) 国際交流

大学院教育学研究科外国人留学生は平成15年度においては学校教育専攻4人、教科教育専攻11人であり、障害児教育専攻には在籍がない。国籍は中国12人、タイ・台湾・韓国各1人である。費用負担としては国費留学生が14人、私費留学生が1人である。

教育学部外国人留学生数はここ数年20人代で推移しているが、そのほとんどが総合科学課程に在籍している（平成15年度における1人を除く全員が総合科学課程）。国籍は中国22人、韓国3人、台湾1人であり、この人数比は毎年ほぼ一定している。費用負担は国費留学生は21人、私費留学生5人である。過去3年間、国費留学生の数は19人、21人、21人と着実に増加しつつある。

研究生は、平成15年度においては全員が中国国籍である。

「その他」には、大学院レベルの国費・研究留学生（2人）、国費・教員研修留学生（5人）、国費・日本語 日本文化研修留学生（3人）、学部レベルの国費・特別聴講学生（3人）、私費・特別聴講学生（1人）が含まれる。なお、国費・特別聴講学生は全員がタイからの留学生である。

表 1 8 外国人留学生の在籍状況

平成15年4月現在

区分	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
教育学研究科	13	18	19	15
教育学部	22	27	26	26
研究生	13	7	11	5
その他	12	18	12	14
合計	60	70	68	60

学生の派遣と受入においては、41のラジャパット地域総合大学（タイ）との間での交流が活発化しており、受入4人（平成13年度） 派遣3人・受入3人（平成14年度） 派遣15人・受入9人（平成15年度）と増加しつつある。平成15年度における急増は、近畿圏の教育大学・学部のコンソーシアムとタイ側の41大学のコンソーシアムとの間における先導的留学生交流プログラムの成果を含んでいる。また平成15年度から、チュラロンコン大学教育学部より学生を受け入れた。

表 1 9 大学間交流協定に基づく研究者の受入と派遣

研究者交流	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	派遣	受入								
上海師範大学・中国 (1993年締結)	1	2	3	2	3	5		3	4	2
R I 4 1 地域総合大学・タイ (1995年締結)	1	2	2	7	4	2	1		2	
南オーストラリア大学・オーストラリア (1997年締結)	1	5	1		1	1				
チュラロンコン大学教育学部・タイ (2002年締結)										
ケベック州大学学長協議会(CREPUC)・カナダ (2004年締結)			2	3						
合 計	3	9	8	12	8	8	1	3	6	2

表 2 0 大学間交流協定に基づく学生の受入と派遣

()は申請中で外数

学 生 交 流	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	派遣	受入								
上海師範大学・中国 (1993年締結)		4	1	4	1	3	1	3	1	1(1)
R I 4 1 地域総合大学・タイ (1995年締結)	2	5		4	3	3	15	9	0	3(2)
南オーストラリア大学・オーストラリア (1997年締結)	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0
チュラロンコン大学教育学部・タイ (2002年締結)					0	0	0	1	0	1
ケベック州大学学長連盟・カナダ									0	0
合 計	3	9	2	8	5	6	18	13	2	5(3)

カナダとの交流は、CREPUQとの間で協定を締結した。しかし個別の大学との交流も必要と考え、ケベック州の大学説明会等に本学から学長以下関係者が出席するなど、積極的な情報収集と個別大学との交渉を重ねている段階である。

表 2 1 教育実践総合センターにおける留学生等の受入

区 分	平成 1 2 年度	平成 1 3 年度	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度	平成 1 6 年度
文部科学省国費留学生	2	4	1	5	2
国際協力事業団外国人受託研修員		1			
その他（留学研究生，研究員）	1	1	2	1	2
国内現職教員内地研修員	4	6	4	4	3
国内研究生		2	2	1	
その他受入指導		5	8		19
合 計	7	19	17	11	26

教育実践総合センターは、受け入れ区分による変動があるものの、全体として毎年10人以上の留学生と研究生を受け入れ続けている。その中で、国内現職教員の内地研修員の減少が顕著である。これに代わって、個々の教員との個人的な関係を頼って、指導を希望する現職教員が増加していると思われる。

表 2 2 外国人留学生における奨学金申請と採用の状況（平成 1 5 年度）

区 分	国費		学習奨励費		民間団体		地方公共団体		合 計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
申請数	2	4	4	3	7	4	0	1	25
採用数	1	2	4	3	1	0	0	0	11

平成15年度における外国人留学生に対する奨学金支援は申請総数および採用総数ともに減少した。平成14年度と比較して、申請数で28人から25人へ、採用数で16人から11人へととなっている。国費学部留学生の奨学金では毎年1人が安定して採用されるのに対し、国費大学院留学生の奨学金では採用の減少が顕著で、平成15年度の採用は1人のみであった。なお、学習奨励費は申請者全員が採用されているが、その数は過去3年間で一貫して減少傾向にある。これは地方公共団体や民間団体への申請を増やしていることと関係している。

表 2 3 外国人留学生における授業料免除実施の状況（平成 1 5 年度）

区 分	免 除 判 定					合計金額（円）
	全額免除（人）	金額（円）	半額免除（人）	金額（円）	不許可（人）	
学部生	22	11,457,600	20	5,208,000	5	16,665,600
大学院生	15	7,812,000	5	1,302,000	3	9,114,000
	37	19,269,600	25	6,510,000	8	25,779,600

外国人留学生の授業料免除および奨学金貸与の問題は、国内在學生と質的に異なる困難さを伴っている。困窮者に対して、大学が独自に緊急避難的な支援を行って成果を上げているが、制度的な整備が急がれる。

表 2 4 国際交流会館における入居状況

延べ人数 平成16年5月1日現在

区 分	平成12年度			平成13年度			平成14年度			平成15年度		
	学生	研究者	計									
単身室(36室)	39	2	41	37	3	40	38	1	39	38		38
夫婦室(6室)	6		6	6	1	7	5		5	8		8
家族室(4室)	4	1	5	3	1	4	3	1	4	4		4
合 計	49	3	53	46	5	51	46	2	48	50		50

本学の国際交流会館は、設備が充実しているため、ここ数年、単身室・夫婦室・家族室ともに満室の状態が続いているが、研究者の入居が減少傾向にある。これは大学に対する外国人研究者受け入れの減少傾向と、各種留学生交換プログラムの活用、日本人学生フェローの増員等が関係している。

表 2 5 学長裁量経費による国際研究集会出席の状況（平成15年度）

会議名	開催地
国際電気通信連合 遠隔医療の標準化に関するワークショップ	スイス ジュネーブ
第4回表面改質に関する国際シンポジウム	アメリカ オークランド
第19回国際遺伝会議	オーストラリア メルボルン
東アジア文科研究会	オーストリア ウィーン
遺伝進化的計算国際会議	アメリカ シカゴ
国際ナノテクノロジー研究会	フランス グルノーブル
2003光イオン、光イオン化及び光脱離に関するゴードン国際会議	イギリス オックスフォード
第10回日韓教育行政共同セミナー	韓国 ソウル
遠隔協同学習の現地指導講師	タイ バンコク
デトロイトの子ども達とのふれあいコンサート	アメリカ デトロイト
イタリア日本語教師会研修室	イタリア ローマ

国際教育貢献として、平成15年度の本学学長裁量経費による国際研究集会への出席状況を示した。学内の支援による活動を反映するものであるが、教職員の外国出張は、この他に科研費などによるものがある。教員の国際的な活動全体の年次推移として、平成13年度に全体件数が増加して、現在はその水準を維持している。

9) 獲得した研究費

表 2 6 科学研究費補助金における種目別申請と採択の状況

研究種目名		平成13年度			平成14年度			平成15年度		
		申請 件数	採択 件数	交付額 (千円)	申請 件数	採択 件数	交付額 (千円)	申請 件数	採択 件数	交付額 (千円)
重点領域研究	新規	1	0	0						
	継続									
特定領域研究(A)	新規	2	1	1,700						
	継続									
特定領域研究(1)	新規				3	1	3,700	3	1	3,400
	継続									
基盤研究(B)	新規	4	2	12,000	4	0	0	1	1	2,500
	継続				2	2	6,900	2	2	4,400
基盤研究(C)	新規	28	6	12,300	37	11	16,200	32	8	12,300
	継続	6	6	5,000	7	7	5,900	12	12	11,700
萌芽的研究	新規	3			5	1	500	3	0	0
	継続							1	1	400
奨励研究A	新規	3	2	2,187	8	1	1,600			
	継続	3	3	2,300						
国際学術研究	新規									
	継続									
地域連携推進研究	新規									
	継続									
若手研究B	新規				4	0	0	5	1	400
	継続				2	2	100	1	1	1,400
合 計		50	20	35,487	72	25	34,900	60	27	36,500

科学研究費補助金の申請は、件数、交付額ともに過去5年間、全体的には横ばいである。

平成15年度の科研費応募件数・採択件数・採択率はそれぞれ60件、27件、45.0%で平成14年度は72件、25件、34.7%と応募数は減少したが、採択数(採択率)は増加している。しかしこれは継続採択件数の増加が11件から16件に増加したことによるものであって、新規採択数はむしろ減少しているのが現状である。この点は改善すべき事柄である。

表 2 7 その他の奨学寄附金における受入の状況

単位：円

区 分	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	件数	金 額						
京都教育大学における教育・研究の振興を図るため	6	2,240,000	5	2,680,000	4	1,680,000	4	1,700,000
教官に対する学術研究助成	7	6,317,250	5	4,573,000	10	6,478,400	3	1,199,000
京都教育大学附属学校の教育・研究助成	14	46,900,000	13	64,110,000	14	6,508,000	13	69,906,000
合 計	27	55,457,250	23	71,363,000	28	73,238,400	20	72,805,000

10) 施設

本学の施設の位置は、藤森学舎・第2学舎・京都地区附属学校・桃山地区附属学校・附属養護学校と大きく5つの地区に配置され、その他に宿舎等がある。以下に、土地及び建物面積の一覧を示す。

表28 京都教育大学の管理する土地 (m²)

区 分	校舎敷地	運動場等	実習園	学寮敷地	宿舎敷地	合計
藤森学舎	99,682	41,042				140,724
第二学舎	5,670	3,266				8,936
附属環境教育実践センター	2,152		7,571			9,723
学寮				14,695		14,695
附属京都小学校	9,787	9,736				19,523
附属桃山小学校	5,719	6,512				12,231
附属京都中学校	9,600	8,318				17,918
附属桃山中学校	10,641	11,442				22,083
附属高等学校	21,505	16,048				37,553
附属養護学校	29,327	4,000				33,327
附属幼稚園	2,415					2,415
外人宿舎					244	244
藤森宿舎					5,068	5,068
合 計	196,498	100,364	7,571	14,695	5,312	324,440

表29 京都教育大学の管理する建物 (m²)

区分	教室・研究 室等	図書館	講堂体 育施設	課外活 動福祉 施設	学寮・国 際交流 会館	職員宿 舎	管理部 その他	久美浜 フィー ルドス テーシ ョン	合計
藤森学舎	19,473	2,706	3,614	2,473			10,016		38,282
附属環境教育実践センター	923						14	132	1,069
学寮					6,716				6,716
附属京都小学校	4,178		995				2,979		8,152
附属桃山小学校	2,798		1,020				1,948		5,766
附属京都中学校	2,562		1,515	211			1,371		5,659
附属桃山中学校	3,097		1,760				1,527		6,384
附属高等学校	4,401		1,218				2,458		8,077
附属養護学校	3,129		414				911		4,454
附属幼稚園	560						450		1,010
外人宿舎						139			139
藤森宿舎						3,559			3,559
合 計	41,121	2,706	10,536	2,684	6,716	3,698	21,674	132	89,267

附属図書館は、藤森学舎に設置されている 2,706m²の施設である。平成 16 年 3 月末現在で和漢書 228,321 冊、洋書 54,000 冊を有し、その他に消耗品図書として 39,688 冊を有している。雑誌の種類数では、和雑誌 3,154 種類、洋雑誌 1,109 種類を所蔵している。開館時間は通常期(月～金 8:30～21:00、土 9:00～17:00)設定し、社会人を含む学生利用の便宜を図っている。本図書館では、一般利用者も開架資料の貸し出しを受けることができる。また特色あるコレクションとして、「教科書コレクション」「米国教育情報センター資料」「鍵盤楽器研究学位論文集」「師範学校史コレクション」等を整備している。

学内研究施設等として、教育実践総合センター・環境教育実践センター・情報処理センターを設置している。

教育実践総合センターは藤森学舎内にある面積 942m²の施設で、教育支援・教育実践・教育開発の 3 研究部門を柱立てに地域社会との関係づくりを進め、教育の今日的課題を解決することを目指す取組みを展開している。ここに開設される心理教育相談室は地域一般に開かれた相談室であり、予約制による相談を受け付けているが、利用者は年々増加している。

環境教育実践センターは第 2 学舎にある面積 1,068m²の施設で、環境教育の推進を図るべく広く学生等の実習実験の場を提供している。

情報処理センターは藤森学舎にある面積 470m²の施設で、各種サーバとクライアントコンピュータを備える学内共同利用施設である。教育研究のための情報処理を支援すると共に、学生および一般に対する基礎的な情報処理教育の場を提供している。学生が利用可能な情報処理室等に、パーソナルコンピュータが 90 台以上確保されており、他に画像処理システム等が利用可能である。また、教育研究の目的でノートパソコンやデジタルビデオ等の貸出業務を広く行っている。

厚生施設として、保健管理センターを藤森学舎内に 304m²の施設として設置している。学生の健康保持と増進・疾病の早期発見をはじめとし、教職員・学生の保健管理に関する専門的業務を一体的に行っている。

11) 公開講座

本学における教育研究活動を広く地域社会に還元することを目的に、公開講演会および公開講座を開催している。表には公開講演会として平成 15 年度実績を、公開講座として平成 16 年度の 10 月までの一覧を示した。テーマは教育に関わる内容を軸に自然科学系・人文社会科学系さらに芸術・体育系に広がりを持っており、教育の今日的課題への提言を試みるものが含まれている。この数年の実施状況の動向として、演題および講座の種類が多彩になっているといえる。ただ一方で、それぞれの参加者数が募集人員に満たない場合があり、広報などを工夫する課題が残されている。

平成 16 年 10 月より J R 京都駅前のキャンパスプラザ京都内に本学サテライト教室を開設した。これを期に公開講座のあり方を再検討すると共に、本学を退職した教員の協力を得て名誉教授公開講座の試みなど、新たな取組みに着手している。従来 of 大学構内での開講実績をふまえ、サテライト教室における実施を含めた実施計画の再構築をすすめ、参加者数の改善を図る必要がある。

表 3 0 公開講演会の演題（平成 1 5 年度）

講演会演題
ウォーキングにおける遊び心のすすめ
インド音楽への誘い
インド古典音楽演奏会
身近な自然を楽しむ ボタニカルウォーキング
牛と人間
植物の繁殖と育てる楽しみ
心を育む環境と豊かな食材 身近な植物と食材のトピックス
環境に対する感性を高めるために

表 3 1 公開講座の開催の状況（平成 1 6 年度）

講座名	対象	回
幼稚園の自然観察・栽培・飼育実技講座	幼稚園教諭	6
シニアそろばん講座	55才以上の市民一般	25
「総合的な学習の時間」で今しなければならないこと、今できること	教員，教育関係者	3
シリーズ環境を考える(13) 身近な自然を生かす	市民一般	6
つくる・みる・かんがえる かたちとかず(1)	小学生高学年～中学1年生程度	5
地球環境問題を考えるための科学実験教室	小学生高学年～中学生	5
楽しい理科実験教室	小学生1～4年生	5
思春期の心を考える 教育臨床心理学の視座から	教員，教育関係者，市民一般	3
楽しい塑像教室 首像とテラコッタ作り	教員，20歳以上の市民一般	10
知られざる京都	市民一般	5
FLASHMXによるマルチメディア動画教材の作成入門	教員，教育関係者，市民一般	2
中学生にもできるロボット製作	中学生以上の市民一般	5
つくる・みる・かんがえる かたちとかず(2)	小学生高学年～中学1年生程度	5
障害を持つ子どもの教育と医療	教員，養育・保育・療育関係者	2
生活空間を彩る陶芸作品を作る 白と黒の表現	市民一般	7
学校カウンセリングの理論・実践そして展開	教員，教育・心理関係者(学生を含む)	4

12) 社会貢献

社会貢献として、平成 15 年度は国家公務員法 104 条の兼業許可に基づくものが 18 件あった。区分の内訳として、地方公共団体が 5 件、研究所が 2 件、営利企業が 1 件、その他が 10 件であった。内容としては、各団体等における委員や役職等の依頼などである。また、教育公務員特別法第 21 条の兼業許可に基づくものは、110 件であった。内容の内訳として、非常勤講師の依頼が 77 件、講習会講師が 11 件、審議会委員等が 19 件、その他が 3 件であった。本学の平成 15 年度末の教員数がおよそ 130 であることを考え合わせると、教員一人あたり約 1 件の何らかの委嘱を受けていることになる。

13) 授業アンケート

本学では、授業担当者自身による授業改善の情報提供をねらいとして授業アンケートを実施している。平成 14 年度までは後期のみで実施していたが、平成 15 年度からは前期後期それぞれの学期に実施期間を設け、全授業の参加を目標にした。その結果、前期は 85.3%、後期は 71.5%の教員が参加した。授業に対する計量的な 12 の評価項目に対する統計的な分析より、このアンケートでは授業担当者の取組みと受講学生側の取組みの 2 つの側面から授業の特徴を評価している。アンケートの特質の分析を含めた結果と議論は、平成 15 年度本学 F D 活動報告書にまとめ、平成 16 年 3 月に発行した。

表 3 2 (授業アンケート質問) あなたにとって、この授業での説明は分かりやすいですか。

	とてもわかりやすい	わかりやすい	少し分かりにくい	とても分かりにくい
平成14年後期	23.7%	48.0	21.9	6.3
平成15年前期	20.2%	51.8	22.5	5.5
平成15年後期	23.7%	51.5	19.5	5.4

アンケート項目の結果のうち、まず担当教員の工夫の成果を示すと期待される「あなたにとって、この授業での説明はわかりやすいですか」と「この授業はよく準備されたものですか」を各選択肢の相対度数で示した。約 70～75 %の学生がわかりやすいという方向に反応している。本学では、おおむね分かりやすく 計画に沿った授業が進められていることがうかがえるが、残りの約 25 %の学生が(少し/とても)分かりにくいと反応していることを重く見る必要がある。平成 14 年度に比べれば減少傾向であるが、改善を要する課題である。

表 3 3 (授業アンケート質問) この授業はよく準備されたものですか。

選択肢	よく準備されている	ほぼ準備されている	あまり準備されていない	全く準備されていない
平成14年後期	47.8%	44.4	6.6	1.2
平成15年前期	44.3%	46.9	7.6	1.2
平成15年後期	44.2%	46.8	7.6	1.4

学習者側の反応として、「授業時間以外に、あなたがこの授業のために費やした時間は、平均すると 1 週間あたりどの程度ですか」「あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか」と問うた結果を示した。前期開設の授業については、後期分に対して自習量の多さが見られる。前期に対して後期開設分の自習量の少なさに関わる要因を探ることが課題だろう。また全体として授業に向けた、また授業に刺激された学習活動の活性化が課題だろう。意欲的な態度については、年次的変化は見られない。

表 3 4 (授業アンケート質問) 授業時間以外に、あなたがこの授業のために費やした時は、平均すると1週間あたりどの程度ですか。

選択肢	3時間以上	1時間半程度	30分程度	ほとんどない
平成14年後期	6.4%	13.0	25.2	55.5
平成15年前期	7.6%	15.4	26.3	50.8
平成15年後期	4.3%	12.8	26.1	56.8

学習者側の反応として、「授業時間以外に、あなたがこの授業のために費やした時間は、平均すると 1 週間あたりどの程度ですか」「あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか」と問うた結果を示した。前期開設の授業については、後期分に対して自習量の多さが見られる。前期に対して後期開設分の

自習量の少なさに関わる要因を探ることが課題だろう。また全体として授業に向けた、また授業に刺激された学習活動の活性化が課題だろう。意欲的な態度については、年次的変化は見られない。

表 3 5 (授業アンケート質問) あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。

選択肢	取り組んでいる	ほぼ取り組んでいる	多少は取組んでいる	取り組んでいない
平成14年後期	29.8%	39.5	24.7	5.9
平成15年前期	31.0%	37.6	25.9	5.4
平成15年後期	30.6%	39.9	23.8	5.7

最後に、全体としての授業満足度を問うた結果を示した。約8割の学生が満足の方に答えているが、今後その質の探求が課題である。

表 3 6 (授業アンケート質問) 総合してみると、あなたはこの授業にどの程度満足していますか。

選択肢	満足している	だいたい満足している	少し不満足である	不満足である
平成14年後期	27.9%	53.9	13.8	4.4
平成15年前期	26.1%	53.4	16.0	4.6
平成15年後期	28.0%	52.5	13.9	5.6

最後に、全体としての授業満足度を問うた結果を示した。約8割の学生が満足の方に答えているが、今後その質の探求が課題である。

第 部 大学概要 表一覧

- 表 1 講座教員数（専任）
- 表 2 教員の年齢別構成数
- 表 3 教育学部専任 / 非常勤別の授業科目数及び教員数
- 表 4 大学院専任 / 非常勤別の授業科目数及び教員数
- 表 5 教育学部における課程別学生数
- 表 6 大学院における専攻別学生数
- 表 7 現職教員の所属専攻
- 表 8 その他の学生における学生身分別数
- 表 9 教育学部における入学者選抜実施状況（課程別内訳，編入学を除く）
- 表 10 教育学部における入学者選抜のうち編入学実施の状況
- 表 11 大学院教育学研究科における入学者選抜実施状況
- 表 12 授業料免除の実施状況
- 表 13 奨学金貸与の状況
- 表 14 教育学部における卒業生
- 表 15 大学院教育学研究科における修了者数
- 表 16 教育学部における進路の状況
- 表 17 大学院教育学研究科における就職状況
- 表 18 外国人留学生の在籍状況
- 表 19 大学間交流協定に基づく研究者の受入と派遣
- 表 20 大学間交流協定に基づく学生の受入と派遣
- 表 21 教育実践総合センターにおける留学生等の受入
- 表 22 外国人留学生における奨学金申請と採用の状況（平成 15 年度）
- 表 23 外国人留学生における授業料免除実施の状況（平成 15 年度）
- 表 24 国際交流会館における入居状況
- 表 25 学長裁量経費による国際研究集会出席の状況（平成 15 年度）
- 表 26 科学研究費補助金における種目別申請と採択の状況
- 表 27 その他の奨学寄附金における受入の状況
- 表 28 京都教育大学の管理する土地
- 表 29 京都教育大学の管理する建物
- 表 30 公開講演会の演題（平成 15 年度）
- 表 31 公開講座の開催の状況（平成 16 年度）
- 表 32 （授業アンケート質問） あなたにとって，この授業での説明は分かりやすいですか。
- 表 33 （同上） この授業はよく準備されたものですか。
- 表 34 （同上） 授業時間以外に，あなたがこの授業のために費やした時間は，平均すると1週間あたりどの程度ですか。
- 表 35 （同上） あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。
- 表 36 （同上） 総合してみると，あなたはこの授業にどの程度満足していますか。

第

部

第 部 教員個人別教育研究活動（研究者総覧）

凡 例

編集期日	平成16年10月1日現在本学に在職する教員を対象とした。
掲載順	教育学部，学内教育研究施設等の順で分類した。
配列	講座等の教授，助教授，講師，助手の順に五十音とした。
掲載内容	氏名 所属講座・分野・職名 学位 / 取得年・資格（機関） 最終修了大学院（修了年） 赴任年月 教育に関する活動 学部の授業担当実績 大学院の授業担当実績 卒業論文指導の実績と就職状況 修士論文指導の実績と進路 現職者の指導実績 留学生の指導実績 卒業論文および修士論文の主なテーマ（3件まで） 附属学校での教育等（3件まで） 教育に関するその他の活動 研究に関する活動実績 専門分野（キーワード3つまで） 現在の研究課題（3件まで） 教育および教員養成に関わる研究業績（主な3件） その他専門領域に関わる研究業績（主な3件） 科学研究費補助金等の採択実績 所属学会 研究に関するその他の活動（共同研究 / 受賞 / 特許等） 社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績 社会貢献に関する活動実績（主な5件） 国際交流に関する活動実績（主な5件） 管理運営に関する活動実績 講演テーマ（3件まで） 高等教育機関への授業提供 社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動
編集期間	平成14年4月1日～平成16年9月30日

内容については，各教員の自己責任のもとで記載したものをそのまま示した。

学長の教育研究活動

氏名(ふりがな)	村田 隆紀 (むらた たかとし)
所属講座・分野・職名	学長
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1968 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科修士課程 (1964 年)
赴任年月	1966 年 7 月



研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 物性物理学 2. 物理教育 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. 「アドバンス物理」カリキュラムの研究 2. 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 谷口和成他6名 「アドバンス物理研究会」の高大連携 物理教育 51 198-201 (2003) 2. 山崎敏昭他6名 「アドバンス物理」による電流回路学習の新しい視点 物理教育 51 202-208 (2003) 3. 山崎敏昭他9名 実用的な電磁器械を利用した「アドバンス物理」電磁気学についての考察 物理教育 52 358-363 (2004)
科学研究費補助金等の採択実績 特定領域研究 平成 14～16 年 研究代表者 「アドバンス物理」を用いた授業実践による高大連携の試み
所属学会 日本物理学会、日本放射光学会、日本物理教育学会、日本 XAFS 研究会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府 NIE 推進協議会会長 2. 青少年のための科学の祭典京都大会実行委員長
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 平成 14 年 8 月 タイ国チュラロンコン大学教育学部におけるセミナー講演 2. 平成 14 年 11 月 タイ国チュラロンコン大学教育学部における国際会議で発表、パネリスト 3. 平成 16 年 7 月 タイ国チュラロンコン大学教育学部における国際会議で発表、パネリスト 4. 平成 16 年 9 月 カナダトロントでの日加学長会議において、本学の国際交流活動について報告 5. 平成 16 年 10 月 中国上海師範大学 50 周年記念フォーラムにおいて、国立大学法人としての本学の目標について発表
管理運営に関する活動実績 法人 : 学 長
講演テーマ(3件まで) 1. 宇宙時代に生きる－物理学は何を教えているか(高校生向け) 2. NIE から何を学ぶか(教員向け) 3.
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	小寺 正一 (こてら まさかず)
所属講座・分野・職名	14・15年度 / 社会科教育講座・倫理学分野・教授(副学長併任) 16年度 / 法人理事・副学長
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1960年
最終修了大学院(修了年)	大阪教育大学大学院・修士課程修了(1960年)
赴任年月	1964年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 平成14年度前期 倫理学演習(単、2) 社会科教科基礎・公民(単、15) 平成14年度後期 倫理学概論(単、80) 倫理学特論(単、25) 倫理学演習(単、3) 平成15年度前期 倫理学演習(単、3) 社会科教科基礎・公民(単、10) 平成15年度後期 倫理学概論(単、80) 倫理学特論(単、20) 倫理学演習(単、3) 平成16年度前期 (法人役員のため授業担当なし)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 平成14年度前期 道德教育特別演習(単、8(3)) 平成14年度後期 道德教育特論(単、5(1)) 平成15年度前期 道德教育特別演習(単、10(2)) 平成15年度後期 道德教育特論(単、5(2)) 平成16年度前期 (法人役員のため授業担当なし)
卒業論文指導の実績と就職状況 なし
修士論文指導の実績と進路 なし
現職者の指導実績 研究生 H14 1人(京都府教育委員会派遣) H15 1人(京都府教育委員会派遣)
留学生の指導実績 なし
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) なし
附属学校での教育等(3件まで) なし
教育に関するその他の活動 とくになし

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 道徳教育 2. 日本倫理思想
現在の研究課題(3件まで) 1. 学校における道徳教育の理論と実践 2. 日本近世の倫理思想・儒家思想の展開
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 生命を尊重する心を育む学校教育 平成 16 年 9 月 『中等教育資料』No. 820 2. 子どもの心の問題と豊かな人間性育成への方途 平成 16 年 1 月 『初等教育資料』No. 777 3. 道徳・特別活動の原点を探る. 平成 14 年 3 月 文溪堂『道徳と特別活動』216 巻
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本道徳教育学会、日本道徳教育方法学会、日本倫理学会、関西倫理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府総合開発審議会委員 (H14) 2. 京都府道徳的実践活動推進会議委員 (H14, 15, 16) 3. 京都府生涯学習審議会委員 (H16) 4. 京都市野外活動振興財団理事 (H14, 15, 16) 5. 京都市道徳教育振興市民会議委員 (H14, 15, 16)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : H16 理事・副学長 教授会選出: 学長委嘱 : H14・15 副学長
高等教育機関への授業提供
講演テーマ(3件まで) 1. 道徳教育と道徳の時間 2. 家庭における父親 3. 青少年の心理と倫理
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 独立行政法人教育研修における教員研修講座(道徳教育)を毎年1、2回担当している。

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	手島 光司 (てしま こうじ)
所属講座・分野・職名	14・15年度 / 技術教育講座・機械分野・教授(副学長併任) 16年度 / 法人理事・副学長
学位 / 取得年・資格(機関)	工学博士 / 1972年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院工学研究科(1965年)
赴任年月	1987年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 平成14年度：機械工学特講（単、1） 中等工業科教育（単、7） 同（単、4） 小学校技術教材論（分、17） 機械基礎実習（分、19） 機械工学実験（単、2） 情報基礎実験（分、15） 平成15年度：技術基礎（単、22） 小学校技術教材論（単、2） 機械基礎実習（分、15） 機械工学実験（単、3） 情報基礎実験（分、19）
大学院の授業担当実績（受講者数の()内は、現職者数） 平成14年度：技術教育特講（分、6） 平成15年度：技術教育特講（分、1）
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 2人、一般企業 2人、 H15 0人、 修士論文指導の実績と進路 H14 0人、 H15 一般企業 1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1．卒業論文：HTMLによる技術科教育分野の指導に必要な知識の構造化 2．卒業論文：障害物まわりの非圧縮性流れの数値計算
附属学校での教育等(3件まで)
教育に関するその他の活動

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 技術教育 2. 機械工学 3. 航空宇宙工学
現在の研究課題(3件まで) 超音速噴流に関する研究, 中等教育における技術教育のあり方
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. エネルギー変換の学習を目的としたスターリングエンジンの教材としての応用、芝原寛泰、小栗栖 隆、手島光司、関根文太郎、住田光弘、京都教育大学教育実践研究紀要 第2号 平成14年3月 pp.91-100.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. DSMC Simulation of Axisymmetric Supersonic Free Jets, Koji Teshima and Masaru Usami, Computational Fluid Dynamics Journal, Vol.10, No.4, 2002, pp.525-530. 2. 高圧力比における超音速希薄自由噴流のDSMC計算、宇佐美勝、手島光司、日本機械学会論文集(B編)68巻666号 平成14年2月 pp.344-351.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本産業技術教育学会、日本機械学会、日本航空宇宙学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 京都市教育委員会「市立高校における今後の工業教育のあり方に関する検討プロジェクト」座長
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 理事・副学長(教務・学生指導担当)(16年度) 学長委嘱 : 副学長(教務・学生指導担当)(13年度~15年度)
講演テーマ(3件まで) 1. 大学から見た大学と高校との連携 2. これからの大学入学試験・教員養成大学の立場から
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	植山 俊宏 (うえやま としひろ)
所属講座・分野・職名	国語教育講座・国語科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1984 年
最終修了大学院(修了年)	広島大学大学院博士課程後期満期退学 (1987 年)
赴任年月	1987 年 4 月

教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 国語教育概説(単、55)、国語科教育演習 (単、40)、国語科教育演習 (単、20)、国語科教育特講 (単、10)、 国語科教育特講 (単、25)、初等国語科教育(A)(単、100)、初等国語科教育(B)(単、120)、基礎ヒナ(単、日本語文化)(6)
大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数) 国語科教育特別演習 (単、4)、国語科授業研究(単、4)、国語科教育特別研究(共、4)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 9人、教員(専任)5人、教員(非常勤)3人、一般企業1人 H15 3人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、教育関係1人 修士論文指導の実績と進路 H14 0人、 H15 1人、教員(専任)1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 1人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 短歌教育に関する研究 2. 高等学校小説指導の研究 3. 俵万智の受容研究
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属京都中学校における短歌創作の授業(院生との共同授業、H15) 2. 附属京都中学校のランゲージ科目の学生参加型授業(H15) 3. 附属京都小学校国語科教員との共同授業研究・授業研究大会(H14・15・16)
教育に関するその他の活動 1. 京都市立朱雀第七小学校指導講師(公開授業授業者)(H15) 2. 大阪府立今宮高校公開授業授業者(H16.7) 3. 滋賀県立水口東高校公開授業授業者(H16.6)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 説明的文章指導 2. コミュニケーション能力の発達 3. 大学生の作文教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 戦後説明的文章指導論史 2. コミュニケーション能力の発達に関する調査研究 3. 短歌・俳句文学の授業研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 植山俊宏/2004/診断的評価の方法と試行/朝倉国語教育講座5 授業と学力評価/pp126-142/朝倉書店 2. 植山俊宏/2003/説明的文章における<対話>の基点 <説得的表現>への反応力育成・実践国語研究 249/pp.192-198 /明治図書 3. 植山俊宏/2002/説明的文章の領域における実践研究の成果と展望/国語科教育学研究の成果と展望/pp277-286/全国大学国語教育学会
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 植山俊宏/2004/『めぐる輪』の中で生きる」の新しさとその指導/実践国語研究 258/pp.52-56/明治図書 2. 植山俊宏/2004/戦後説明的文章指導論の展開(6) 説明的表現への重点化を中心に・教育学研究紀要 /中国四国教育学会 3. 植山俊宏/2003/国語科教育・理科教育共同による教科間の認識方法の相違に着目した基礎的研究/平成13・14年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書/全63p
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C)(2)平成13・14年度研究代表者/国語科教育・理科教育共同による教科間の認識方法の相違に着目した基礎的研究 基盤研究(C)(1)平成15・16・17年度研究代表者/相互評価の視点・発達の見地に立つ教員養成のための文章表現指導に関する実践的研究 基盤研究(B)(1)平成15・16・17年度 研究分担者/コミュニケーション機能・意識に着目した方言・地域語教育の再構築に関する総合的研究 基盤研究(B)(1)平成13・14・15年度研究分担者/国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する実証的・実践的研究 基盤研究(B)(1)平成16・17・18年度研究分担者/国語科教育改善のための言語コミュニケーション能力の発達に関する実験的・実践的研究
所属学会 全国大学国語教育学会 日本国語教育学会 教育方法学会 日本教科教育学会 表現学会 中国四国教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 尼崎市教育委員会研究指定尼崎市立園和北小学校指導講師(H13~H16) 2. 文部科学省学力向上フロンティア京都府夢・未来校指定亀岡市立南つつじヶ丘小学校学習指導カウンセラー(H14・15) 3. 枚方市教育委員会研究指定枚方市立枚方第二小学校指導講師(H15・16) 4. 園部町教育委員会園部町立小学校指導講師(H16) 5. 心を育て合う短詩型創作の授業(論考)「京都新聞」H16.7.23朝刊寄稿記事
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: H13 後期~H15 企画委員会委員・H16 F・D 委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 学力の未来、学力の将来(H15 京都府教育委員会連合会総会講演題目) 2. 短詩型文学の創作教育 3. 説明的文章指導論
高等教育機関への授業提供 1. 奈良教育大学大学院集中講義「国語科教育特殊講義」(H15 前期)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	宗雪 修三 (むねゆき しゅうぞう)
所属講座・分野・職名	国語教育講座・古典文学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(文学) / 2003年
最終修了大学院(修了年)	名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程国文学専攻(1984年)
赴任年月	1994年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>平14 小学校教科専門国語(A)(分、129) 古典文学演習(単、4) 国文学演習(単15) 小学校国語科教材論B(単、12) 小学校教科専門国語(B)(分、40) 古典文学特講(単、7) 国文学概説(単、46) 古典文学特講(単、10) 平15 小学校教科専門国語(A)(分、150) 古典文学演習(単、3) 国文学演習(単、21) 小学校国語科教材論B(単、20) 古典文学特講(単、7) 小学校教科専門国語(B)(分、42) 古典文学特講(単6) 国文学概説(単、47) 平16 古典文学演習(単、7) 総合演習(A3)(単、12) 国文学演習(単、7) 小学校教科専門国語(A)(分、115)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>平14 国文学特別演習(単、2) 国文学特論(単、3) 国語科教育特別研究(分、4) 平15 国文学特別演習(単、3) 国文学特論(単、3) 国語科教育特別研究(分、4) 平16 国文学特別演習(単、4) 国語科教育特別研究(分、4)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 5人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、一般企業 1人 H15 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 源氏物語 2. 夏目漱石 3. 紫式部</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 特になし</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>特になし</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 語り 2. 言説 3. テキスト
現在の研究課題(3件まで) 1. 源氏物語のテキスト論的研究 2. うつほ物語の作品論的研究 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「初学者のための古典文学教育覚書 古文読解の指導法について」 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 『源氏物語歌織物』 2. 「『紫式部集』を読むー物怪と「こほふし」をめぐる」 3. 「宇津保物語、その離散的構造 王権をめぐる」
科学研究費補助金等の採択実績 特になし
所属学会 中古文学会 物語研究会 日本比較文学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 特になし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 特になし 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 特になし 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 特になし 教授会選出: 特になし 学長委嘱 : 学科主任
講演テーマ(3件まで) 1. 特になし 2. 3.
高等教育機関への授業提供 特になし
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 特になし

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	森山 卓郎 (もりやま たくろう)
所属講座・分野・職名	国語教育講座・国語学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	学術博士 / 1987 年
最終修了大学院(修了年)	大阪大学大学院 (1985 年)
赴任年月	1990 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>国文法論 (単 40) 小学校専門国語 A (分 110) 小学校専門国語 B (分 40)</p> <p>国語学特殊講義 (単 20) 情報・言語・コミュニケーション (単 110)</p> <p>国語音声学 (単 30) 国語学演習 (40) 国語科教材論 A (単 5)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>国語学特論 (4 (2))</p> <p>国語学特別演習 (4 (2))</p> <p>特別演習 (分担 4 (2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 11人、教員(専任)3人、教員(非常勤)4人、教育関係1人、一般企業1人、その他2人</p> <p>H15 6人、教員(非常勤)1人、公務員1人、一般企業1人、進学2人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、</p> <p>H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人(ノルウェイ)、H15 4人(インドネシア、タイ、研究生としては(中国))</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 共通語や方言の分析 (関西における朗読音声の共通語化、関西方言の文末表現、山口方言、等)</p> <p>2. 子どもの心の成長と言葉に関するもの (漢字学習、こどものけんかのディスコース、言葉遊びの分布や変化 等)</p> <p>3. 社会における言葉 (商品のネーミング、呼称、広告のことば 等)</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>一般向け講演の講師 (帝塚山学院大学主催、龍谷大学主催等)、社会人講義 (嵯峨野高校)</p> <p>小学校・支部主催の研究会の講演の講師 (南大内小、明德小、第五向陽小、深草小、池田小学校等)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 日本語学 2. 日本語教育学 3. 国語教育学
現在の研究課題(3件まで) 1. 日本語のモダリティ 2. 語用論(日本語のコミュニケーション) 3. 応用言語学(国語教育と言葉)
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2002 『平成14年度版 小学校 国語』(共編)光村図書 2. 2002 『平成14年度版 中学校 国語』(共編)光村図書 3. 2002 『言語指導の方法』(共編著:宮地 裕 樺島忠夫 光村図書) 等関連資料多数、その他論文等
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2002.7 『表現を味わうための日本語文法』岩波書店 全204 2. 2003.12 『コミュニケーション力をみがく・日本語表現の戦略』NHK出版 3. 2002.12 「小学生はいかに文を解釈するか・同一性解釈の計算から」 『日本語文法』3-2 pp.58-80 等論文多数
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究C 平成14・16 分担者 日本語教科教育文法の改善に関する基礎的研究 基盤研究C 平成14・16 分担者 中国語母語話者のための日本語教育の文法に関する基礎的研究
所属学会 日本語学会、日本言語学会、日本語教育学会、日本語文法学会

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日本教育大学協会 コアカリキュラムワーキンググループ 委員(国語担当) 2. 城陽市立深谷小学校学校評議員 3. 講演会等での講師 一般向け講演の講師(帝塚山学院大学主催、龍谷大学主催等)、社会人講義講師(嵯峨野高校) 小学校・支部・研究会等主催の研究会の講演講師(南大内小、明德小、第五向陽小、深草小、池田小、淡路農業高校、萱野中、衣笠小、等)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. イタリア日本語教育学会 講演会講師 (2003 ローマ大学) 2. 「日語系教学問題之探討」 研討会講師 (2002 台湾・銘伝大学) 3. 韓国日本学会大会 講演会講師 (2002 韓国・成均館大学校) 4. 中国政府派遣高級研究員(天津外大教授)の受け入れと共同研究(2002)
管理運営に関する活動実績 教授会選出:環境整備等委員会(副委員長14)、 予算委員会委員(16)
講演テーマ(3件まで) 1. 本当は楽しい日本語文法 2. コミュニケーションの力・言葉の力を伸ばすために 3. 日本語教育と文法
高等教育機関への授業提供 国文法論14-16前期(コンソーシアム京都)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 文章能力検定協会に関する活動(14.15年度)等

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	駒田 聡 (こまだ さとし)
所属講座・分野・職名	国語教育講座・日本語日本事情分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1987 年
最終修了大学院(修了年)	大阪外国語大学 (1987 年)
赴任年月	1997 年 4 月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>「日本事情 A」(単、30)「日本事情 B」(単、30)「日本語 C」(単、15)「日本語 D」(単、15)「日本語 C」(単、15) 「日本語 D」(単、15)「日本語教育概説」(単、30)「日本語教育概説」(単、30)「日本語教育演習」(単、10) 「日本語教育演習」(単、10)「日本語教育特講」(単、10)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>「応用言語学特論」(単、5(1))「国語科教育特論」(分、3(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任) 3人、一般企業 2人、進学 1人 H15 6人、教員(専任) 3人、一般企業 2人、進学 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>日本語日本文化研修生 H14 3人、H15 3人、 教員研修留学生 H14 0人、H15 3人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 方言研究 2. 現代日本語研究 3. 言語の位相研究</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 京都小学校・外国人児童生徒教育研究授業 2. 桃山中学校・帰国児童・生徒教育研究授業 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>高校生に対する大学体験講義 5件</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 国際教育 2. グローバル教育 3. コズモポリタン教育
現在の研究課題(3件まで) 1. グローバリゼーションと教育 2. 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 駒田聡(2003) International Education and Cosmopolitanism (dissertation), Sheng Khuang Teacher Colleges Directors Society. Dongkhamsan Teacher College (Laos PDR), 2003.12.6. 2. グループ・ジャマシイ(2002)『中文版 日本語文型辞典(繁体字)』くろしお出版 3. グループ・ジャマシイ(2002)『中文版 日本語句型辞典(簡体字)』くろしお出版
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 駒田聡他訳(2004) ROY, Arundhati (2004) Do Turkeys Enjoy Thanksgiving?: A Global Resistance to Empire. (七面鳥は感謝祭を楽しんでいるか? : 帝国に対するグローバルな抵抗) ZNet/Japan 2. 駒田聡(2004)「ラオス報告」『スペースA K通信』 .34:1-3、スペースA K運営連絡協議会 3. 駒田聡(2003)「大学教育で求められる日本語能力」『日本語教育新聞』第14号、日本語教育新聞社、p.3
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 Comparative and International Education Society 日本グローバル教育学会 異文化間教育学会 留学生教育学会 日本語教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都教育大学映画研究会(2004) 2. 国際協力 NGO “DFC” 代表(2002~) 3. 公開講座「日本語教育入門」担当(2002) 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 国際交流談話会事務局長(2002) 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 国際交流委員会副委員長 教授会選出 : 教育実践研究センター運営委員会委員 学長委嘱 : 国際交流委員会委員・留学生委員会委員・国際交流会館運営委員会委員
講演テーマ(3件まで) 1. 教員養成大学における国際交流 2. 文化とは何か 3. 異文化間教育とは何か
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	谷口 匡 (たにくち ただし)
所属講座・分野・職名	国語教育講座・漢文学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1987 年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院 (1990 年)
赴任年月	2002 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>漢文学概説 (単、60) 漢文学特講 (単、15) 漢文学特講 (単、10) 漢文学演習 (単、17) 漢文学演習 (単、3)</p> <p>小学校国語科教材論 (単、4) 中国文学 (単、40) 基礎セミナー (共、16) 総合演習 (単、16)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>漢文学特論 (単、3 (1)) 漢文学特別演習 (単、3 (1)) 国語科教育特別研究 (分、4 (2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員(非常勤)1人、教育関係1人、一般企業1人</p> <p>H15 3人、教員(専任)1人、進学1人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 『山海経』における神、獣の研究 中国文学の桃源伝説における“桃”の意味 中国古小説における方士の研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 京都小学校の「ランゲージ」において「漢詩の世界を楽しもう」を担当 京都小学校の「ランゲージ」において漢詩の音読・創作を担当
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>大阪教育大学附属天王寺中学校における漢詩創作授業の補助</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 中国文学 2. 漢文学 3. 日本漢文学
現在の研究課題(3件まで) 1. 中国唐代の散文文学 2. 中国における散文文学の発展史 3. 江戸時代の漢詩文
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 谷口匡「小学校における漢詩の音読」・2004年・『京都教育大学教育実践研究紀要』4号・1～9頁
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 青木五郎・2004年『新釈漢文大系 史記十一(列伝四)』明治書院・114～141頁および239～403頁 2. 谷口匡・2003年「下関と頼山陽」・『斯文』111号・1～14頁 3. 谷口匡・2002年「頼山陽と下関の商人広江殿峰」・『産業文化研究所所報』12号・19～31頁
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本中国学会・中国文化学会・全国漢文教育学会・中国古典学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 平成16年度高等学校教職経験10年研修「教科指導演習」講座国語科講師 2. 平成16年度京都府教育職員免許法認定講習「漢文学」講師 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出：入試委員(H16年度) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 日本の「史記」研究 2. 「唐詩」について 3. 中国の文章を読む
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	日比 嘉高 (ひび よしたか)
所属講座・分野・職名	国語教育講座・国文学分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(文学) / 2001年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院博士課程修了(2001年)
赴任年月	2004年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>国文学特講(単、35) 近現代文学特講(単、20) 国文学演習(単、5) 近現代文学演習(単、15)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>国文学特論(単、5(0))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 近代日本文学 2. 近代日本文化 3. 表象文化論
現在の研究課題(3件まで) 1. 日系アメリカ移民の日本語文学 2. 私小説 3. 文学史論の拡張
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 日比嘉高「自己を語る枠組み 中等修身科教育と自我実現説」『国語と国文学』2000年7月、第77巻7号 pp.41-54 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 日比嘉高「漱石の「猫」の見たアメリカ」筑波大学文化批評研究会編集・発行、『翻訳の圏域』2004年2月、pp.227-243 2. 日比嘉高「城からの眺め」米村みゆき編『ジブリの森へ 高畑勲・宮崎駿を読む』2003年12月、森話社、pp.56-81 3. 日比嘉高『自己表象の文学史 自分を書く小説の登場』2002年5月、翰林書房
科学研究費補助金等の採択実績 学振 DC2(1999-2001、代表者)、若手 B(2)(2003-6、代表者) 若手研究 B 平成 15～16年 代表者 20世紀前半期における<文学青年>の社会的形成過程とその表象
所属学会 日本近代文学会、日本文学協会、明治美術学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出 : 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 日本近現代文学について 2. 日本の近代文化について 3. 日系アメリカ移民の文学について
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	浜田 麻里 (はまだ まり)
所属講座・分野・職名	日本語教育講座・日本語教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1988 年
最終修了大学院(修了年)	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学(1990 年)
赴任年月	2004 年 3 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー・日言(単、8) 言語文化概論Ⅰ(単、45) 社会言語学(単、18) 日本語教育概説Ⅰ(単、11)</p> <p>日本語教育特講(単、5)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>応用言語学特論Ⅰ(単、3(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 日本語教育 2. 第2言語習得 3. ナラティブ分析
現在の研究課題(3件まで) 1. 日本語学習者の学習認知 2. 非母語話者日本語教師の研究 3. 第2言語学習者の語りの分析
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 中国大学生怎樣学日語?・日語専業本科生“言語学習信念”調査(原文中国語・中国の大学生はどのように日本語を学んでいるか・日本語専攻4年制大学生「言語学習ピリフ」調査)北京日本学研究中心『日本学研究』13期 2003.12 pp. 85-90(6頁) 2. エンパワメントとしての日本語教育 岡崎洋三他編『人間主義の日本語教育』(凡人社)2003.6 pp.207-226(20頁)三登由利子,他3名との共著 3. 出会うことの意味・相互交渉型適応支援としてのインタビュープロジェクト・大阪大学留学生センター『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』6号 2002.3 pp.1-16(16頁)他5名との共著
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 書評 甲田直美著『談話・テキストの展開のメカニズム・接続表現と談話標識の認知的考察』(風間書房,2001年)日本語文法学会『日本語文法』3巻1号 2003.3 pp.127-134(8頁)
科学研究費補助金等の採択実績 ・基盤(C)(1)平成 12-15 年度・代表者「運用力養成を目指した文法シラバス作成のための談話・文章の総合的研究」 ・基盤(C)(2)平成 13-15 年度・分担者「日本語学習者と環境との相互作用に関する研究」 ・基盤(C)(1)平成 16-18 年度・代表者「非母語話者日本語教育研究者の養成に関する基礎的研究・中国出身現職教師を中心に」
所属学会 日本語教育学会、全国語学教育学会(JALT)、日本語文法学会、社会言語科学会、日本言語政策学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 国際交流基金関西国際センター 研修事業評価委員(平成 14-16 年度) 2. 国立国語研究所 論文集『日本語総合シラバス』(仮称)刊行委員会委員(平成 16 年度)。
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市国際交流協会 国際理解教育ボランティアプロジェクト(通称 PICNIK)ワーキンググループ メンバー(平成 16 年度) 2. 大阪府外国人児童・生徒教育協議会研修会パネルセッションコメンテーター(テーマ:日本語教育・母語教育と進路)(平成 15 年度) 3. 財団法人とよなか国際交流協会 研究調査委員(平成 15 年度) 4. 国際人権トークツアー「あなたにはどんな空がみえますか」実行委員(平成 15 年度)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 多文化共生社会と日本語教育 2. 3.
高等教育機関への授業提供 日本語(京都橘女子大学) 社会言語学(千葉大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	田岡 文夫 (たおか ふみお)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・経済学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	経済学修士 / 1977 年
最終修了大学院(修了年)	名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程 単位取得満期退学 (1980 年)
赴任年月	1981 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>現代文明論 (分(2名) 140)、経済学 (単、80)、経済学概論 (単、120) 現代経済論 (単、50)、マクロ経済学 (単、80)、ミクロ経済学 (単、80) 経済学演習 A, A(単、15)、経済学演習 B, B(単、15)、小学校社会科教材論 (分(2名) 3~5)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>経済学特論 (単、10(1)) 経済学特別演習 (単、10(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 9人、教員(専任)3人、一般企業 1人、進学 2人、その他 3人 H15 11人、公務員 2人、一般企業 4人、進学 1人、その他 4人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 1人、一般企業 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、 H15 1人(以上は特論,演習参加者数) 研究生 H14 0人、 H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>学部 H14 2人、 H15 3人(以上は演習参加者数) 大学院生 H14 1人、 H15 4人(以上は特論,演習参加者数)</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 「京都における産業連携と産業クラスター」(H15 卒論) 2. 「企業の社会的責任 私たちにできること」(H15 卒論) 3. 「WTO加盟後の中日経済関係の現状と課題」(H15 修論)</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 教育実践総合センター交流会議社会科分科会代表として研究会を主催</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. マクロ経済学 2. 日本経済論 3. 知識経済学
現在の研究課題(3件まで) <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済の国際マクロ経済学的分析 2. 遠隔医療、遠隔教育の経済効果分析 3. 経済成長理論の知識経済学、教育経済学的アプローチ
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) <ol style="list-style-type: none"> 1. Tsuji, M., and F. Taoka (2004) "Issues of International Distance Learning: Lesson Learned from the Experience of Osaka University" Conference papers of AAOU, Shanghai (forthcoming) 2. Tsuji, M., F. Taoka and D. Kubo (2002) "Comparative Analysis of International Distance Learning: ISDN V.S. The Internet," Conference Papers of CRIDALA, Hong Kong 3. Tsuji, M., D. Kubo, F. Taoka and M. Teshima (2002) "The Role and Issues of International Tele-Education: Lessons Learned from the Japanese Experience," Conference Papers of AAOU, Delhi
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) <ol style="list-style-type: none"> 1. 田岡文夫(2004)「山口県三隅町における在宅健康管理システムの導入事前調査研究」『郵貯資金研究』第13巻, pp.66-94. 2. 辻正次・鈴木亘・田岡文夫(2004)「遠隔医療分野におけるプロジェクト評価」『NIRA(総合研究開発機構)研究報告書』No.20030030, pp.200-225 3. Tsuji, M., W. Suzuki and F. Taoka (2003) "An Empirical Analysis of the Assessment of the Tele-Health System and Cost-Sharing," Journal of Telemedicine and Telecare, Vol.9, pp.41-43
科学研究費補助金等の採択実績 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2003年度 簡保文化財団研究助成金, 研究分担者 2. 2002年度 郵貯資金研究協会 研究助成金 研究代表者(単独)
所属学会 1. 日本経済学会 2. 日本経済政策学会 3. 生活経済学会 4. 情報通信学会
研究に関するその他の活動 大阪大学大学院国際公共政策研究科 地域経済研究センター 客員研究員

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) <ol style="list-style-type: none"> 1. 講演(2004, 2003) 京都市ライオンズクラブ その他 2. 京都府総合教育センター 夏期研究講座講師(2004) 3. 山口県三隅町「在宅健康管理システム導入事前調査」(2003.7) その他調査
国際交流に関する活動実績(主な5件) <ol style="list-style-type: none"> 1. 上海師範大学との交換授業 上海師範大学集中講義出講(2004.3.10~15) 2. 上海師範大学からの国費留学生(2004.10~2006.3)の指導教員
管理運営に関する活動実績 <p>法人 : 平成16年度教育研究評議会委員(現在)</p> <p>教授会選出: 人事委(H14.11~現在)</p> <p>学長委嘱 : 教育研究振興基金委(発足時~H16.3) 同窓会担当者(現在) ホーム・カミング・デー企画委(現在)</p>
講演テーマ(3件まで) <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済、世界経済の現状、諸問題に関する講演 2. 経済以外に、政治、社会、教育の諸問題に関する講演
高等教育機関への授業提供 帝塚山大学経済学部 非常勤
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 本学同窓会理事

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	武田 一郎 (たけだ いちろう)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・地理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1983 年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院地球科学研究科 (1983 年)
赴任年月	1987 年 4 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 地誌学概論(単・46), 自然地理学(単・65), 自然地理学(単・23), 風土と文化(単・160), 地域調査法(単・45), 地誌学臨地実習(単・12), 地理学演習 A(単・5), 地理学演習 B(単・6), 基礎ゼミ(環d)(単・8) (H16年度に「自然地理学」と「自然地理学」を統合し「自然地理学」とした)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 自然地理学特論(単・7(2)), 自然地理学特別演習(単・6(1)), 社会科教育特別研究(共・7(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 3人、教員(専任)1人、その他 2人 H15 5人、教員(非常勤)1人、一般企業3人、その他 1人
修士論文指導の実績と進路 H14 0人、 H15 0人、
現職者の指導実績 大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 長野県におけるスキー場の開発過程と立地類型 2. 滋賀県琵琶湖における外来魚リリース禁止の普及に関する検討 3. 京都市立の小中学校における校歌とランドマーク
附属学校での教育等(3件まで) 1. 2. 3.
教育に関するその他の活動 硬式テニス部(男子部)顧問(H16年3月まで); 女子バスケットボール部顧問(H16年4月~) 教養教育特別講義「風土と食文化」講師(H15年1月25日)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 海底砂州 2. 後浜上限高度 3. 海岸砂礫堤
現在の研究課題(3件まで) 1. 後浜上限の位置と高度に関する研究 2. 海岸砂礫堤の高度と後氷期海水準上昇量との関係
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 武田一郎, 海岸で野外活動を指導する際の安全面に関する留意点・地形学の観点から, 2002, 京都教育大学紀要, B (自然科学), No.100, pp. 1-12. 2. 武田一郎, 地理資料シリーズ(地形)2項目(「砂嘴」, 「ラグーン」), 2002, 地理・地図資料付録(帝国書院). 3. 武田一郎, 最新地理学用語辞典「海岸線」ほか16項目「浮田典良編(大明堂)」2002, 青木栄一ほか149名.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. I. Takeda, Stability and height of the landward limit of the backshore at Japanese beaches, 2003, Journal of Coastal Research, 19-4, pp. 1082-1093 2. 武田一郎, 2003, パーの段数と後浜上限高度との関係, 地形, 24-4, pp.407-417.
科学研究費補助金等の採択実績: 科学研究費補助金基盤研究(C)(2), 2002, 代表者, 日本沿岸の砂礫堤高度と後氷期海進の海水準上昇量
所属学会: 日本地理学会, 日本地形学連合
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教学支援室室員(平成16年4月~現在) 教授会選出: 自己点検評価委員会委員(H13年11月~H14年10月:副委員長; H14年11月~H16年3月:委員長) 学長委嘱 : 再編統合に関わる課題別検討会委員(H14年3月~H14年8月); 新学部構想作業部会委員(H14年8月~H15年3月); 法人化準備委員会委員(H14年11月~H16年3月); 学部改組検討委員会委員(H16年4月~H16年7月)
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	平石 隆敏 (ひらいし たかとし)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・哲学倫理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1983 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院文学研究科 (1986 年)
赴任年月	1994 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー(単、16)、哲学(単、62)、哲学(単、124)、人権問題論(分、200)、環境倫理(単、96)、総合演習(単、18)、社会哲学特講(単、15)、社会哲学演習・A(単、8)、社会哲学演習・B(単、8)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>社会哲学特論(単、4(1))、社会哲学特別演習(単、2(1))、社会科教育特別研究(分、10)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、公務員 1人、一般企業 2人、進学 1人 H15 2人、一般企業 1人、その他 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 1人、その他 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 生命倫理学に関連するテーマ 2. 情報社会論・メディア論に関連するテーマ 3. 思想史に関連するテーマ</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 社会哲学 2. 倫理学 3. 応用倫理学
現在の研究課題(3件まで) 1. 道徳的多元主義 2. 自尊心の倫理的意味 3. NIE(新聞活用教育)
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 自尊心と道徳性、『京都教育大学紀要A』第104号、2004、pp.61-71
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 子どもの自己決定について考える、『京都教育大学紀要A』第100号、2002、pp.49-63
科学研究費補助金等の採択実績 基盤 B1、2001-03年度、分担者、「21世紀日本の重要諸課題の総合的把握を目指す社会哲学的研究」
所属学会 日本倫理学会、日本哲学会、日本生命倫理学会、関西倫理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 企画調整室室次長(2004年4月~) 教授会選出: 企画委員会委員(2002年11月~2004年3月)、FD委員会委員(2000年11月~2002年10月) 学長委嘱 : 法人化準備委員会委員(2002年7月~2004年3月)、自己点検評価委員会専門部会委員(2002年1月~2003年3月)
講演テーマ(3件まで) 1. 現代社会の倫理的諸問題に関するテーマ 2. 倫理・道徳性に関するテーマ 3. NIEに関するテーマ
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	水山 光春 (みずやま みつはる)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・社会科教育学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	修士(学校教育学) / 1992年
最終修了大学院(修了年)	兵庫教育大学学校教育研究科(1992年)
赴任年月	1998年4月



教育に関する活動実績

学部 の授業担当実績 中等社会科教育 (単, 50), 中等社会科教育 (単, 45), 中等社会科教育 (単, 31), 社会科授業研究 A (単, 14), 社会科授業研究 B (単, 4), 社会科教育基礎演習 (単, 5), 社会科教育基礎演習 (単, 1), 小学校教科専門社会(分, 95), 小学校教科専門生活(C) (分, 46), 総合演習 (共, 14)
大学院 の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 平成14年度: 社会科教育特論 (単, 4), 社会科教育特別演習 (単, 5(1)), 社会教育特別研究 (単, 4) 平成15年度: 社会科教育特論 (単, 10(1)), 社会科教育特別演習 (単, 5), 平成16年度前期: 社会科教育特論 (単, 9(2)), 社会教育特別研究 (単, 8(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 1人、教員(非常勤)1人、 H15 1人、進学1人、 修士論文指導の実績と進路 H14 3人、現職者2人、教員(非常勤)1人、 H15 1人、教員(専任)1人、
現職者の指導実績 大学院生 H14 2人、
留学生の指導実績
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 小学校社会科における異文化理解教育 2. 英国シチズンシップ教育に学ぶ中学校社会科公民学習に関する考察 3. 社会科歴史教育における共感的理解を組み込んだ意思決定型授業
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属桃山地区学校園研究発表会指導・助言者(H14) 2. 附属高等学校研究発表会指導・助言者(H15)
教育に関するその他の活動

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 社会科教育 2. 環境教育 3. シティズンシップ教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 社会科における市民的資質の育成, 2. 環境教育カリキュラムの開発 3. 日・英シティズンシップ教育比較
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 水山光春・高乗秀明編(2003): 京都教育大学生と一般他大学生との「合同教育実習」に関する研究, 平成14年度京都教育大学 教育研究改革・改善プロジェクト研究報告書 2. 水山光春(2002.4~2003.3): 校長講話に使える“京都のナゾ” 学校運営研究, 明治図書
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 水山光春(2004): 英国の新教科「Citizenship」に学ぶ, 京都教育大学教育実践研究紀要, 第4号, pp.29-44. 2. 水山光春(2003): 「合意形成」の視点を取り入れた社会科意思決定学習, 社会科研究, 第58号, pp.11-20. 3. 水山光春(2002): 中学校における環境教育の実践と課題, 川嶋宗継他編, 環境教育への招待, ミネルヴァ書房, pp210-218.
科学研究費補助金等の採択実績 水山光春(研究代表): 「循環型社会」認識をめざす小中高等学校一貫による社会科環境教育カリキュラムの開発(科研費・基盤研究(C)(2), H14~H15年度), 水山光春(研究代表): 社会科公民教育における英国シティズンシップ教育の批判的摂取に関する研究(科研費・基盤研究(C)(1), H16~H18年度)
所属学会 日本社会科教育学会, 全国社会科教育学会, 社会系教育教科教育学会, 日本公民教育学会, 日本環境教育学会

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 全国教室ディベート連盟 近畿支部 副支部長 2. 京都みやこエコロジーセンター 事業運営委員 3. 京都府長岡京市児童対策審議会委員 4. 大阪府環境教育推進方針策定検討委員会委員
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 科研費・基盤研究(H16~H18年度)「社会科公民教育における英国シティズンシップ教育の批判的摂取に関する研究」に関する共同研究(with Dr Ian Davies, York Univ.)
管理運営に関する活動実績 法人 : 大学評価室 室員(H16年度) 教授会選出: 大学院運営委員会 委員(H14~H15年度) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 学び方を学ぶ社会科学習 2. 社会科における市民的資質の育成 3. 英国の新教科シティズンシップと主題としての「環境」
高等教育機関への授業提供 社会科教育法・地理歴史科教育法(同志社大学)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	八塚 春児 (やつづか しゅんじ)
所属講座・分野・職名	社会科学教育講座・西洋史学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1975 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院(1978 年単位修得退学)
赴任年月	1979 年 4 月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>西洋史学(単、80)、外国史概説(単、70)、西洋時代史 , , , (単、15)、西洋史演習 A, B, A, B(単、10)、比較文化論(単、40)、社会化教科基礎 A(単、18)、基礎セミナー(社文)(単、18)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>西洋史特論(単、1)、西洋史特別演習(単、1)、課題研究(分、9(2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 8人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 9人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 西洋古代史 2. 西洋中世史 3. 西洋近現代史</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 西洋中世史 2. 十字軍 3. 宗教
現在の研究課題(3件まで) 1. 西洋中世史 2. 十字軍 3. 宗教
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会：
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出： 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	山下 宏文 (やました ひろぶみ)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・社会科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1982 年
最終修了大学院(修了年)	東京学芸大学大学院教育学研究科 (1982 年)
赴任年月	1996 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>初等社会科教育(A) (単、60) 初等社会科教育(B) (単、45) 中等社会科教育 (単、6) 社会科教材開発研究 B (単、4) 社会科教育演習 (単、5) 小学校教科専門社会 (分、96) 基礎セミナー (単、16) 学校教育観察・参加研究 (分、6) 総合的な学習の研究 (a) (分、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>社会科教育特論 (単、11(2)) 社会科教育特別演習 (単、5(1)) 社会科教育特別研究 (分、11) 社会科教育特別研究 (単、12)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14</p> <p>H15 1人、進学 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14</p> <p>H15 2人、現職者 2人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 2人、</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水文化教育の構想と実践 日本の歴史と水文化 2. 認知と態度の統合をめざす小学校社会科学習の在り方 3. 英国 Citizenship 教育から学ぶ中学校社会科公民分野の一考察
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 社会科教育 2. 環境教育 3. 総合的学習論
現在の研究課題(3件まで) 1. エネルギー環境教育 2. 森林文化教育 3. 神話教育
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 佐島群巳・高山博之・山下宏文編, 2004, エネルギー環境教育の学習用教材小学校編, 148p, 国土社 2. 佐島群巳・高山博之・山下宏文編, 2004, エネルギー環境教育の学習用教材中学校・高等学校編, 111p, 国土社 3. 山下宏文, 2002, 環境教育としての資源・エネルギー教育, 川嶋宗継他編, 環境教育への招待, 184-190, ミネルバ書房
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 山下宏文, 2004, これからの「総合的な学習の時間」の在り方, 広領域教育, 54: 16-32, 2. 山下宏文, 2004, これからの時代が求める環境教育, 尾木和英他編, 教育課題に応える教員研修の実際, 74-77, ぎょうせい 3. 山下宏文, 2002, 総合的学習とエネルギー環境教育の課題, 広領域教育, 50: 40-47
科学研究費補助金等の採択実績 エネルギー教育・地域拠点大学(研究分担者)
所属学会 日本社会科教育学会 全国社会科教育学会 日本環境教育学会 日本教材学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 文部科学省内地研究員, 総合的学習としての森林文化教育の理論的構築とカリキュラム開発 (東京大学大学院農学生命科学研究科)(2002)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 文部科学省学習指導カウンセラー(京都市立大藪小学校)(2003, 2004) 2. 福井県環境・エネルギー懇話会・環境・エネルギー教育問題懇談会座長(2003, 2004) 3. エネルギー教育調査普及事業企画推進委員(エネルギー環境教育情報センター, 経済産業省委託)(2002, 2003, 2004) 4. 森林・林業教育研修会講師(林野庁森林技術総合研修所)(2002, 2003, 2004) 5. 兵庫県森林環境教育セミナー講師(兵庫県みどり推進室)(2002, 2003, 2004)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学術委員会委員(2003, 2004) 学長委嘱: 学部改組検討委員(2003, 2004)
講演テーマ(3件まで) 1. これからの環境教育のあり方と課題 2. 学校における森林環境教育の進め方 3. エネルギー環境教育のカリキュラム開発
高等教育機関への授業提供 初等教科教育法(生活)(奈良教育大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 京都府教育職員免許法認定講習講師(2003) 東京都渋谷区立本町東小学校学校評議員(2002, 2003)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	和田 萃 (わだ あつむ)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・日本史学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(文学) / 1997年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院文学研究科 博士課程 (1972年)
赴任年月	1975年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>日本史概説(単80)、考古学(単30)、日本時代史(単30)、日本史資料購読 A(単25)、 日本史資料購読 B(単25)、日本史演習 A(単10)、日本史演習 A(単10)、日本史臨地実習(単8)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>日本史特論(単5) 日本史特別演習(単3)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係1人、公務員1人、一般企業 人、進学3人、その他1人 H15 6人、教員(専任) 人、教員(非常勤)1人、教育関係2人、公務員1人、一般企業1人、進学 人、その他 人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、現職者1人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係1人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係2人、公務員1人、一般企業1人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 出雲の古代文化 2. 日本古代の儀礼 3. 河内の古代歴史地理</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 日本古代史 2. 思想 3. 文化
現在の研究課題(3件まで) 1. 古代祭祀 2. 文字と言葉 3. 陵墓
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. . 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 『飛鳥 歴史と風土を歩く』(岩波新書) 2. 『奈良県の歴史』(共著、山川出版社) 3. 「神器論」(岩波講座『天皇と王権を考える 2』(岩波書店)
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 木簡学会、 日本歴史史学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 朝日カルチャー大阪 講座「古代逍遥」講師 2. 国土交通省大和川流域委員会委員 3. 奈良県環境審議会委員 4. 文化財審議会委員(大阪府藤井寺市、八尾市、奈良県田原本町、吉野町) 5. 高取城跡整備委員会委員、襟裳山古墳整備委員会委員、新沢千塚整備委員会委員、植山古墳整備委員会委員
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 教授会選出: 学部改組委員会委員
講演テーマ(3件まで) 1. 日本古代史 2. 飛鳥 3. 大和・河内の古代
高等教育機関への授業提供 日本古代の儀礼・祭祀・文化
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	伊藤 徹 (いとう とおる)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・哲学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(文学) / 2002年
最終修了大学院(修了年)	京都大学文学研究科博士後期課程(1985年)
赴任年月	1987年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>哲学 (単、35)、哲学 (単、50)、哲学演習 A(単、5)、哲学演習 A(単、5)、哲学演習 B(単、5)、 哲学演習 B(単、5)、哲学特論(単、40)、哲学概論(単、75)、現代思想特講(単、25)、小学校教科教材論A(分、3)、 小学校教科教材論B(分、16)、総合演習(単、17)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>現代哲学特別演習(単、3)現代哲学特論(単、5(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、教員(非常勤) 1人、一般企業 1人、 H15 0人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 1人、その他 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 日本近代精神史 2. ヨーロッパ精神史</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>とくになし</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>とくになし</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 哲学 2. 芸術論 3. 近代
現在の研究課題(3件まで) 1. 作ること 2. 日本近代精神史 3. ハイデガー
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) とくになし
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 伊藤徹 2003年『柳宗悦 手としての人間』 平凡社 全279頁 2. 伊藤徹 2003年「幻視された自己」 『日本哲学史研究』第1号(京都大学文学部日本哲学史講座) pp.16-34 3. 伊藤徹訳 2003年 G・フィガール『ハイデガー入門』、世界思想社、全215頁
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(B)(1) 2004年度 研究分担者 比較文明的アプローチにおける技術と自然の変容過程序説
所属学会 日本哲学会 日本現象学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) とくになし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) とくになし
国際交流に関する活動実績(主な5件) とくになし
管理運営に関する活動実績 法人 : 人権委員会委員 教授会選出: F D委員会委員 学長委嘱 : とくになし
講演テーマ(3件まで) 1. 「柳宗悦と大正の精神」(2003年日本哲学史フォーラム・京都大学文学部) 2. 「自然への通路・柳宗悦の直観概念」(2003年大谷大学哲学講演会)
高等教育機関への授業提供 とくになし
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 とくになし

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	荻野 雄 (おぎの たけし)
所属講座・分野・職名	社会科学教育講座・政治学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	法学修士 / 1992 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院法学研究科博士後期課程 (1994 年)
赴任年月	1996 年 10 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>政治学(単 65) 政治学概論(単 60) 比較政治学(単 40) 政治学演習 A・A・B・B(単 4)</p> <p>基礎セミナー(共 38) 政治学特講(単 40) 国際政治論(単 80) 現代文明論(分 150)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>政治学特論(単 6) 政治学特別演習(単 6)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 8人、教員(専任)1人、教員(非常勤)2人、教育関係1人、一般企業2人、進学1人、その他1人</p> <p>H15 0人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、教員(非常勤)1人</p> <p>H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自民党の派閥について 2. ヨーロッパの移民問題 3. 中劫・台湾関係に関する一考察
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 政治思想史 2. 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. ゲオルク・ジンメル 2. ジークフリート・クラカウアー 3. ナショナリズム
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 荻野雄 2004年9月 「探偵小説の哲学(1)」 『京都教育大学紀要』第105号 37-49頁 2. 荻野雄 2004年9月 「探偵小説の哲学(2)」 『京都教育大学紀要』第105号 51-64頁 3. 荻野雄 2004年9月 「柳宗悦における「文化」と「政治」」 『京都教育大学紀要』第105号 65-77頁
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 政治思想学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学生生活・就職対策委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	香川 貴志 (かがわ たかし)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・人文地理学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1986 年
最終修了大学院(修了年)	立命館大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得退学
赴任年月	1991 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>地理学概論(単、90)、京都地域論(単、90)、地域環境論(単、60)、地域計画論(単、25)、地理学演習 1A(単、5)、 地理学演習 1B(単、5)、総合演習(単、25)、基礎セミナー(単、20)、地理学臨地実習(単、10)、地域環境学臨地実習(単、10)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>人文地理学特論(単、5)、人文地理学特別演習(単、5)、社会科教育特別研究(共、10)、課題研究(共、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、一般企業1人、進学1人 H15 6人、教員(専任)2人、公務員2人、進学1人(M1在学中に教員(専任)に合格)、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 1人、その他1人(留学生・平成16年度前期修了)、この他に休学してタイ国で日本語教師をしている者が1名</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人:大学院1名、H15 3人:大学院1名、学部(基礎セミナー)2名、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 学習塾の立地に関する一考察---京都市右京区を例にして---</p> <p>2. 人口変化にみる千里ニュータウンの課題---住宅の老朽化及びマンションを絡めて---</p> <p>3. 広島市における路面電車の利用特性と今後の課題</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 附属養護学校での実習生の管理と指導(平成14年度)</p> <p>2. 附属高等学校での教育実習指導・助言(平成14・15年度)</p> <p>3. 附属桃山小学校・桃山中学校での教育実習指導・助言(平成14・15年度)</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>岡山大学集中講義(平成14年度・前期)、鳥取大学集中講義(平成14年度・後期)、社会科認定講習(平成15年度・前期)、 日本大学大学院特別講演(平成15年度・後期)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 人文地理学 2. 都市地理学 3. 地域研究
現在の研究課題(3件まで) 1. 住宅供給の研究 2. 人口高齢化の研究 3. コミュニティの変化に関する研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 香川貴志(2004)*編集委員長:『地理学文献目録 第11集』、古今書院、462p. 2. 香川貴志(2004):大学新生における調査能力とプレゼンテーション能力の育成---風景印を用いた平成15(2003)年度「基礎セミナー(社会文化)」での実践例---、京都教育大学教育実践研究紀要4、pp.45~54、. 3. 香川貴志(2003):東京を歩く---地下鉄銀座線沿線のフィールドトリップ、平成14(2002)年度「地理学臨地実習」「地域環境学臨地実習」の覚え書き---、京都教育大学教育実践研究紀要3、pp.27~38.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 香川貴志(2004):バブル期前後の東京大都市圏における分譲マンションの供給動向と価格推移、京都教育大学紀要105、pp.1~20. 2. 香川貴志(2003):バンクーバーとその周辺における中国言語語集団とパンジャビ言語語集団の分布パターンの変化、カナダ研究年報23、pp.101~107. 3. 香川貴志(2003):統計で見る京都---人口の都心回帰---、統計54-7、pp.10~17.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤(C)(2)平成14-16・代表者・バブル期以降における分譲マンション供給の都心回帰現象がもつ意味、 基盤(B)(1)平成14-15・分担者・アメリカ大都市圏の多核化とリージョナル・シティの空間構造に関する地理学的研究、 基盤(B)(1)平成14-15・分担者・21世紀の社会経済情勢下における我が国大都市圏の空間構造、 基盤(B)(1)平成14-15・分担者・地理学を核としたアジア研究データベースと研究者ネットワークの構築、 基盤(A)(1)平成16-18・分担者・社会経済構造の転換と21世紀の都市圏ビジョン---欧米のコンパクト・シティと日本の都市圏構造、 基盤(B)(1)平成16-18・分担者・中国大都市における住宅の市場化とその地域的展開、 基盤(C)(1)平成16-17・分担者・成熟時代における都市圏構造の再編とリバブルシティの空間構造に関する地理学的研究
所属学会 日本地理学会、人文地理学会、日本都市学会、都市住宅学会、経済地理学会、地理科学学会、東北地理学会、日本カナダ学会、近畿都市学会、京都教育大学史学会、立命館地理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 『地理学文献目録第11集』(古今書院、2004)、編集委員長

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 宇治市総合計画審議会委員(～現在)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 北京大学「天津経済技術開発区研究グループ」に帯同し、同・開発区で口頭発表「京阪奈文化学術研究都市の開発経緯と現状」(平成16年度・前期)
管理運営に関する活動実績 教授会選出:学生生活委員会委員(平成14・15年度、うち平成15年度は副委員長)、教務委員会委員(平成16年度)
講演テーマ(3件まで) 1. 都心居住をめぐる諸問題-京都およびバンクーバーの例-(日本大学大学院特別講演)
高等教育機関への授業提供 兵庫県南部地震による豊中市の被災状況(平成14年度・後期、京都府立桃山高等学校)、地震で危ない地域と住宅(平成15年度・前期、洛陽総合高等学校)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 特になし

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	武島 良成 (たけしま よしなり)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・近現代史学分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(歴史学) / 1999年
最終修了大学院(修了年)	名古屋大学(1998年)
赴任年月	2004年2月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>近現代史 (単、20)、日本史特講 (単、45)</p> <p>近現代史演習 (単、2)、社会科教科基礎B (分、10)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>近現代史特論(単、2)、社会科教育特別研究 (分、10)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 日本近代史 2. 東南アジア史 3. ビルマ史
現在の研究課題(3件まで) 1. 日本占領期のビルマ 2. 太平洋戦争に至る国際関係史 3. 歴史教育のあり方について
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) (特になし)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 武島良成、2003年、『日本占領とビルマの民族運動』龍溪書舎 2. 武島良成、2003年、「書評論文 倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』」、「東南アジア・歴史と文化」 32、45～63頁 3. 武島良成、2003年、「書評 明石陽至編『日本占領下の英領マラヤ・シンガポール』」、「歴史の理論と教育」115、 23～27頁
科学研究費補助金等の採択実績 国立歴史民俗博物館(基幹研究)、2004年度、分担者、「20世紀における戦争」 トヨタ財団(研究助成)、2001～2004年度、分担者、「日本占領期ビルマに関する総合的歴史研究」
所属学会 史学会、歴史学研究会、日本史研究会、東南アジア史学会、史学研究会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) (特になし)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. ミャンマー国立歴史研究院の史料収集活動への協力(2002～2003年) 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 日本の東南アジア占領について 2. 小中学校の歴史教科書の変化について 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	西城戸 誠(にしきど まこと)
所属講座・分野・職名	社会科教育講座・社会学分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(行動科学) / 2003年・専門社会調査士(社会調査士資格認定機構)
最終修了大学院(修了年)	北海道大学大学院(2003年)
赴任年月	2003年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>社会学(単、50) 社会学概論(単、30) 社会調査論(単、30) 社会調査実習(単、7)</p> <p>地域社会学(単、13) 現代社会論(単、30) 社会科教科基礎B(分、10)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>社会学特論(単、5) 社会学特別演習(単、5) 社会科教育特別研究(分、10)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>京都教育大学学生科研・助言教官(2003) 京都教育大学 e-project・助言教員(2004)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 社会運動論 2. 環境社会学 3. 地域社会学
現在の研究課題(3件まで) 1. 社会運動の計量的歴史社会学 2. 環境運動、生活クラブ生協に関する事例研究 3. まちづくり、NPOに関する研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 西城戸誠(編)『棚田に「保存」を問うてみる 2003年度京都教育大学学生科研報告書』京都教育大学社会学研究室 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 西城戸誠, 2004, 「ボランティアから反戦デモまで」, 大畑裕嗣ほか編『社会運動の社会学』有斐閣 2. 西城戸誠, 2003, 「戦後日本の環境問題に対する抗議活動の動態」『環境社会学研究』9号:107-123頁 環境社会学会 3. 西城戸誠, 2003, 「抗議活動への参加と運動の「文化的基盤」」『現代社会学研究』16号:119-136頁 北海道社会学会
科学研究費補助金等の採択実績 若手研究(B)/平成14-16年度・研究代表者・近現代日本の社会運動の盛衰と社会変動にかんする計量的歴史社会学 (財)旭硝子財団/平成16-17年度・研究代表者 転換期における地域集団の構造的変容と市民参加の仕組みづくりに関する総合的研究
所属学会 日本社会学会、環境社会学会、北海道社会学会、地域社会学会、日本都市社会学会、日本NPO学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 北海道NPOサポートセンター監事(1999.5~) 2. 山科川改善プロジェクト・アドバイザー(2004.3~) 3. 茨城県猿島郡総和町教育委員会・町史編纂委員会・民俗部会調査員(2001.4~) 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出:FD委員会(2004.4~) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 「調べる」という教育実践の可能性と課題 2. 「市民調査」による「地域社会」の再創造 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	石川 誠 (いしかわ まこと)
所属講座・分野・職名	地域科学講座・地域科学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(国際公共政策・大阪大学) / 1997年
最終修了大学院(修了年)	大阪大学大学院国際公共政策研究科(1997年)
赴任年月	1997年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>環境政策論(単, 30), 環境経済論(単, 40), 地域経済学概論(単, 20), 現代経済論(単, 35) 経済学(単, 25), 地域開発論(単, 53), 地域産業論(単, 16), 地域環境学演習 A A(単, 14), 地域環境学演習 B B(単, 14), 基礎セミナー(単, 8)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>経済学特別講義(単, 4(1)) 経済学特別演習(単, 4(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 5人、公務員 1人、一般企業 2人、進学 1人、その他 1人 H15 10人、一般企業 4人、進学 1人、その他 5人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 2人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. エコミュージアムによる地域づくりー東はりまため池ミュージアムの考察 2. 中山間地域における地域活性と環境保全 新潟県の取り組みについてー 3. 大岩街道周辺地の環境評価</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 経済政策 2. 研究開発 3. 環境保全
現在の研究課題(3件まで) 1. 研究開発促進のための経済政策 2. 環境保全のための経済政策 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 水山光春, 石川誠他4名「「循環型社会」認識をめざす小中高等学校一貫による社会科環境教育カリキュラムの開発」, 平成14~15年度科学研究費研究成果報告書, 平成16年3月
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 中津孝司, 石川誠他4名, 『ロシア東欧産業新地図』(共著), 創成社, 平成16年4月 2. 島敏夫, 石川誠他3名, 『イラク戦後の中東経済』(共著), 同文館, 平成16年4月 3. 石川誠, 「中国の科学技術政策の現状と課題-WTO加盟との関係」, 『京都教育大学紀要』, 第103号, 平成15年9月
科学研究費補助金等の採択実績 科研費基盤研究C 平成16年 研究分担者 「社会科公民教育における英国シチズンシップ教育の批判的摂取に関する研究」 科研費基盤研究C 平成14年 研究分担者 「循環型社会認識をめざす小中高等学校一貫による社会科環境教育カリキュラムの開発」
所属学会 日本経済学会・日本公共政策学会・研究技術計画学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 環境等整備委員会委員, 地域連携・広報委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 中部圏経済の現状 2. 標準化の経済的効果 3. 環境保全と経済政策
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	占部 博信 (うらべ ひろのぶ)
所属講座・分野・職名	数学教育講座・解析学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1978 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院 修士課程修了(1970 年) 博士課程 中途退学(1972 年)
赴任年月	1972 年 12 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>微分方程式(単、30) 偏微分方程式(単、25) 解析学序論(単、85) 解析学序論(単、35) 基礎セミナー(共、40) 小学校算数教科教材論C(単、10)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>解析学特論(単、2) 解析学特別演習(単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 7人、教員(専任)3人、教員(非常勤)2人、その他2人 H15 3人、教員(非常勤)1人、その他2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、現職者1人 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 2人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑系理論と数学教育 2. フーリエ解析について 3. 空間充填曲線の解析学的および幾何学的考察
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属高校 SSH 運営指導委員 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 値分布理論 2. 整関数 3. 有理型関数
現在の研究課題(3件まで) 1. 値分布理論とその応用 2. カオスとフラクタルおよび複雑系の理論と数学教育
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 空間充填曲線に関連するフラクタル数学 解析学からみた教材化の試みと実践例 (京教大教育実践研究紀要第4号('04))
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. A note on Permutable Entire Functions and Julia Sets, 京教大紀要 No.104 ('04) 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本数学会 数学教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 府教委の教科用図書選定審議会委員 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学術委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. フラクタルとは何か(府立洛北高校(H16年1月))
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	丹後 弘司 (たんご ひろし)
所属講座・分野・職名	数学教育講座・代数学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士(1975年)
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科修士課程(1971年)
赴任年月	1974年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>幾何学序論Ⅰ、幾何学序論、幾何学序論、現代代数学、数学基礎、数学基礎、代数学講究、基礎代数、基礎幾何、総合演習</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>課題研究(3(2))</p> <p>代数学特論 (3(1))</p> <p>代数学特論 (2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 8人、教員(専任)5人、公務員1人、進学1人、その他1人</p> <p>H15 4人、教員(専任)4人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、現職者1人</p> <p>H15 2人、現職者1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 2人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 凸体の幾何学と代数幾何学～扇とトーリック多様体～ 2. 2次局円の有無についてのp進数体の概念と平方剰余尾相互法則を用いての考察 3. Elliptic curve の有理点の研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. ベクトル束 2. 射影空間 3. グラスマン多様体
現在の研究課題(3件まで) 1. 射影空間上の低階数の不分岐ベクトル空間の研究 2. 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 明治初期の教科書と小学校制度 特に算数教育に関して 2. 高等学校学習指導要領(平成11年3月告示 平成15年度逐年実施)に基づく「数学科」の改定内容及び考察と課題 3. 素数と数学・コンピュータ教育
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. On Vector Bundles on P^n Which Have - Transition Matrices 2. On morphism from projective space P^n to the Grassmann variety $Gr(n, d)$ 3. On The Behavior of Extensions of Vector Bundles Under The Frobenius Map
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本数学会 日本数学教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府教育委員会 平成16年度学力向上フロンティアハイスクール推進協議会副委員長 2. 洛北高等学校 SSH 運営会議委員 3. 第51回近畿算数・数学教育研究京都大会 大会会長 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 人事委員長、大学院運営委員長、資格審査委員長 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 『個に応じた指導の在り方』 2. 確かな学力の向上にむけた取り組み 3. 不思議と自明
高等教育機関への授業提供 東舞鶴高等学校、宮津高校、京都橘高等学校
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	守屋 誠司 (もりや せいじ)
所属講座・分野・職名	数学教育講座・数学教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(情報科学) / 2000年
最終修了大学院(修了年)	東北大学大学院(2000年)
赴任年月	2001年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 初等算数科教育法 A (単, 100), 中等数学科教育法 (単, 45), 中等数学科教育法 (単, 40), 小学校専門算数(単, 40), 総合演習(単, 7), 基礎セミナー(共, 45), 数学科教育特論(単, 6), 数学科教育講究(単, 5), 数学科教育講究(単, 5)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 数学科教育特論(単, 3(2)), 数学科教育特別演習(単, 3(2)), 数学科教育特別講義(共, 3(2)), 課題研究(単, 2)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 7人、教員(専任)2人、教員(非常勤)3人、進学1人、その他1人 H15 5人、教員(専任)2人、教員(非常勤)2人、進学1人 修士論文指導の実績と進路 H14 0人 H15 0人
現職者の指導実績 大学院生 H14 2人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人
留学生の指導実績 学部研究生 H14 1人 大学院研究生 H14 1人
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 中学校における数学・理科を生かした総合学習の研究 2. 幼児期からの空間幾何学教育 3. 初等教育段階における論理教育の提案
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属京都中学校教育運営協議会委員(H15・H16) 2. 附属京都小・中学校教育実践協議会指導助言者(H14~) 3. 附属桃山小・中学校研究発表会指導助言者(H14)
教育に関するその他の活動 学力向上フロンティア事業実施校での講演・助言

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 数学教育 2. 遠隔教育 3. 幼児教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 情報社会に対応した数学カリキュラム 2. 創造性の育成を目指した遠隔協同学習 3. 幼児期における数学教育
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. Moriya S, A study on the international cooperative distance learning foster creativity in mathematics education, MECHM4 in Berlin, 2004 2. 守屋誠司, 初等・中学校教員養成課程における算数・数学科教育法の一時刻, 『小・中・高・大の連携を目指した算数・数学教育のカリキュラム開発に関する研究』(H15年度京都教育大学教育改革・改善プロジェクト経費研究成果報告書(代表渡邊伸樹), 2004, 19-32 3. 代表守屋誠司, 『数学教育における創造性の育成を目的とした遠隔協同学習の研究』, H14・15年度文科省科学研究補助金研究報告書, 2004, 全137
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 守屋誠司・渡邊伸樹指導, 横地清監修・子どもくらぶ編著『こうすれば好きになる あたらしい算数』全5巻, すずき出版, 2004 2. 守屋誠司, 数学教育における小・中一貫カリキュラムの試案と実験事例-その1-, 京都教育大学教育実践総合センター『教育実践研究紀要』第4号, 2004, 75-83 3. 守屋誠司編著, 横地清監修『低学年 算数での情報教育』, 明治図書, 2003, 全128
科学研究費補助金等の採択実績 1. 科研費基盤研究C(1)H14・15代表者, 数学教育における創造性の育成を目的とした遠隔協同学習の研究 2. 文科省在外研究(海外動向調査)H14, ヨーロッパにおける創造性教育を目的とした遠隔教育研究動向の実状に関する調査・研究 3. 科研費基盤研究C(2)H16・17・18代表者, 創造性の育成を目指す算数・数学を核とした遠隔協同総合学習の研究
所属学会 数学教育学会(常任理事), 日本教育方法学会, 日本教育工学会, 全国数学教育学会

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 学力向上フロンティア事業実施校(枚方市立牧野小学校, 蕪崎市立甘利小学校)での講演と研究指導・助言(H15・16) 2. 神戸市立本多聞中学校校内研究での講演と研究指導(H15) 3. 枚方市立田口山小学校校内研究での講演と研究指導(H15) 4. 京都市立桃山小学校校内研究での講演と研究指導(H16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. タイ国ラジャバッド総合大学アユタヤ校にて教官に遠隔授業の方法論を講演(H14) 2. タイ国ラジャバッド総合大学アユタヤ校教官が本学にて研修時に遠隔授業の方法論を講演(H14) 3. TV会議を使いドイツ・ベルリン自由大学情報科学学生と本学4回生による共同ゼミ発表を行う(H15) 4. タイ国ラジャバッド総合大学アユタヤ校附属実験学校と本学附属高校・京都中学校で遠隔協同学習を実施(H14・H15)
管理運営に関する活動実績 教授会選出: 自己点検・評価委員会委員(H14) 副委員長(H15), 教務委員会委員(H16)
講演テーマ(3件まで) 1. 算数・数学の教材研究の方法 2. 情報科社会に対応した数学教育 3. 創造性の育成を目指す数学教育
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 神戸大学大学院博士論文審査委員の依頼(H14・H16)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	大竹 博巳 (おおたけ ひろみ)
所属講座・分野・職名	数学教育講座・解析学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理博 / 1988 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科 (1984 年)
赴任年月	1991 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>解析学序論 (単、70)、解析学本論 (単、8)、解析学本論 (単、3)、数学基礎 (単、66)、数学基礎 (単、79) 微分積分学 A (単、12)、微分積分学 B (単、15)、解析学講究 (単、1)、解析学講究 (単、1) 小学校算数科教材論 B (単、20)、小学校算数科教材論 C (単、12)、微分方程式 (単、16)、偏微分方程式 (単、8)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>解析学特論 (単、2(1)) 解析学特別演習 (単、1(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人、 H15 1人、進学1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 ルベーグ積分、 2 . 3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 . 附属高校 教育実践研究集会 助言者 2 . 3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>第 84 回全国算数・数学教育研究(兵庫)大会 / 第 49 回近畿算数・数学教育研究(兵庫)大会 分科会 助言者</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 擬等角写像 2. 不連続群 3. 複素解析
現在の研究課題(3件まで) 1. 擬等角写像 2. タイヒミュラー写像 3. 高校数学における解析分野の取り扱いについて
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本数学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: F D委員会、企画委員会(法人化後は予算委員会) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 教科書とは別の微分の導入法 2. 無限と極限 3.
高等教育機関への授業提供 解析学 、解析学 、数学1、数学2(同志社大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	渡邊 伸樹 (わたなべ のぶき)
所属講座・分野・職名	数学教育講座・数学教育分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	修士(教育学) / 1996年
最終修了大学院(修了年)	大阪教育大学 (1996年)
赴任年月	2003年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>小学校教科専門算数(単, 60), 初等算数科教育法(単, 100), 中等数学科教育 (単, 50), 中等数学科教育 (単, 15), 総合演習(単, 15), 数学 (単, 50), 基礎セミナー(複, 50), 実地教育A(複, 50), 数学科教育講究(単, 5)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>数学科教育特論(単, 3(1)), 数学科教育特論演習(単, 3(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人 H15 0人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人 H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 0人、 研究生 H14 1人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 0人</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 附属京都小学校: 文部科学省指定公開授業指導講師(2003) 2. 附属京都中学校: 日泰遠隔協同学習の指導補助(2003) 3. 附属桃山小学校: 3年生における空間教育の実践(2004)</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>1. 公立小学校6年生2クラスにおいて算数(分数)の授業実践(2003) 2. 公立小学校3年生2クラスにおいて算数(空間図形)の授業実践(2003) 3. 公立小学校における公開授業の指導講師(2003)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 数学教育学 2. 教育実践学 3. 認知心理学
現在の研究課題(3件まで) 1. 幾何教育のカリキュラム開発 2. 数学の文化史の教材化 3. 異文化における遠隔協同学習
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 渡邊伸樹代表(2004), 小・中・高・大の連携を目指したカリキュラムの開発に関する研究, 京都教育大学教育改革・改善プロジェクト経費 研究成果報告書, 全95 2. 渡邊伸樹(2004), 描画にみる子どもの空間概念の発展プロセスの形成化(その2), 数学教育学会誌, Vol.44/No.1・2 3. 渡邊伸樹(2003), 「問いかけ」で「振り返り」を, 授業研究21 No.563, 明治図書
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 守屋誠司・渡邊伸樹指導, 横地清監修, 子どもくらぶ編著(2004), こうすれば好きになる あたらしい算数 全5巻, ずずき出版 2. 渡邊伸樹(2003), 代数の体系化をめざして-その2--小学校5年生へのエクセルによる不定形の求積の指導-, 数学教育学会誌 Vol.43 /No.3・4 3. 渡邊伸樹(2003), 自分だけのワッペンシールを作ろう!-図形の性質, 図形の拡大・縮小-, 横地清・守屋誠司編, 算数+情報教育 低学年編, 明治図書
科学研究費補助金等の採択実績 1. 科学研究費基盤研究C(2004-2006)「創造性の育成を目指す算数・数学を核とした遠隔協同総合学習の研究」研究分担者(研究代表:守屋誠司) 2. 科学研究費若手研究B(2004-2005)「算数教育における"図形"領域の学力低下の阻止と学力向上を目指した実証的基礎研究」, 研究代表者
所属学会 数学教育学会, 日本古地図学会, 日本地理教育学会, 日本教育心理学会, 日本教科教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 枚方市立藤阪小学校 校内研修会 指導講師 (2003,2004) 2. 枚方市立伊加賀小学校 校内研修会 指導講師 (2004) 3. 枚方市立香陽小学校 校内研修会 指導講師 (2003) 4. 大阪教育数学会 研究発表会 全体会講師(2003)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. タイ国ラジャパット総合大学アユタヤ校にて教官に「赤道型日時計の原理」についての講義(2004) 2. タイ国ラジャパット総合大学アユタヤ校附属中学校にて中学生に「赤道型日時計」に関する授業(2004) 3. タイ国ラジャパット総合大学アユタヤ校にて大学生に「日本の算数教育の実態」についての講義(2004) 4. タイ国ラジャパット総合大学アユタヤ校附属校と本大学附属中学校の遠隔協同学習の指導補助(2004)
管理運営に関する活動実績 学長委嘱 : 実地教育運営委員会 フレンドシップ事業専門委員会 副委員長(2004)
講演テーマ(3件まで) 1. 算数・数学の教材研究について 2. 算数・数学の教育実践について 3. 子どもの空間認識の発展について
高等教育機関への授業提供 1. 情報基礎(四條畷短期大学)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	沖花 彰 (おきはな あきら)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・物理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1986 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学後期博士課程中退 (1988 年)
赴任年月	1988 年 4 月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>物理学基礎(単、約 100)、物理学 (単、約 100)、相対性理論(単、約 20)、力学基礎(単、約 30)、 パソコン BASIC 入門 A(複、約 60)、パソコン BASIC 入門 B(複、約 60)、情報教育法 D(複、約 5)、 情報教育法 E(複、約 5)、情報通信ネットワーク(複、約 30)、総合演習 B5(単、約 20)、 物質科学概論 (複、約 30)、基礎セミナー(複、約 40)、物理教育実験(単、約 8)、 中等理科教育 (複、約 60)、物理学基礎実験 A(複、約 40)、物理学基礎実験 B(複、約 40)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>原子核物理学特論(単、約 4)、物理学特別演習 (単、約 3)、理科教育特別研究 (複、約 7(数名))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人、 H15 2人、教員(専任) 1人、その他 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、教員(非常勤) 1人 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校理科「力学」分野における概念地図の適用 2. 中学校理科～レンズ～における WEB 教材の作成 3. 中学校理科～電気分野～における WEB 教材の作成
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理科と体育を融合した新しいカリキュラム開発(桃山中学校) 2. 情報化社会とセキュリティ(高校)
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>無</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 物理教育 2. 原子核物理学
現在の研究課題(3件まで) 1. WEB 技術を用いた中学校教科書作り 2. 理科と体育を融合したカリキュラム 3. 概念地図法による生徒の概念調査
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 京都教育大学における情報リテラシー教育の一つの試みその2～履修必修化後の変化について 沖花彰・榊原典子, 京都教育大学教育実践研究紀要 Vol13 (2003) pp.179-186 2. インターネット学習をはじめるとき, これだけは押さえておきたい教師の心得, 沖花彰 楽しい理科授業(明治図書) No449 (2004) 3. ものが見えることへの理解度調査, 沖花彰, フォーラム理科教育 No4 (2002) PP7-12
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 校内ウェブサーバの導入と活用, 廣川伸一他, 京都教育大学教育実践研究紀要 Vol13 (2003) pp.167-178 2. 大学生の『光の反射・屈折に関する理解度』調査, 沖花彰, フォーラム理科教育 No5 (2003) PP1-8
科学研究費補助金等の採択実績 H15、16 基盤研究C 中学校における理科と体育を融合した新しいカリキュラム開発 代表者
所属学会 日本物理学会、日本理科教育学会、日本物理教育学会、日本科学教育学会、日本教育工学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 無

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 社会人のためのパソコン講座
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 無
管理運営に関する活動実績 法人 : 情報化推進室 教授会選出: 将来構想委員 学長委嘱 : 情報処理センター次長
講演テーマ(3件まで) 1. 高校生のための自然科学 2. 3.
高等教育機関への授業提供 物理学 (京都工芸繊維大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 特になし

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	芝原 寛泰 (しばはら ひろやす)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・化学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	工学博士 / 1984 年
最終修了大学院(修了年)	京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科 (1976 年)
赴任年月	1981 年 4 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 化学Ⅰ(単, 110), 物理化学Ⅰ(単, 35), 化学実験 (共, 15), 化学実験 (共, 6) 小学校教材論(化学)(単, 40), 小学校専門理科(分, 40), 物質科学概論 (分, 40) 物理化学演習(単, 8), 基礎セミナー(単, 13)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 物理化学特論(単, 2(0)), 物理化学特別演習(単, 2(0)), 理科教材特別演習Ⅰ(分, 10(2)) 課題研究(単, 1(0))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 4人、教員(専任)2人、教員(非常勤)1人、進学 1人 H15 9人、教員(専任)1人、教員(非常勤)3人、公務員 人、一般企業 1人、進学1人、その他 3人 修士論文指導の実績と進路 H14 0人 H15 1人、教員(非常勤) 1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 摩擦を理解させるための教材の開発 粒子的概念からの摩擦の原因に迫る— 2. 中学校理科における大気圧を実感・理解させる教材の開発 3. 高校化学における振動反応の教材化
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属高校スーパーサイエンスクラスを対象に、「電子顕微鏡について」の授業を実施 2. 附属高校スーパーサイエンスクラスを対象に、「X線構造解析」について実習を中心とした授業を実施 3. 附属高校スーパーサイエンスクラスを対象に、「超伝導」の実習に協力
教育に関するその他の活動 1. 「子どもゆめ基金」の援助で理科実験教室を実施。 2. 城陽中学校で「理科大好きスクール」の理科実験を担当(2回) 3. 「青少年のための科学の祭典」に出展 4. 学生科研費(e-Project)の指導

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 理科教育(化学分野) 2. 科学教育 3. 材料科学
現在の研究課題(3件まで) 1. 理科教育における粒子論の早期導入 2. 粒子概念を定着させるための教材実験の開発 3. 理科教育における物理化学分野の教材開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 芝原寛泰ら(共著) 2003年 身近な材料によるブラウン運動の観察 「もっと化学を楽しくする5分間」化学同人 pp.186-189 2. 芝原寛泰ら(共著) 2002年 結晶中の原子の並び方を見てみよう 泡模型の製作と活用 「これからの理科学習を支える教材」(理科ハンドブックII) 東洋出版社 pp.168-169 3. 「フォーラム理科教育」(研究会誌)の第25号の編集,発行
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 芝原寛泰ら(共著) 2004年 高等学校化学の酸化還元反応の学習において電子移動を顕在化させる教材開発 京都教育大学教育実践研究紀要 第4号 pp.103-109 2. 芝原寛泰ら(共著) 2002年 エネルギー変換の学習を目的としたスターリングエンジンの教材としての応用 京都教育大学教育実践研究紀要 第2号 pp.91-100
科学研究費補助金等の採択実績 科研費採択なし 子どもゆめ基金助成(H12,13)
所属学会 日本理科教育学会 日本科学教育学会 日本化学会 日本物理学会 アメリカ材料学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件) なし
管理運営に関する活動実績 法人 : 教学支援室 室員 教授会選出: 地域交流・広報委員会 学長委嘱 : 改組委員会
講演テーマ(3件まで) 1. 身近な不思議を科学の力でさぐる 2. 理科教育における粒子論 3. 電子顕微鏡でみる超伝導材料の世界
高等教育機関への授業提供 なし
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 日本顕微鏡学会評議員・関西支部幹事委員, 日本化学会近畿支部代議員

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	広木 正紀 (ひろき まさのり)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・理科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1977年
最終修了大学院(修了年)	大阪大学博士課程単位修得満期退学(1976年)
赴任年月	1978年5月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 自然環境教材論実験(単、20)、初等理科教育C(単、50)、中等理科教育 [単(平成14・15年)分(平成16年(60))]、 中等理科教育(分、50)、理科教育演習(共、15)、理科教育演習(共、15)、人権問題論(分、180)、 総合演習B10-環境教育の実践(分、15)、小専生活(分、50)、総合的学習の研究(分、40)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 理科教育特論(単10(1))、理科教育特別演習(単5(1))、理科教材特別研究(分、8(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 9人、教員(専任)2人、教員(非常勤)3人、教育関係2人、一般企業1人、その他1人 H15 7人、教員(専任)3人、教員(非常勤)2人、公務員1人、進学1人
修士論文指導の実績と進路 H15 1人、教育関係 1人
現職者の指導実績 大学院生、H15 1人、研究生 H14 1人、H15 1人
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 生卵とゆで卵の動きに着目した探究プロセスの教材化、 2. ガラスづくりの原料を、試薬から自然物へと近づける試み 3. チョウの飛び方の観察・「行動の種多様性」に着目した教材の開発をめざして
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属幼稚園の保育に、大学院の授業で作製した自然絵本を用いて大学院生と参加(2003年3月7日、2004年2月16日)、 2. 附属桃山小学校の総合的な学習の授業に、大学院の授業で作製した絵本を用いて大学院生と参加(2003年3月4日、 2004年2月16日) 3. 附属桃山小学校における、環境教育研修(教師対象)の講師(2003年6月24日)
教育に関するその他の活動 城陽市立深谷小学校の総合的な学習における「ピオトープづくりと活用」に関わる協力(14年度～)、 京都市立伏見板橋小学校の総合的な学習の共同研究(コンテナピオトープの活用;平成15年度)、 私立光華小学校との理科授業の共同研究(蝶の単元に環境教育の視点を導入した授業の工夫;平成15年度～、 私の好きな木観察会(於京都府立植物園、小中学生を対象、京都市教育委員会ほか主催。)にスタッフとして参加(平成13年度～)、 総合的な学習の授業への参加[京都市立洛央小学校(2003年2月26日)京都府野間小学校(2003年9月18日)など]

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで)	1. 理科教育論	2. 環境教育論	3. 生態学
現在の研究課題(3件まで)	1. 探究的教材の開発 2. 理科および環境教育のカリキュラムの開発 3. 陸水棲ヨコエビの地理分布		
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)	<p>1. 広木正紀(2004)大学院の授業で絵本をつくる 「子ども達に外界への働きかけをどう促すか」を考える手がかりとして、 化学と教育 52(6): 372-374.</p> <p>2. 南瑠美香・広木正紀(2004)「地平線近くの太陽や月が大きく見えるなぞ」に迫る探究の一例. 京都教育大学教育実践研究紀要 4: 93-101.</p> <p>3. 朱 蓮花・広木 正紀・村田 隆紀(2003)中国と日本の小学校教科書に取り上げられているエネルギー変換に関する学習活動 エネルギーカリキュラムの再編に向けた検討. 京都教育大学教育実践研究紀要 3: 45-59.</p>		
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件)	<p>1. 広木正紀(2003)カリキュラムの改革に連なる教材の開発. 理科の教育 52(10): 7-9.</p> <p>2. 片出達浩・広木正紀・村上忠幸(2003)モンシロチョウの「何が」学ばれてきたか 明治から平成に到る教材資料に見る、 学習の視点. フォーラム理科教育 5: 9-16</p> <p>3. 広木正紀(2002)理科から環境へ広がる学び: 総合的な学習の時間と環境教育. [変わる理科教育の基礎と展望 (理科教育研究会), 東洋館出版社], pp.78-89.</p>		
科学研究費補助金等の採択実績	科研費 基盤C(2)平成14・15・16年度(代表者) [研究題目: 身近な自然の「資源としての面」への気づきを促す、系統的な環境教育教材群の開発]		
所属学会	日本理科教育学会、日本生物教育学会、日本生態学会、Crustacean Society		

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)	<p>1. 「知識形成の理論に基づいた理科授業の展開」(平成14年5月28日、中学校理科教諭対象、京都府総合教育センター主催研修会講師)</p> <p>2. 「城陽市の動植物と住みよい環境について」(平成14年6月22日、市民対象、城陽市主催講演会講師)</p> <p>3. 「学校ビオトープについて」(平成15年6月4日、城陽市立深谷小学校教諭研修会講師)</p> <p>4. 「学校の自然環境を利用した理科」(平成15年8月28日、枚方市立樟葉南小学校教諭研修会講師)</p> <p>5. 「身近なところから環境教育を」(平成15年11月21日、京都市立下鴨小学校研究発表会における講演会講師)</p>		
国際交流に関する活動実績(主な5件)	<p>1. 韓国の教員養成大教員との 環境教育とビオトープについての懇談会(平成15年8月12日、京都リガーロイヤルホテルにて)</p> <p>2. コロンビアの教育視察団研修会における「日本の理科と環境教育の現状」についての講義(平成15年11月26日、京都教育大学にて)</p> <p>3. 上海師範大学教員との「理科教育と環境教育について」の懇談会、上海市小学校教員との理科授業研究についての懇談会 (平成16年3月15-16日、上海師範大学、および上海市内小学校にて)</p> <p>4. ドイツ ビュルテンベルク州の教育省、エコステーション、総合学校等、教育施設の訪問と情報交換(平成16年8月)</p>		
管理運営に関する活動実績	法人	: 教育研究評議会委員、学長選考委員会委員 教授会選出: 点検評価委員会委員、実地教育委員会委員、教育実践総合センター長	
講演テーマ(3件まで)	1. 環境教育のとらえ方 2. 探究的理科学習のとらえ方 3. 初等・中等教育における教材開発、およびカリキュラム編成(自然・理科・環境)		
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動	京都府科学技術・理科教育推進協議会会長(平成15・16年)、守口市環境教育推進協議会委員(平成15・16年) 日本理科教育学会近畿支部長(平成16年度~)		

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	前川 紘一郎 (まえかわ こういちろう)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・地学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学修士 / 1966 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科修士課程(1966 年)
赴任年月	1968 年 10 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>地学基礎実験 A,B (分,各 35) 小学校教科専門理科(分,100) 天文地球物理学実験(分,5) 天文地球物理学夏期実習(分,5) 中等理科教育 (分,70) 地学 (単,35) 天文学(単,40) 天文学 (単,40) 天文学 (単,10) 基礎セミナー環 b(単,7)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(非常勤)2人、一般企業2人 H15 0人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 天体の軌道計算(木星からの引力効果) 2. 理科天文分野におけるパソコン教材の開発 3.</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動 「こころ・いのち」を学ぶ、学内共同研究プロジェクト参加分担</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 天文教育 2. 天文・環境教育 3. .
現在の研究課題(3件まで) 1. 理科天文分野の教材開発 2. 天文を中心とした環境教育教材 3. .
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 西村・前川(2003) 天文を中心とした総合的な学習を振り返って、天文教育普及研究会年会集録 2. 前川(2002) 天体望遠鏡のなかの世界-ある観測天文学のエピソード-、天文教育普及研究会年会集録 3. 前川(2002) 太陽の南中時刻と観測、フォーラム理科教育(京都教育大学理学科)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. . 2. . 3. .
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 天文教育普及研究会、地球電磁気学・地球惑星圏学会、日本天文学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 府立高等学校プロジェクトにおける地学授業・実験担当 2. 小学校での天体観望会観測担当・指導、小学校授業・授業研究会参加指導 3. . 4. . 5. .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 接近時の火星と観測について 2. 実験・演習を重視した理科(天文分野)の授業 3. .
高等教育機関への授業提供 地学、地学実験(摂南大学薬学部)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	松良 俊明 (まつら としあき)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・生物学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	農学博士(1982年)
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院農学研究科博士課程(1977年)
赴任年月	1977年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>生態学(単、60)、昆虫学(単、50)、自然観察法Ⅰ(単、16)、生態学演習(単、5)、基礎セミナー(共、8)、環境と資源(分、150)、生物学夏期実習Ⅰ(分、25)、博物館学実習Ⅰ(分、40)、小学校教科専門理科(分、110)、小学校理科教材論B(分、50)、環境植物学実習Ⅱ(分、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>動物生態学特論(単、5)、生物学特別演習Ⅱ(単、1)、理科教材特別演習Ⅱ(分、8)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(専任) 1人、教員(非常勤) 1人、進学 1人、その他 1人 H15 5人、教員(非常勤) 1人、公務員 2人、その他 2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 3人、現職者 2人、教員(非常勤) 1人 H15 1人、現職者 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 2人、H15 1人、</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヤゴの羽化殻の教材化(卒論) 2. 木津川における水際の土壌性昆虫の現存量及び分布について(卒論) 3. アメンボの教材化に向けての基礎的研究(修論)
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 桃山オープンセミナー(附属桃山中学)での講演(H14年6月) 2. 附属桃山小学校の理科における授業(講演?)(H15年6月) 3. 附属高校スーパーサイエンスコースの授業(H15年4月)
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 昆虫生態学 2. 捕食性昆虫 3. アリジゴク
現在の研究課題(3件まで) 1. 木津川砂洲に生息する地表性昆虫の生態学的研究 2. 人工水域にすむヤゴ・トンボ 3. アリジゴクの環境選択
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 松良俊明他4名(2002)大学キャンパスに飛来したトンボの種類と個体数について. 京都教育大学環境教育研究年報 10: 11-17.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 松良俊明他7名(2003)都市の人工水域に生息するトンボ目幼虫の生態学的研究: 貯水池から羽化したトンボ類の種構成とその年次変動. 環動昆 14: 19-29. 2. 松良俊明(2003) コウスバカゲロウ <i>Myrmeleon formicarius</i> の生活環に対する餌捕食頻度の影響. 日本昆虫学会誌 6: 19-25. 3. 松良俊明(2002) ウスバカゲロウ類、カマキリ類の項目. 京都府レッドデータブック(上): pp.265, 333, 334, 371, 373.
科学研究費補助金等の採択実績 リバーフロント整備センターによる研究補助(平成14年度及び15年度)(分担者)木津川の河原に生息する昆虫についての生態学的研究
所属学会 日本生態学会、個体群生態学会、日本昆虫学会、環境動物昆虫学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 河川生態学術研究会木津川グループにおける共同研究

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 : 附属桃山中学校長(平成14年度及び15年度)
講演テーマ(3件まで) 1. 「ピオトープについて」近畿地区・大阪地区合同私立幼稚園教職員研修大会(平成15年8月) 2. 「都会にすむトンボ・ヤゴ」聖母女学院短大、公開講座「伏見学」(平成15年10月)
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	武蔵野 實 (むさしの まこと)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・地学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1989年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科博士課程(1974年)
赴任年月	1974年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>地学基礎(地学Ⅰ(a))(単、45)、地球史概説(単、55)、環境地学(単、50)、地質学Ⅱ(単、20)、自然環境論(分、55)、地学基礎実験(A)(B)(分、計70)、自然観察法Ⅱ(分、20)、地質鉱物学実験(分、5)、地質鉱物学夏期実習(共、5)、小学校教科専門理科(分、130)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>地層学特論Ⅱ(単、1)、地層学特別演習Ⅱ(単、2)、理科教材特別研究Ⅱ(分、12)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他3人 H15 2人、進学2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 1人、教員(非常勤)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大岩街道周辺の産業廃棄物焼却処理施設付近の土壌汚染について 2. 琵琶湖流入河川堆積物中の重鉱物分析 3. 丹波帯・超丹波帯砂岩中の斜長石の分析
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校自然科学コースのオリエンテーション授業(電子顕微鏡) 2. 高等学校自然科学コースの応用数学授業「自然界のフラクタル」 3. 高等学校自然科学コースの物質科学授業「合金のX線マイクロアナライザーによる分析」
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>公立小学校における理科大好きスクール授業 6年生対象 「化石」</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 環境化学 2. 堆積岩岩石学 3. 古期堆積岩の地球化学
現在の研究課題(3件まで) 1. 土壌汚染 2. 古期堆積環境の解析 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 武蔵野賞・2004・稲荷山と京都盆地・「伏見の自然と環境」清文堂・109-140頁。 2. 普及版編集委員・2003・京都府レッドデータブック[普及版]・サンライズ出版・205頁(編著)。 3. 楠利夫他2名・2003・丹波帯東南部, 宇治市志津川のチャートから得られた石炭紀-ペルム紀の微化石層序・地球科学・37-54頁。
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本地質学会、地学団体研究会、SEPM (Society for Sedimentary Geology)
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 京都大学原子炉実験所共同利用研究

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 産業技術総合研究所主任研究員(併任)として5万分の1地域地質研究報告「京都西南部」を作成(H15,16) 2. 奈良市南部土地改良清美事業防災及び環境保全対策委員会委員(奈良市)(H14,15,16) 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 「日英高校生サイエンスワークショップ in 京都 2004」の共同企画の準備、実施に参加 2. 附属高等学校の研修旅行におけるマレーシアの高等学校との交流 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 附属高等学校校長 教授会選出: 学長委嘱 : 学芸員資格専門委員
講演テーマ(3件まで) 1. 産業廃棄物と土壌汚染 2. 自然災害と環境教育 3. 京都教育大学オープンエアミュージアム現地案内
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 京都教育大学オープンエアミュージアムの企画及び案内書の作成、現地案内の実施

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	梶原 裕二 (かじわら ゆうじ)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・生物学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(理学) / 1992年・第1種放射線取扱主任者(科技庁)
最終修了大学院(修了年)	熊本大学大学院理学研究科修士課程(1983年)
赴任年月	1995年11月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>生物学基礎実験 A(単、40)、生物学基礎実験 B(単、40)、生物学夏季実習 II(単、14)、生物学 II(単、85)、発生生物学(単、34)、小学校理科教材論 B(分、35)、生命科学概論 II(分、35)、中等理科教育 I(分、75)、動物発生学演習(単、2)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>発生生物学演習(単、3(1))、理科教材特別研究 II(分、9(2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員(非常勤)1人、一般企業1人、進学 人、その他1人</p> <p>H15 0人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、</p> <p>H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マウス胚における酸化障害による自発的細胞死と酸化制御による回復 2. 初期体節期マウス胚への子宮外からの細胞移植・蛍光移植による細胞標識 3. ニワトリ卵を用いた発生教材・生物教材の開発
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>高校生に対する大学紹介(サンケイ新聞主催、於;日吉高校) マウス胚の発生演示実験</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 哺乳類発生学 2. マウス 3. 細胞移植
現在の研究課題(3件まで) 1. マウス胚における酸化と細胞死 2. 子宮外細胞導入法の開発 3. ニワトリ卵を用いた教材開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 細胞死を亢進・抑制されたマウス胚盤胞の発生状況 動物学会第73回大会予稿集 p149,,(2002) 2. 母体内暴露による囊胚神経胚形成期マウス胚に対するビスフェノールAの影響第42回日本先天異常学会要旨集 p61(2002) 3. 酸化亢進による細胞死を阻害したマウス胚盤胞の発生 動物学会第74回大会予稿集 p145,,(2003)
科学研究費補助金等の採択実績 なし
所属学会 日本動物学会、発生生物学会、先天異常学会、生物教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) なし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 実地教育委員会幹事委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 哺乳類杯発生 2. 環境要因がもたらす先天異常 3.
高等教育機関への授業提供 環境理学特別講義(大阪女子大 H15.7) マウス胚操作(岐阜大学 H14-16)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 H12年度改組点検評価プロジェクト委員(実地教育担当)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	高嶋 隆一 (たかしま りゅういち)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・物理分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1987 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学理学研究科修士課程 (1981 年) 博士中退 (1983 年)
赴任年月	1983 年 7 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>物理学 (単、27)、小学校専門理科 (分、92)、電磁気学基礎 (単、23) 物理学 II (単、67)、物質科学 II (単、11)、物理学実験 III (単、5)、素粒子物理学演習 (単、1)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>素粒子物理学特論 (単、1)、物理学特別演習 IV (単、1)、理科教材特別研究 I (分、10)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1 人、教員 (専任) 人、教員 (非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 1 人、その他 人 H15 人、教員 (専任) 人、教員 (非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員 (専任) 人、教員 (非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員 (専任) 1 人、教員 (非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3 件まで)</p> <p>1 . アトラス実験におけるヒッグス粒子の $H \rightarrow ZZ^* \rightarrow 4\ell$ nu nubar 崩壊モードの sensitivity、河内知己、H15 修士 2 . KOP10 (BNL-E926) のための 線を用いた Nitrogen Scintillation の研究、村山芳幸、H14 卒業 3 . オブジェクト指向技術を使用したアトラス検出器のシミュレーターの研究、山田洋平、H14 卒業</p>
<p>附属学校での教育等(3 件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>物理学会京都支部「物理の面白さを伝えよう」シンポジウム部分のパネリスト報告「教員養成系大学の状況」</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 素粒子物理学 2. 半導体検出器 3. 陽子陽子(反陽子)衝突実験
現在の研究課題(3件まで) 1. 衝突型加速器のための飛跡検出器の開発 2. 測定器シミュレーションソフトウェア 3. 物理解析フレームワーク
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. JAVAによる教育プログラムの開発 2. 物理実験の自動計測装置システムの開発 3. インターネットを利用した教育情報の交換の研究〔情報誌、フォーラム理科教育〕
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Direct Observation of Sequential Weak Decay of a Double Hypernucleus, S. Aoki et al., Prog. Theor. Phys. 1287(1991) 2. Construction and performance of the Atlas silicon microstrip barrel modules, Nucl. Instru. And Meth., A485, 27(2002) 3. Pseudoscalar Meson Production in the reaction $\pi^-p \rightarrow K^+K^-\pi^+n$ at 8.06 GeV/c, 京都大学紀要〔1988〕
科学研究費補助金等の採択実績 平成16年～21年度 科研費特定領域研究、計画研究 A03
所属学会 物理学会、高エネルギー物理学研究者会議
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 第7回物理学会論文賞〔2002年〕

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 物理学会京都支部委員 2. 「フォーラム理科教育」編集委員 3. 理学科ホームページ責任者 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 欧州原子核研究所(CERN)におけるアトラス実験シリコン検出器のソフトウェア開発 2. 米国フェルミ国立加速器研究所における陽子反陽子衝突実験のためのシリコン飛跡検出器の開発 3. 第5回半導体検出器シンポジウム論文レフェリー 4. アトラス実験京都教育大学研究機関代表者 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	田中 里志 (たなか さとし)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・地学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(理学) / 1997年
最終修了大学院(修了年)	新潟大学大学院博士課程退学(1992年)
赴任年月	1992年10月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー(単, 7), 資源論(単, 25), 堆積学(単, 25), 地質学Ⅰ(単, 30), 第四紀学(単, 50), 自然観察法Ⅱ(分, 15), 地学基礎実験(A)(分, 30), 地学基礎実験(B)(分, 40), 地質鉱物学実験(分, 5), 環境と資源(分, 130), 地質鉱物学夏期実習(単, 15), 博物館実習Ⅰ(分, 40), 子どもふれあい教室(共, 50)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>地層学特論Ⅰ(単, 2(1)), 地学特別演習Ⅰ(単, 2), 理科教材特別研究Ⅱ(分, 9)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、進学1人</p> <p>H15 1人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近畿地域における鮮新・更新統の環境変遷史の解明 2. 京都北部の海跡湖(阿蘇海・久美浜湾)の環境変遷史と今後の未来予測 3. 地層から解明する古環境の変遷
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>名古屋地学会での野外観察会(小・中・高等学校の教員向)実施</p> <p>愛知県理科教育研究会(中・高等学校の教員向)の野外観察会実施</p>

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	巻本 彰一 (まきもと しょういち)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・有機化学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	工学博士 / 1984 年
最終修了大学院(修了年)	立命館大学理工学研究所 (1983 年)
赴任年月	1997 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>生物化学概論(単、65)、生物化学演習(単、4)、小学校理科教材論 A(化学)(分、42)、化学実験 (分、17)、 化学実験 (分、14)、生物化学(単、36)、生命科学概論 (分、39)、基礎セミナー(自)(単、13)、 化学 (分、100)、化学基礎実験(B)(単、46)、小学校教科専門理科(分、90)、中等理科教育 (分、70)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>生物化学特論(単、2)、 生物化学特別演習(単、2)、 理科教材特別研究 (分、9)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、公務員 1人、進学 1人、 H15 8人、教員(専任) 1人、一般企業 1人、進学 5人、その他 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルカリフォスファターゼの熱変性機構 2. 高圧力下における γ-キモトリプシン触媒に及ぼす吸入麻酔薬の添加効果 3. 超臨界水によるセルロースの加水分解機構
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>理学科教育実習委員 (~2002.10)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 生化学 2. 高压化学 3. 酵素学
現在の研究課題(3件まで) 1. タンパク質の安定化機構 2. 酵素の触媒反応機構 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 前田良輔, 巻本彰一, 谷口吉弘、Subtilisin Carlsberg の熱変性における圧力効果、 化学工学会第68年会(東京)2003年3月 2. 谷口吉弘, 前田良輔, 巻本彰一、セリンプロテアーゼの圧力失活、日本材料学会第学術講演会(東京)2003年5月 3. R. Maeda, S. Makimoto, and Y. Taniguchi、Pressure Effects on Thermal Inactivation of Subtilisin Carlsberg, 18th International Conference on High Pressure Science and Technology, Bordeaux, France, 2003年7月
科学研究費補助金等の採択実績 0
所属学会 高压学会、日本化学会、日本材料学会、高分子学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 第45回高压討論会実行委員会委員

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出 : 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 水と生命 2. 高压と生命 3.
高等教育機関への授業提供 酵素学(立命館大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	向井 浩 (むかい ひろし)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・化学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1991 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科 (1990 年)
赴任年月	1990 年 10 月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>分析化学概論(単, 72), 分析化学演習(単, 2), 環境化学(単, 48), 化学実験(分, 20), 化学実験(分, 3), 化学基礎実験(a)(単, 37), 小学校教科専門理科(分, 48), 基礎セミナー(環b)(単, 7), 化学(単, 40)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>分析化学特論(単, 1), 分析化学特別演習(単, 1), 理科教育特論演習(分, 9)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人、進学 1人 H15 2人、公務員 1人、一般企業 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、 H15 1人、その他 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. トリスピラゾリルボレートの分離分析化学的研究(平成15年度修士論文) 2. 4,5-bis(diphenylphosphinoyl)-1,2,3-triazole の溶液内反応(平成15年度卒業論文) 3. 疎水性ジヒドロキサム酸による溶液内錯生成反応(平成14年度卒業論文)</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 分析化学 2. 分子認識化学 3. 水圏化学	
現在の研究課題(3件まで) 1. 二相間分配による分離分析化学的研究 2. 金属錯体におけるイオン認識の研究 3. 陸水の分析	
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 向井浩, 2002年度「水の化学」の授業実践報告, 金沢大学教養教育機構研究調査部報, 2004, 8, 21-22. 2. 向井浩, 2002年度「水の化学」に関する授業アンケート調査の分析, 金沢大学教養教育機構研究調査部報, 2004, 8, 23-31. 3. 向井浩, 2001年度「水の化学」の授業実践報告, 金沢大学教養教育機構研究調査部報, 2002, 7, 1-2.	
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Kitano, T.; et al., Highly selective extraction of Cu(II) and Zn(II) using [B(3-iPrpz) ₄] ⁻ (iPrpz = isopropylpyrazolyl), <i>Polyhedron</i> , 2004, 23(2-3), 283-289. 2. Yoshimoto, S.; et al., Copper(II)-selective membrane electrode based on hydrotris(3-isopropylpyrazolyl) methane in a poly(vinyl chloride) matrix, <i>Anal. Chim. Acta</i> , 2003, 494, 207-213. 3. Mukai, H.; et al., Steric effect of ortho substituents of 1-phenyl-3-methyl-4-aryolpyrazolones on the synergic extraction of scandium and lanthanum with tri-n-octylphosphine oxide, <i>Solv. Extr. Ion Exch.</i> , 2003, 21(1), 73-90.	
科学研究費補助金等の採択実績	
所属学会	日本分析化学会, 日本化学会, アメリカ化学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)	論文賞受賞(第一回日本陸水学会賞吉村賞, 1999)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日本分析化学会近畿支部常任幹事(H14-15) 2. 日本分析化学会近畿支部幹事(H16)	
国際交流に関する活動実績(主な5件)	
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 環境整備委員会委員 学長委嘱 :	
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.	
高等教育機関への授業提供 水の化学(金沢大学教養教育機構)	
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動	

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	村上 忠幸 (むらかみ ただゆき)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・理科教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(学術) / 2003年
最終修了大学院(修了年)	広島大学環境科学研究科修士課程(1984年) 広島大学生物圏科学研究科後期博士課程(2003年)
赴任年月	1999年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 数理・自然教育系基礎セミナー(共、50)、中等理科教育(単、60)、初等理科教育(単、50)、理科教材論実験(単、15)、理科教育演習、(共、15)、中等理科教育(共、50)、小専生活科教育(複、50)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 理科教育特別演習(単、10(2))、理科教育特論(単、10(2))、理科教育特別研究(複、10)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 13人、教員(専任)5人、教員(非常勤)4人、進学2人、その他2人 H15 7人、教員(専任)2人、教員(非常勤)3人、進学2人
修士論文指導の実績と進路 H14 1人、教員(専任)1人 H15 1人、現職者1人、教員(非常勤)1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 0人、H15 1人、 研究生 H14 1人、H15 1人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 化学教育からみた高大連携教育に関する研究 2. 油を主題とした生活と環境のつながりを意識できる教材の開発 3. 納豆の不思議にせまる
附属学校での教育等(3件まで) 1. 探究的な学習の授業実施(附属高校) 2. 日英高校生サイエンスワークショップの企画・シンポジウム等に関わる(附属高校) 3. 附属京都小・中サイエンス協力者(附属京都小・中)
教育に関するその他の活動 兵庫県立大学附属高等学校 SSH サイエンスアドバイザー、堺市小学校理科研究会アドバイザー、尾道市中学校理科研究会アドバイザー、京都府教委理科大好きスクール講師(H15、16)、兵庫県教委理科大好きスクール講師(H15)、茨木市教委理科教員研修会講師(H16年6月)、兵庫県立姫路東高校キャリア教育講師(H15、16)、宇治市立北宇治中学校 SPP 企画・授業(H16)、化学と教育(日本化学会)編集委員(H14~)、日本化学会化学教育協議会近畿支部委員、日本理科教育学会評議員、文部省検定教科書小学校理科(啓林館)・中学校理科(啓林館)・高校化学、(実教出版)執筆、弥栄町立野間小学校連携授業(H15年9月)、尾道市立美木中学校連携授業(H15年10月)、姫路市立妻鹿小学校連携授業(H16年6月)、兵庫県立小野高校連携授業(H16年6月)、京都市立松尾小学校連携授業(H16年8月)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで)	1. 理科教育 2. 化学教育 3. 化学生態学
現在の研究課題(3件まで)	1. 理科の探究学習 2. 理科教材・カリキュラム開発 3. アゲハチョウの産卵刺激物質
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)	<p>1. 村上忠幸(2004) 探究学習におけるものづくりの意義. 理科の教育 Vol.53 No.7 : 6-7</p> <p>2. 村上忠幸(2002) 自然科学と化学、理科教育と科学教育. これからの理科授業実践への提案(日本理科教育学会編) pp.188-191. 東洋館出版社、東京.</p> <p>3. 村上忠幸(2002) 経験的探究過程論・新しい探究過程のすがたについて. フォーラム理科教育 4号 : 40-50</p>
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件)	<p>1. Murakami, T., K. Honda, T. Nakayama, N. Hayashi (2003) Phytochemical-mediated differential acceptance of four retaceous plants by a swallowtail butterfly, <i>Pailio polytes</i>. <i>Appl. Entomol. Zool.</i> 38(1):37-43</p> <p>2. 村上忠幸(2003) シロオビアゲハの寄主適応性と植物成分に関する研究. 広島大学総合科学部紀要 理系編、第29巻 : 185-188</p> <p>3. 村上忠幸、鈴木建仁(2001) モンシロチョウを科学すれば化学が見えてくる. 化学と教育 49巻4号 : 200-201</p>
科学研究費補助金等の採択実績	<p>基盤研究C、H15-H16、代表者・「興味・関心の高まりを意図した探究モデルの構築と教材・プロセスの開発」</p> <p>基盤研究C、H14-H16、分担者・「身近な自然の「資源としての面」への気づきを促す、系統的な環境教育教材群の開発」</p>
所属学会	日本理科教育学会、日本化学会、日本応用動物昆虫学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)	

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)	<p>1. 亀岡サイエンスフェスタのサイエンスボランティアの常連として参加(H11~H16、理科教育研究室として)</p> <p>2. 化学オリンピックの国内予選である高校生化学グランプリに関わる(~H16)</p> <p>3. 日本化学会近畿支部主催中高化学研究発表会に関わる(~H16)</p>
国際交流に関する活動実績(主な5件)	<p>1. 英国の理科教育研究者と探究学習で交流、シンポジウム「英国の理科教育に学ぶ・探究学習の実現を目指して」を実施(H16)</p> <p>2. 英国の研究者、教員と交流、シンポジウム「科学教育における連携教育の可能性・日英の現状と展望」を実施(H16)</p> <p>3. 中国の研究者と交流、シンポジウム「理科教育における基盤教育について考える・日本と中国の現状と展望」を実施(H16)</p> <p>4. 上海師範大および上海市の小・中学校と理科および環境教育に関して教員間の連携(H16)</p> <p>5. アメリカ、UCバークレー・ローレンス・ホール・オブ・サイエンスと理科教育に関して交流・研究(H16)</p>
管理運営に関する活動実績	教授会選出：実地教育、生活科・総合的な学習
講演テーマ(3件まで)	<p>1. 探究学習を実現するために必要なこと</p> <p>2. 生物間の化学的なコミュニケーション</p> <p>3. 身近な自然・生活をテーマとした理科教育</p>
高等教育機関への授業提供	中理科教育法、(大阪女子大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動	

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	谷口 和成 (たにくち かずなり)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・物理学分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(理学) / 1999年
最終修了大学院(修了年)	九州大学大学院(1999年)
赴任年月	2000年9月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>物理学実験Ⅰ(単、8), 物理学基礎実験(A)(単、40), 物理学基礎実験(B)(単、40), 物質科学概論Ⅱ(分、35), 物質科学Ⅰ(単、10), 中等理科教育Ⅳ(分、10), 応用物理学演習(単、3), 電磁気学演習(単、2)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>応用物理学特論(単、8)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、一般企業1人、進学1人、その他1人 H15 4人、教育関係 1人、一般企業1人、その他2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H15 1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小型電子ビーム励起プラズマ源により生成された窒素プラズマの特性解析 2. イギリス高校物理コース『アドバンス物理』における電流回路学習の特徴と日本における実践 3. 高校物理教育におけるアドバンス物理の実践的応用
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IT機器を活用した高校物理「力学分野」の授業実践 2. 附属高校自然科学コース特別授業 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>サイエンスパートナーシッププログラム(SPP), スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における特別授業など数件</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. プラズマ物理学 2. 物理教育 3. プラズマ応用
現在の研究課題(3件まで) 1. 電子ビーム励起プラズマ源の工業的応用に関する研究 2. イギリス高校物理コース「アドバンスング物理」の日本物理教育への実践的検討 3. 社会的コンテキストをふまえた物理教材の開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 『アドバンスング物理研究会』の高大連携, 谷口和成(他6名), 物理教育 51-3, 198 (2003) 2. 『アドバンスング物理』による電流回路学習の新しい視点, 山崎敏昭, 岩間徹, 笠潤平, 小川雅史, 谷口和成, 宮永健史, 村田隆紀, 物理教育 51-3, 202 (2003) 3. Japan tests Advancing Physics, T. Murata, J. Ryu, T. Yamazaki, K. Taniguchi, Physics Education 39-1, 11 (2004)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Tribology of Electron-Beam-Excited Plasma Nitriding Tool Steels with Narrow Gap Features, P. Abraha, H. Shoyama, K. Taniguchi, T. Hara, Tribology Series 41, 855 (2003) 2. Controlling chaos in the current-driven ion acoustic instability, T. Fukuyama, K. Taniguchi, Y. Kawai, Physics of Plasmas 9, 1570 (2002) 3. Controlling chaos caused by the current-driven ion acoustic instability in a laboratory plasma using delayed feedback, T. Fukuyama, K. Taniguchi, H. Shirahama, Y. Kawai, Proc. of XXVI ICPIG 4, 179 (2003)
科学研究費補助金等の採択実績 若手研究(B) (H16-17・代表者・高密度窒素原子を用いた金属材料の表面窒化プロセスの実験的解明), 特定領域研究(H15-16・分担者・「アドバンスング物理」を用いた授業実践による高大連携の試み), 特定領域研究(H14・分担者・新しい物理教材「アドバンスング物理」を用いた授業実践による高大連携の試み)
所属学会 日本物理学会、応用物理学会、日本物理教育学会、プラズマ・核融合学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 第15回(2003年秋季)応用物理学会「講演奨励賞」受賞

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績
講演テーマ(3件まで) 1. プラズマの世界 2. センサープロジェクト(センサーを用いた電流回路学習) 3. IT機器を活用した高校物理実験
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	谷口 慶祐 (たにくち けいすけ)
所属講座・分野・職名	理科教育講座・地学分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	修士 / 1982 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科 (1982 年)
赴任年月	1983 年 6 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>地球物理学概論 (単、40) 地球科学 (単、60) 気象学 (単、30) 地震学 (単、20) 小学校教科専門理科 (分、100) 中等理科教育 (分、70) 中等理科教育 (分、20) 天文地球物理学実験 (分、5) 地学 (b) (単、90) 地学基礎実験 (A) (分、40) 地学基礎実験 (B) (分、40) 基礎セミナー (共、30) 総合演習 (共、160)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>地殻変動学特論 (単、1) 地殻変動学特別演習 (単、1) 理科教材特別研究 (分、10(2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人、公務員1人 H15 0人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 集中豪雨と乾燥貫入の関係について 2. 3.</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>高等学校での出張授業 2件</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 断層 2. 破砕帯 3. 地震波
現在の研究課題(3件まで) 1. 断層破砕帯の力学的特性 2. 地震波収録システムの作成 3. 南海トラフでの地震活動
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本地震学会、アメリカ地震学会、日本測地学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 大阪府南河内郡太子町での講演(テーマ:南海地震について) 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 地球科学を楽しむ 2. 南海地震 3. 地球科学一般
高等教育機関への授業提供 地球科学実験(京都大学総合人間学部) 数値シミュレーション(同志社大学工学部)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	伊吹 紀男 (いぶき としお)
所属講座・分野・職名	物質科学講座・化学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	工学博士 / 1977 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院工学研究科修士課程(1967 年)
赴任年月	1991 年 1 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー(単、10) 物質科学概論Ⅰ(単、40)、現代科学論Ⅰ(単、120)、化学結合論(単、35)、 物質科学演習(単、2) 物質科学ⅢⅠ(単、10)、分子軌道論(単、30) 物質科学概論Ⅱ(分、35)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>物質化学特論(単、2) 物質化学特別演習(単、1)、理科教材特別研究Ⅰ(分、8)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人、進学1人 H15 1人、公務員1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 新規温室効果ガス SF₅CF₃の内殻励起光化学 2. CF₃COCH₃の原子識別 K 殻励起分解過程 3. 高励起イオンの反応動力学</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 放射光化学 2. 内殻励起分子 3. 光メス
現在の研究課題(3件まで) 1. 軟X線光化学 2. 反応動力学 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Energy relaxation through π^* -state in C, F and O K-shell excited CF_3COCH_3 , T. Ibuki et al, J. Electron Spectrosc. Relat. Phenom. in press (2004) 2. Total photoabsorption cross sections of CF_3SF_5 in the C, F and S K-shell regions, T. Ibuki et al, Chem. Phys. Lett. 392 (2004) 303-308 3. Mass-selected ion spectroscopy of K-shell excited polyatomic molecules, T. Ibuki and K. Okada, Recent Research Developments in Chemical Physics. Vol. 5 (2004) 77-99, Transworld Res. Network, Kerala, India
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究C(2) H14、H15、H16、代表者 多原子分子の位置選択的内殻電子励起と緩和ダイナミックス
所属学会 日本化学会、日本放射光学会、アメリカ物理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 広島大学放射光センター客員研究員(H14-16) 2. 高輝度光科学研究センター課題選定委員(H15、16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 12th International Conference on the Physics of Highly Charged Ions (H16) 2. The 14th International Conference on Vacuum Ultraviolet Radiation Physics (H16) 3. XXIII International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions (H15) 4. Gordon Research Conference. Photoions, Photoionization and Photodetachment (H15) 5. 2nd Conference on the Elementary Processes in Atomic Systems (H14)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学術委員、大学院運営委員、附属学校長選出委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. Fragmentation competing with energy relaxation in C and K-shell excited CF_3CN 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	細川 友秀 (ほそかわ ともひで)
所属講座・分野・職名	生命・環境科学講座・生命科学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1979年・中学高校理科免許
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院理学研究科修士課程(1975年度)
赴任年月	1991年10月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>現代科学論 II (単、60)、生命科学概論 I (単、55)、生命科学概論 II (分、40)、 分子生物学 (単、35)、生命科学実験 (単、20)、生命科学演習 (単、20)、分子免疫学 (単、40)、免疫学演習 (単、7)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>理科教材特別研究 II (分、10(~1)、) 分子生物学特論 (単、3(0)) 分子生物学特別演習 (単、2(0)) 課題研究 (単、2(0))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任)2人、一般企業 2人、進学 2人、 H15 7人、教員(専任)1人、一般企業 2人、進学 2人、その他(留年)2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 2人、教員(専任)1人、その他(博士課程進学)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p>
<p>留学生の指導実績</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレス応答時に分泌されるホルモンと神経伝達物質による免疫記憶発現の制御 2. ゼルンボンの化学--アミン誘導体の分子内環化反応と生理活性について-- 3. 生体防御に関するメディア利用教材の開発
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習における研究・検閲授業等の参観・指導
<p>教育に関するその他の活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. H15年 SPP 招聘講座(京都府立嵯峨野高校)講師、 「実験で学ぶ免疫細胞と免疫の仕組み」をテーマとして、講義1回2時間、実験2回各4時間をTA3人とともに実施

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 免疫学 2. 老化生物学
現在の研究課題(3件まで) 1. 抗体産生制御機構の加齢における神経・内分泌系の関与 2. SAMP1/KaSlc マウスの免疫学的性状の基礎的研究 3. 動物の生体防御の仕組みを教えるための教材開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 細川友秀, 衣笠尚子. 学生教育を意図した地域社会への卒業研究のプレゼンテーション ---第四報---, 京都教育大学環境教育研究年報, 11: 61-70, 2003年
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Tomohide Hosokawa. Immune system deficiencies in SAM. <i>In</i> "The SAM Model of Senescence", ed., Y. Nomura, Elsevier Science Publishers (Amsterdam), pp. 41-46, 2004. 2. Manami Kitamura, Yoko Yagi, Tomohide Hosokawa. Regulatory effects of noradrenaline and corticosterone on the antibody-forming response of cultured spleen cells of SAMP1 mice. <i>In</i> "The SAM Model of Senescence", ed., Y. Nomura, Elsevier Science Publishers (Amsterdam), pp. 203-207, 2004. 3. Yasumitsu Nishimura, Tomohide Hosokawa, Masamichi Hosono, Mitsuo Baba, Masanori Hosokawa. Insufficient interleukin-2 production from splenic CD4+ T cells causes impaired cell proliferation and early apoptosis in SAMP1, a strain of senescence-accelerated mouse. <i>Immunology</i> , 107: 190-198, 2002
科学研究費補助金等の採択実績 1. 奨学寄付金(日本エスエルシー) H16年度・代表者・SAMP1/KaSlc マウスの免疫学的性状の基礎的研究 2. 大学開放推進事業経費(文科省) H13年度・代表者・大学子ども開放プラン: マウスと遊ぶ生命科学実験教室
所属学会 日本基礎老化学会、日本免疫学会、日本癌学会、日本生物教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 安全衛生委員会委員 (H16年度前期途中まで) 教授会選出: 人事委員会委員 (H14年とH15年、そのうちH14年後期以降は委員長)、予算委員会委員 (H16年) 学長委嘱 : 教育学部再編統合の協議会委員と新課程問題検討会委員 (H14年)、労働安全衛生体制検討WG委員 (H15年)、 学部改組検討委員会委員 (H15年~H16年)
講演テーマ(3件まで) 1. 哺乳動物の老化と寿命から学ぶ 2. 人はなぜ死ぬのだろう 3. やさしい免疫の話
高等教育機関への授業提供 1. 生物圏科学特別講義「免疫システムの加齢生物学」(H15年集中講義、新潟大学大学院自然科学研究科)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	饗場 知昭 (あいば ともあき)
所属講座・分野・職名	音楽教育講座・声楽分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士 / 1977年
最終修了大学院(修了年)	東京芸術大学大学院音楽研究科オペラ科専攻修了 (1977年)
赴任年月	1986年10月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>声楽基礎演習(単、28)、声楽演習： (単、8)、声楽演習： (単、10)、声楽演習： (単、6)、声楽演習： (単、6)、オペラ演習 ～ (複共10)、小専(複共120)、</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>声楽特論(単、3)、声楽特別演習(単、4)、音楽教育特別研究(複共2)、課題研究(単、2)、</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(非常勤)4人 H15 3人、教員(専任) 人、教員(非常勤)2人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人 H15 2人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変声期を意識した「自分の声の発見」 2. ベル・カント発声の変遷についてーオペラ芸術が求めた声の歴史ー 3. 『G.Verdi《6つのロマンス Sei Romanze》1845 第2集の楽曲分析による演奏解釈』
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 合唱コンクール講評(附属京都中学校) H14 2. 合唱指導(附属京都中学校) H15 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>学生達のオペラ研究発表会、就職対策セミナー声楽指導</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. オペラ 2. リート 3. 宗教曲
現在の研究課題(3件まで) 1. ベルカント発声 2. オペラ研究 3. 声楽教育法
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 京都で京響と第九を歌おう会 H14年6月ベートーヴン第九演奏会テノール独唱: 京都コンサートホール大ホール 2. オペラ演習発表会 H14年2月「フィガロの結婚」「コシファンツウツテ」ハイライト: 音楽演奏室 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. オペラアンサンブル kyokyo2 オペラ講演 H15年2月「フィガロの結婚」全曲企画総監督: エンジェルハウス大ホール 2. 饗場知昭CD制作、H15年3月饗場知昭・長谷川泉オペラアリア重唱曲集: エンジェルハウス大ホール 3. 砺波市主催、H15年3月 となみ野音楽祭 日本歌曲独唱: 砺波市文化会館大ホール
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 東京二期会、日本演奏連盟
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 京都オペラ協会オペラ活動(共同研究)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. ロータリークラブ会員(洛西R.C) H14年 2. 京都市芸術文化振興財団評議員 H16~現在 3. 京都オペラ協会オペラ「ドン・ジョバンニ」全曲公演・音楽監督 H16年5月 京都会館第2 4. 京都オペラ協会オペラ「フィガロの結婚」全曲公演・音楽監督 H15年10月 京都会館第2 5. ユニセフチャリティ・サマーオペラコンサート H15年7月 石川県小松市民会館大ホール
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 韓国から朴東一氏を迎へオペラ・ガラコンサートを企画出演 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 企画委員(企画委員長) H14 学長委嘱 : 附属京都中学校校長就任 H15.4月~現在
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供 同志社女子大学声楽指導(声楽)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	垣内 幸夫 (かきうち ゆきお)
所属講座・分野・職名	音楽教育講座・音楽科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士 / 1978年
最終修了大学院(修了年)	東京芸術大学大学院音楽研究科 (1978年)
赴任年月	1998年10月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>中等音楽科教育 (単、18)・中等音楽科教育 (単、18)・中等音楽科教育 (単、2)・ 初等音楽科教育A(単、50)・初等音楽科教育B(単、50)・基礎セミナー(単、16)・ 音楽教育演習 ~ (単、2)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>音楽科教育特論(単、4) 音楽科教育特別演習(単、4) 課題研究(単、2(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 5人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、公務員1人、進学1人、その他1人 H15 2人、教員(非常勤)1人、進学1人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 3人、教員(非常勤)1人、その他2人 H15 2人、教員(専任)1人、一般企業1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ヒーリング・ミュージック」から見た社会的現象としての「癒し」の背景 2. 日本統治下台湾の公学校における音楽教育 3. 社会主義リアリズム下におけるソヴィエト作曲家たち
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>公開講座における「創作オペレッタ」の指導</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 音楽教育学 2. 音楽学 3. 作曲
現在の研究課題(3件まで) 1. 日本伝統音楽の教材化 2. 義太夫節の様式研究 3. 泉州人形戯の語り
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「日本の感性を育む」『セレーノ CD-ROM 版音楽教育実践講座 理論編1』(ニチブン、2004)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 「文楽三味線の奏法 文楽三味線の魅力」『セレーノ CD-ROM 版音楽教育実践講座 理論編2』(ニチブン、2004)
科学研究費補助金等の採択実績 14・15年度
所属学会 日本音楽教育学会、東洋音楽学会、日本民俗音楽学会、楽劇学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 市民のための歌舞伎入門講座(平成16年度) 2. 京都府「高等学校教職経験10年研修『教科指導演習』講座芸術家音楽・スキルアップ2」講師(平成16年度) 3. 京都府夏期研修講座「高等学校芸術家音楽教育講座」講師(平成16年度) 4. 京都府高等学校校長会・教頭会研修会講演「歌舞伎に学ぶ」講師(平成15年度) 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 留学生のための歌舞伎入門講座(平成14年度～平成16年度/宮城県民会館主催) 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学術委員会(H14～15) 学長委嘱 : 学科主任(H14～現在)
講演テーマ(3件まで) 1. 文楽入門 2. 歌舞伎に学ぶ 3. オペレッタを創ろう
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	川口 容子 (かわぐち ようこ)
所属講座・分野・職名	音楽教育講座・器楽分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士 / 1969年
最終修了大学院(修了年)	武蔵野音楽大学(1969年)
赴任年月	1974年4月



教育に関する活動実績

学部 の授業担当実績 鍵盤楽器演習 (単・8) 鍵盤楽器演習 (単・5) 鍵盤楽器演習 (単・7) 鍵盤楽器演習 (単・7) 小学校音楽科教材論(単・2) 器楽基礎演習(単・24) 小学校専門音楽A(共・120) 小学校専門音楽B(共・35)
大学院 の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 器楽特別研究(単・1) 器楽特別演習 (単・1) 音楽教育特別研究 (共・2) 課題研究(単・1)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 5人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、一般企業 2人、進学 1人 H15 3人、教員(専任)1人、一般企業 1人、進学 1人 修士論文指導の実績と進路 H14 2人、教員(非常勤)1人、一般企業 1人 H15 1人、その他(進学)1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人
留学生の指導実績 H14 1人、H15 1人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 初級期の子どもへのより効果的なピアノ指導法 個人指導における教師の働きかけの分析を通してー 2. ベートーヴェンピアノ・ソナタ第30番ホ長調Op. 109にみる後期様式 3. 連弾演奏に関する一考察 シューベルトのピアノ連弾[幻想曲D940]について
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属高校レクチャーコンサート指導
教育に関するその他の活動 京都府教育職員免許法認定講習会「器楽合奏」2004年8月

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 演奏 2. ピアノ教育 3. ピアノ教材
現在の研究課題(3件まで) 1. ピアノ指導法 2. 教材開発 3. 演奏法
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 室内楽演奏会 2. ピアノソロリサイタル 3. 現代音楽
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本音楽教育学会、日本音楽表現学会、日本演奏連盟、関西楽理研究会他
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都ピアノコンクール審査員 2. 滋賀県高校生ピアノコンクール審査員(H.14. H.15年) 3. 関西楽理研究会代表 4. 日本表現学会会計監事 5. 京都府教育委員会教科用図書選定審議会委員
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2004年 Kammer Konzert [会場]JACHYMOV St.JOACHIMSTHAL (チェコ・ヤヒモフ) 2. 2003年 川口容子 ミュージックリサイタル [会場]デトロイト補習校シーホーム校オードトリウム (U.S.A.デトロイト) 3. 2003年 デュオ及びソロコンサート [会場]バーミンガムのエписコバル教会 (U.S.A.デトロイト) 4. 2002年 李陽 ヴァイオリンが語る ~来日15周年記念コンサート~ ピアノを担当 [会場]京都コンサートホール(小) 5. 2002年 室内楽コンサート [会場]チェコ・ジロブニチにおけるナザムク室内楽ホール
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 人事委員 (H.15~H.16) 人事委員長 (H.16年度) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 演奏会 2. 室内楽の聴きどころについて 3. ピアノ公開講座
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	西 勇夫 (にし いさお)
所属講座・分野・職名	音楽教育講座・器楽分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学士 / 1966 年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1973 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>小学校教科専門音楽(共、12)、中等音楽科教育 (単、12)、情報音楽論(単、40)、けんぱん楽器演習 (単、10)、けんぱん楽器演習 (単、12)、けんぱん楽器演習 (単、10)、けんぱん楽器演習 (単、5)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>器楽特論(単、3)、器楽特別演習(単、3)、音楽教育特別研究 (共2)、</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 5人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 4人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入期におけるピアノ指導 歌うことと弾くこと 2. R.シューマンにおける変奏曲について－《交響的練習曲》op.13のモチーフ分析を中心に－ 3.
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1 . ピアノ演奏解釈論 2 . ピアノ学習論 3 .
現在の研究課題(3件まで) 1 . J.S.Bach 2 . F.Chopin 3 .
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1 . 2 . 3 .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1 . 2 . 3 .
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本学校音楽実践学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1 . 2 . 3 . 4 . 5 .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1 . 2 . 3 . 4 . 5 .
管理運営に関する活動実績 法人 : 附属学校部長 教授会選出: 学長委嘱 : 附属桃山小学校長
講演テーマ(3件まで) 1 . 2 . 3 .
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	大澤 弘之 (おおさわ ひろゆき)
所属講座・分野・職名	音楽教育講座・作曲分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士 / 1979 年
最終修了大学院(修了年)	大阪音楽大学大学院 (1979 年)
赴任年月	1980 年 6 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>小学校教科専門音楽 A (共、100)、小学校教科専門音楽 B (共、50)、総合演習 (単、15)、ソルフェージュ (単、25)、作曲・編曲法基礎 (単、25)、作曲 (単、20)、作曲 (単、20)、作曲 (単、10)、作曲 (単、5)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>作曲法特論 (単、3)、作曲法特別演習 (単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 3人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 2人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 1人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 0人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 映像に伴う音楽について 2. 電子オルガンの編曲について 3.</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 作曲 2. ソルフェージュ 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. 作曲 2. ソルフェージュ 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 作曲 萩原朔太郎の詩による歌曲「こころ」「旅上」「夜汽車」(2003年 第5回 HORIZON 作品演奏会) 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 関西現代音楽交流協会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 第7回奏楽堂日本歌曲コンクール入選

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学生生活・就職対策委員会 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	田中 多佳子 (たなか たかこ)
所属講座・分野・職名	音楽教育講座・音楽学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(音楽学) / 1999年
最終修了大学院(修了年)	東京藝術大学音楽研究科博士後期課程(1998年)
赴任年月	2002年2月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>音楽学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 民族音楽学Ⅰ,Ⅱ 民族音楽学演習Ⅰ,Ⅱ 日本音楽史 音楽(共通科目)</p> <p>日本音楽・民族音楽概論 小専音楽</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>音楽学特論 音楽学特別演習 楽書講読研究</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 5人、教員(専任)人、教員(非常勤)人、教育関係人、公務員人、一般企業人、進学人、その他人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、現職者人、教員(専任)人、教員(非常勤)人、教育関係人、公務員人、一般企業人、その他人</p> <p>H15 0人、現職者人、教員(専任)人、教員(非常勤)人、教育関係人、公務員人、一般企業人、その他人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 蘇州評弾の曲調 中国の語り物 2. イギリス統治下におけるインド古典音楽の変容 3. 日本のオペラ作品における台本作家と作曲家の関係
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 15年度京都教育大学研究申請プロジェクト「朝鮮・韓国の打楽器アンサンブル「サムルノリ」の教材化に関する実践的共同研究」(附属小中高教員との共同研究。関連する研究授業やシンポジウムを共同開催)
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>京都府教育職員免許法認定講習会「音楽史」(2003年8月)</p> <p>京都府高等学校十年研修スキルアップ「民族音楽」(2004年7月)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 民族音楽学(楽器学を含む) 2. 南アジア研究 3. 音楽情報データベース
現在の研究課題(3件まで) 1. インドの楽器と音楽文化 2. 世界音楽情報データベース 3. 朝鮮半島のサムルノリの教材化
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「北インド音楽の学習構造を探る 北インドの古典音楽を中心に」『音楽教育学』24-3号 1995 pp.34-37 2. 「南アジア」『最新 高校の音楽 I/指導の手引き』1997 p.124 3. 「異文化理解を促進する民族音楽メルチメディア・データベースの開発と利用について」『平成15年度松下視聴覚教育助成研究報告集(第九回研究開発助成の部)』研究代表者: 柘植元一 2003 pp.58-77
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 「ヒンドゥー教徒の集団歌謡「サマージュ・ガーヤン」研究 神と人との連鎖構造」(東京芸術大学大学院音楽研究科課程博士学位論文, 1998年提出) 2. 「第四章南アジア」『アジア音楽史』音楽之友社、1996年 3. 「インド音楽の旋法的分析の試み ラーガの理論を基に」『情報処理学会研究報告音楽情報科学』35-7号 2000年
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究B(一般) 平成15~16年度 分担者 近現代アジア・オリエン文化圏における音楽伝統の継承と変容
所属学会 日本音楽教育学会 日本音楽学会 東洋音楽学会 南アジア学会 国際伝統音楽評議会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 平成15年度~16年度国立民族学博物館「日本コロムビアの『外地』録音に関するディスコグラフィ的研究」共同研究員(研究代表者: 細川周平) 柘植元一教授企画楽器展「ひびき・かたち・そざい 東西の改良楽器をめぐって」(2004年10月21日(木)~11月3日(水)月曜休館、於: 東京芸術大学大学美術館陳列館) 楽器展企画協力・目録執筆協力
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 国際交流委員としての諸活動 2. 京都教育大学公開講座「インド音楽演奏会」企画・進行(2003年11月20日) 3. ふれあい伏見フェスタで留学生をゲストに招いての「アジアの音色に親しもう」企画・進行(2003年と2004年)
管理運営に関する活動実績 法人 : 国際交流委員(2002年11月~現在)
講演テーマ(3件まで) 1. 北インドの宗教と音楽(インド文化センター、2003年4月12日) 2. インド音楽への誘い(京都教育大学公開講演会 2003年9月18日) 3. インドの楽器をめぐって(教大協近畿地区大会 2004年5月)
高等教育機関への授業提供 京都市立芸術大学「アジア文化史II」(集中講義 2003年9月24日~26日)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 ヤマハ制作 「Web Music Magazine おんがくういきり」(週刊)で2001年11月~2002年10月の一年間連載の「おんがく世界めぐり」を監修。うち8回分を執筆。現在も http://www2.yamaha.co.jp/u/world/index_1.html に一年分すべてがバックナンバーとしてWeb上に掲載されている。

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	石川 誠 (いしかわ まこと)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・美術科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1973 年
最終修了大学院(修了年)	東京学芸大学 (1973 年)
赴任年月	2001 年 10 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 基礎セミナー(美教)(単, 17), 初等図画工作科教育(B)(単, 120), 初等造形教育演習(単, 10), 中等美術科教育Ⅰ(単, 34), 中等工芸科教育Ⅰ(単, 31), 美術教育学演習Ⅰ(単, 8), 美術鑑賞(単, 14), 総合的学習の研究(分, 40), 卒業研究(単, 10)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 美術科教育特論Ⅰ(単, 5(1)), 美術科教育特別演習(単, 5(1)), 美術科教育特別研究Ⅰ(分, 6(1)), 美術科教育特別研究Ⅱ(分, 6(1)), 課題研究(単, 2(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 14人、教員(専任)2人、教員(非常勤)3人、一般企業3人、進学 1人、その他5人 H15 6人、教員(専任)3人、教員(非常勤)1人、進学1人、その他1人
修士論文指導の実績と進路 H14 1人、現職者 1人、 H15 2人、現職者 2人、
現職者の指導実績 大学院生 H14 2人、H15 2人
留学生の指導実績 H15 1人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 鑑賞教育における地域の美術館利用に関する考察 京都市内の小・中学校による美術館利用の実態調査をもとに 2. ものづくりにおける自然素材が子どもに及ぼす効果の考察とその実践化 3. 粘土による造形の研究 素材の魅力を生かした実践化の可能性
附属学校での教育等(3件まで) 1. 2回生の授業観察実習における附属小・中学校との連絡調整, 学生の引率。3, 4回生の実習指導。 2. 研究発表会の助言者(附属京都小学校) 3. 鑑賞教育に関する実践研究会
教育に関するその他の活動 京都府教教育職員免許法認定講習講師(平成16年度), 教員採用試験受験セミナー助言者(平成14~16年度)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 鑑賞教育 2. 学校と美術館 3. 地域
現在の研究課題(3件まで) 1. 鑑賞教育における学校と美術館のかかわり 2. 生涯学習を見通した鑑賞教育のあり方 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 石川誠「美術館の提供資料にみる学力形成への示唆 図画工作・美術科の学力観」『教科教育共同研究 小・中学校における基礎・基本に関する研究』京都教育大学教科教育研究プロジェクト, 2004, pp.27-30. 2. 石川誠「美術教育における小・中学校カリキュラムの接続の現状と課題 「遊び」や「鑑賞」観をめぐって」『教科教育共同研究 小学校と中学校の教育内容の接続・連携に関する研究』京都教育大学教科教育研究プロジェクト, 2003, pp.64-71.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 石川誠「ニューヨーク近代美術館のティーチャーズ・ガイド 美術館が提供する教師支援の事例にみる学校と美術館のかかわり」『第26回美術科教育学会広島大会研究発表概要集』2004, p.35.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(c) 平成15~17年度 代表者 学校と地域の美術館の連携による生涯教育を見通した鑑賞実践プログラムの構築
所属学会 大学美術教育学会, 美術科教育学会, International Society for Education through Art
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 京都, 岡山, 東京の3地区の学校(6校)と美術館(3館)の職員10名からなる共同研究プロジェクトを構成し, 地域の美術館の資源を活用して鑑賞教育を改善する研究を進めている。
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 平成14年度 神戸市小学校および中学校教科・領域(図画工作・美術科)研修講師(平成14年度) 2.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 科学研究費により, アメリカの3機関(ニューヨーク近代美術館, メトロポリタン美術館, コロンビア大学ティーチャーズカレッジ)を訪問し, 鑑賞教育や学校と美術館の交流に関して意見交換をした。(平成15年度)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 生活科・総合的学習運営委員会(平成14年度), 自己点検評価委員会(平成15年度), 教育実践総合センター運営委員会(平成16年度) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 小・中学校における鑑賞学習のあり方を考える(平成14年度 神戸市小学校および中学校教科・領域(図画工作・美術科)研修) 2. 地域の美術館を活用する美術教育の展開
高等教育機関への授業提供 美術科教育学特論Ⅰ(宮崎大学大学院)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	岩村 伸一 (いわむら しんいち)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・絵画(西洋画)分野・教授
学位/取得年・資格(機関)	芸術学修士/1982年
最終修了大学院(修了年)	京都市立芸術大学大学院美術研究科(1982年)
赴任年月	1997年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>絵画制作 (単、8) 絵画基本研究(単、53) 絵画表現(単、28) 小学校美術科教材論B(単、10) 教育造形B(単、15) 総合演習A8(共、18) 美術鑑賞(単、50) 映像研究(単、20) 絵画制作(単、8) 作庭実習(共、12) 絵画演習(単、20) アートプロジェクト研究(単、24) 小学校教科専門生活C(分、22) 基礎セミナー造形表現(単、12)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>絵画特別研究(単、7(1)) 絵画特別演習(単、7(1)) 課題研究(単、1) 美術科教育特別研究(分、5(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 8人、教員(非常勤)1人、一般企業 2人、進学 1人、その他 4人 H15 6人、教員(専任) 1人、教員(非常勤) 2人、一般企業 1人、その他 2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 1人、その他 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. ドローイングの研究 2. 色面による絵画の研究 3. 出来事が多層性について</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>新潟県で開催された越後妻有アートのトリエンナーレに京都教育大学西洋画研究室で参加(作品名「土男計画」)。シンポジウム、ポスターセッションにも参加し他の教育系大学と交流。(2003)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 絵画 2. 作業 3. 美術
現在の研究課題(3件まで) 1. 作業の集積としての絵画 2. 現代絵画について 3. 庭の自然について
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 岩村伸一・2004・作庭実習「森をつくる」3 庭の自然について(1)・環境教育研究年報第12号・p55~67 2. 岩村伸一・2003・作庭実習「森をつくる」2 庭と時間・環境教育研究年報第11号・p47~60 3. 岩村伸一・2003・作庭実習「森をつくる」1 石を据える・環境教育研究年報第11号・p37~46
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 岩村伸一・2004・第33回個展・Oギャラリーeyes(大阪)・画廊企画 2. 岩村伸一・2003・第32回個展・ギャラリーDen(大阪)・画廊企画 3. 岩村伸一・2003・京都洋画の現在・京都文化博物館・招待出品
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 大学美術教育学会、美術教育実践学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 「みどりキャンプ」スタッフ研修会 京都府立り湊少年自然の家(2003) 2. 京都府陝西省交流芸術展実行委員(2003) 3. 公開講演会講師 附属環境教育実践センター(2002) 4. フォーラム「美術教育における教師の実践力と教員養成の在り方」パネリスト 第41回大学美術教育学会(2002) 5. 奈良県立教育研究所研修講座講師「植物の記憶をたどる」(2002)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 韓国プサンでの国際交流展に参加(2004) 2. ラオスのSinlapasankang Teachers Training School を訪問見学、交流を持つ。(2004) 3. 国際交流展である京都ビエンナーレ2003に招待作家として選抜される。(2003) 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出:教務委員 学長委嘱 :安全衛生委員会委員
講演テーマ(3件まで) 1. 現代絵画について 2. 造形あそびについて 3. 作庭に関する事柄
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	上田 博之 (うへだ ひろゆき)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・構成、デザイン分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1982年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>デザイン基礎 (単25) デザイン演習 (単10) デザイン研究 (単6) デザイン演習 (単10) デザイン研究 (単6) デザイン理論(単30) 中等美術教育 (単25) 情報造形コミュニケーション (共23) 基礎セミナー(単13)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>デザイン特別演習 (単2) デザイン特別研究(単2) 美術教育特別研究 (分6(1)) 課題研究(単(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業5人、進学 人、その他1人 H15 6人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業4人、進学 人、その他2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業1人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> ユニバーサルな視点に基づいた遊具とCI展開 視点の変化で呼び起こされる形態の研究と制作 21世紀のものづくり教育・社会教育力の活性と美術教育の役割
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 中・高校での教育実習指導
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>平成14年度京都府教育職員免許法認定講習講師</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. デザイン 2. グラフィック 3. 教育
現在の研究課題(3件まで) 1. デザイン教育と評価
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. [私の1点展]ポスター 2002 JAGDA in KOBE 兵庫県立美術館 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 意匠学会 大学美術教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 授業改善・評価研究講座(京都府総合教育センター北部研修所) 2. 専門高校設置検討委員会特別委員(大阪府教育委員会) 3. 京都府SKY大学講座(京都府生涯学習) 4. 学生から提案する京のかたち(アイデア・ビジュアル)KR P 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 附属学校長候補適任者選定委員会 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 美術教育分野の教育課程と目標の階層 2. 視覚性と美術教育の課題 3. デザイン教育における指導と評価
高等教育機関への授業提供 色彩構成論 (京都精華大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 丹波ワイン「京の町家レストランに似合うワイン」(JAGDA京都・5大学他) カレッジ・デザインセッション in 京都(KR P)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	岡村 倫行 (おかむら ともゆき)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・日本画分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	日本美術展覧会日本画部評議員
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1982年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>日本画制作 22、日本画制作2 22、日本画研究 24、日本画研究2 24、日本画技法 59、素描 118、初等 (共) 148</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>絵画特別研究 11、絵画特別演習 9</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業2人、進学 人、その他2人 H15 8人、教員(専任)1人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業1人、進学1人、その他3人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、教員(専任)1人 H15 1人、教員(専任)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 1人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水墨画の余白に関する考察 2. 型による芸術の現代的意義 3. 絵画における普遍性
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 絵画(日本画) 2. 絵画(人物) 3. 絵画(風景)
現在の研究課題(3件まで) 1. 風景と人間の融合 2. 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本美術展覧会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日中交流展出品 2. 京都府日本画協会展「京の今日」展出品 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出 : 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	小林 茂夫 (こばやし しげお)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・工芸分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士(1976年)
最終修了大学院(修了年)	東京芸術大学大学院美術研究科鑄金科(1976年)
赴任年月	1983年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>工芸基礎 (単、35)、工芸技法研究(単、20)、金属工芸研究(単、5)、生活造形論(単、35)、工芸表現研究 A(単、6)、工芸表現研究 B(単、6)、中等工芸科教育 (分、20)、小学校教科専門図画工作(B)(共、80)、</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>工芸特別研究(単、2)、美術科教育特別研究 (分、6(2))、工芸特別演習(単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、一般企業1人、その他1人 H15 3人、教員(非常勤)1人、その他2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、一般企業1人、その他1人 H15 2人、一般企業1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 2人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鑄金技法の研究とブロンズによる作品制作の考察 2. アルミ缶利用の考察・アルミ缶を材料に鑄造して小物をつくる・ 3. 家具の制作研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>公開講座 アルミ缶再生</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 金属工芸 2. 鋳金 3. 鋳型
現在の研究課題(3件まで) 1. 鋳金 2. 彫金 3. 鍛金
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 京都工芸作家協会展出品 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 京都工芸作家協会会員
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出 : 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 金属工芸 2. アルミ缶再生 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	谷口 淳一 (たにぐち じゅんいち)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・彫塑分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士 / 1979 年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院修士課程 (1979 年)
赴任年月	1993 年 4 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 立体表現基礎 (単、12) 塑造研究 (単、7) 小学校教科専門図画工作 (単、46) 立体表現研究 (単、4) 立体素材研究 (単、25) 中等美術科教育 (分、25) 立体表現研究 (単、4)
大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数) 彫刻特別研究 (単、6(1)) 彫刻特別演習 (単、0(0)) 美術科教育特別研究 (分6(1)) 課題研究 (単、2(0))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 4人 教員(非常勤)1人、進学2人、その他1人 H15 3人、教員(専任)1人、その他2人
修士論文指導の実績と進路 H14 1人 その他 1人 H15 2人 教員 非常勤1人、一般企業1人、
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 2人、 研究生 H14 0人、H15 1人
留学生の指導実績 H14 1人(大学院) H15 1人(大学院)
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 彫刻の素材に関する考察 紙の造形について 2. 塑造から生まれる表現 粘土という素材を通して 3. 20世紀中国の美術について
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属桃山中学校において「桃山ギャラリー」にて美術展を開催 2. 附属桃山中学校との「造形ワークショップ」 3. 美術科・附属養護学校合同野焼きワークショップ
教育に関するその他の活動 障害者の方々の日展彫刻鑑賞指導(美術科学生と共に)(H14,15年)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 具象彫刻 2. テラコッタ 3. 空間造形
現在の研究課題(3件まで) 1. 具象彫刻の研究 2. テラコッタ表現の可能性を研究 3. 生涯学習における美術について
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 平成13年～15年京都教育大学教育改革プロジェクト報告書「アートと触れ合う」 共 2. 京都教育大学彫刻研究室「彫刻研究」
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 「まほろばの風」第35回日展 東京都美術館 2. 「まほろばの宙」第35回日本彫刻展 東京都美術館 3. 「まほろばへの道」第34回日展 東京都美術館
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 大学美術教育学会(会員) 日本美術家連盟(会員) 日本彫刻会(会員)
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 「時空を超えて」制作 京都市役所前広場

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都教育大学「楽しい塑造教室」 公開講座講師 (H14,15年度) 2. 京都教育大学 ふれあい伏見フェスタにて「野外彫刻展」「親子土ひねり教室」開く(H14,15年度) 3. 深草総合庁舎における「立体作品展」(H14,15年度) 4. 京都教育大学ギャラリー「あなぐら」にて第2びわこ学園、一麦寮の人達の作品展を開催(H15年度)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府陝西省交流芸術展出品参加(H15年度)
管理運営に関する活動実績 法人 : 地域連携広報委員会 副委員長(H16年) 教授会選出: 人事委員会委員(H14,15年) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 彫刻表現について 2. 「土」の魅力について 3. 彫刻と鑑賞について
高等教育機関への授業提供 1. 基礎立体彫塑(京都精華大学) 2. 造形表現基礎演習2(彫刻)(成安造形大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 京都府スカイ大学(生涯学習)文化部門講師(平成14年)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	真神 仁宏 (まがみ にんこう)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・書道分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	
最終修了大学院(修了年)	京都教育大学(1967年3月)
赴任年月	1991年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>漢字かな交じり書(単)、総合演習(複)、筆技基礎(単)、中国書道史 (単)、初等国語科教育A(複)、漢字書法 (単)、漢字書法 (単)、漢字書法 (単)、書道制作 A(単)、書道制作 B(単)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>書道特別演習、課題研究、美術科教育特別研究</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任)3人、一般企業1人、進学1人、その他1人 H15 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤)2人、一般企業1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他1人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 王鐸の書芸術について 2. 傅山の臨書への姿勢 3. 高等学校芸術科書道漢字仮名交じり書の果たす役割
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 書道実技 2. 中国書道史 3. 書写書道教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 漢字作品制作 2. 米帝 3. 王羲之書法
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「小学書写」教科書編集 平成14年 1年~6年 教育出版 2. 高等学校書道、教科書 平成15年 著作関係者 東京書籍 3. 中学書写1、2、3年 平成13年 教育出版
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 第21回読売書法展 制作 2. 日本書芸院展 制作 3. 第35回日展 制作
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 書学書道史学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 第35回日展審査員、京展審査員(H16)、読売書法展審査員(H16)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 綾部市美術展書道分野審査員 H13~H15 2. 京展書道分野審査員 H16 3. 福知山市展書道分野(漢字)審査員 H16 4. 日展審査員 H15 5. 読売書法展審査員 H16
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 全国書美術振興会主催・文化庁後援「日本の書展」パリ展 H14 2. 全国書美術振興会主催・文化庁後援「日本の書展」ジュネーブ展 H14 3. 全国書美術振興会主催・文化庁後援「日本の書展」ローマ展 H16 4. 全国書美術振興会主催・文化庁後援「日本の書展」ブルガリア展 H16 5. 日本書法交流展 大阪上海友好都市提携25周年記念 H11
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 : 環境教育実践センター長
講演テーマ(3件まで) 1. 書道 2. 書写 3. 墨跡
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	脇坂 淳 (わきさか あつし)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・美術理論・美術史分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1969年
最終修了大学院(修了年)	早稲田大学大学院文学研究科 (1969年)
赴任年月	1993年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>美学概論 (単、35)、美学概論 (単、25)、美術史 A(単、34)、美術史 B(単、34)、 美学美術史演習 (単、13)、美学美術史演習 (単、16)、総合演習(分、10)、 博物館学概論(単、70)、博物館実習(分、30)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>日本美術史特論(単、4(1)) 日本美術史特別演習(単、3(1)) 美術科教育特別研究 (分、5(2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人 H15 1人、教員(専任)1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、教育関係1人 H15 2人、教員(非常勤)1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人(大学院)、 H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 障壁画の特質についての研究 2. 光り輝くものを求めて 3. 出来事が多層性について</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 2. 3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 日本絵画史 2. 近世絵画 3. 障壁画
現在の研究課題(3件まで) 1. 障壁画 2. 京狩野 3. 文化財保存
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. . 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 狩野探幽筆 春日局像(國華 1284号) 2. 狩野永岳の年齢加算問題(京都教育大学紀要 102号) 3. 六角堂能満院仏画粉本 仏像図像聚成(共著 法蔵館)
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 美術史学会、美学会、大学美術教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 大阪府文化財保護審議会委員(H.14、H.15、H.16) 2. 和歌山県立博物館協議会委員(H.14、H.15、H.16) 3. 熊本市、熊本城建造物復元課題検討委員会・障壁画部会長(H.14、H.15、H.16) 4. 和泉市文化振興財団評議員(H.14、H.15、H.16) 5. 京都国立博物館有形文化財評価員(H.14、H.15、H.16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 大学院運営委員会 学長委嘱 : 附属学校運営委員会
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	岡田 直樹 (おかだ なおき)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・書道分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	京都教育大学美術科書道専攻 1983年3月卒
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1994年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー(単20)、総合演習A8(単15)、中等書道科教育(単10)、(単10)、小学校教科専門国語A(共150)、B(共50)、筆技基礎(共10)、基本書法(単50)、漢字かな交じり書(共10)、かな書法(単6)、(単6)、(単6)、日本書道史(単6)、(単6)、書道制作 A(単6)、 B(単6)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>書道教育特別研究(単3(0))、書道特別演習(単6(0))、美術科教育特別研究(共6(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(非常勤)4人、一般企業1人、その他1人 H15 4人、教員(非常勤)3人、一般企業1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、その他1人 H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 6人、H15 6人</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関戸本古今和歌集の復元における一考察 2. 寸松色紙の復元における一考察 3. 平仮名の研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 書 2. 仮名 3. 一条摂政集
現在の研究課題(3件まで) 1. 仮名の書美 2. 一条摂政集の流麗美 3. 漢字かな交じり書
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 新学習指導要領並びに書道 教科書にみる漢字仮名交じりの書、書道研究「一東」324号 2004年3月 pp1-7 7頁 2. 書道 教科書にみる漢字仮名交じりの書の内容と問題点 書道研究「一東」325号 2004年4月 pp1-7 7頁 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 小島切の自由奔放な連綿線の技法をマスターしよう 芸術新聞社「墨」158号 2002年9月 pp45-55 8頁 2. 書道制作「羅旅の歌」 単 東京都美術館 社団法人日展 2002年11月入選 3. 書道制作「清月」 単 東京都美術館 社団法人日展 2003年11月入選
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日展会友、読売書法会理事、日本書芸院理事
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 伏見ふれあいウォーク(H14) 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 実地教育運営委員会、環境整備等委員会副委員長 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 一条摂政集の書美 2. 仮名の流麗美について 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	丹下 裕史 (たんげ ひろふみ)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・陶芸分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学修士 / 1991 年・教育学修士 / 1988 年
最終修了大学院(修了年)	京都市立芸術大学大学院美術研究科 (1991 年)
赴任年月	1996 年 4 月

教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 工芸基礎 (単、30) / 工芸素材研究(単、12) / 陶芸研究(単、13) / 工芸表現研究 A(単、5) / 工芸表現研究 B(単、5) / クラフトデザイン概論(単、35) / 小学校美術科教材論A(単、40) / 中等工芸科教育 (分、36) / 基礎ゼミ・造形表現(単、12)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 工芸特別演習 (単、5(1)) 美術科教育特別研究 (分、5(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 4人、教員(非常勤) 2人、一般企業 1人、その他1人 H15 1人、その他 1人 修士論文指導の実績と進路 H14 0人 H15 1人、現職者 1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 1人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 陶芸制作による空間概念の探求(卒業制作) 2. 紙窯による野焼き焼成の研究(卒業論文) 3. まなびやの記憶と保存(修士論文)
附属学校での教育等(3件まで) 1. 美術科・附属養護学校合同野焼きワークショップ 2004年7、8月から現在まで 2. 工芸素材研究(美術科専門科目)と作業実習(附属養護高等部)の授業提携 2004年4月から現在まで 3. 平成14年度京都教育大学・東京学芸大学合同公開講座スーパーバイザー
教育に関するその他の活動 学部研究生の指導を毎年1、2名行っている。

研究に関する活動実績

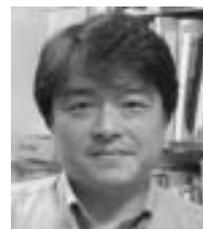
専門分野(キーワード3つまで) 1. 陶芸 2. 工芸教育 3. .
現在の研究課題(3件まで) 1. 陶芸制作における磁器及び型成形の表現素材・技法としての可能性に関する研究 2. 陶芸制作に関する大学と附属養護学校の提携に関する研究 3. 陶芸の教材化に関する研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 磁器の教材としての可能性に関する一考察 2003年3月 京都教育大学教育実践紀要 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 京都工芸美術作家協会展 2002年/2003年/2004年2月 京都府立文化芸術会館 2. 韓日陶芸作家交流展 2003年9月 サガンギャラリー(ソウル) 3. 朝日現代クラフト展 2003年5月 阪急百貨店(大阪)
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 大学美術教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 大学コンソーシアム京都芸術系大学作品展実行委員会委員 2002年/2003年 2. 京都府教育委員会認定講習講師 2003年8月 3. 京都教育大学公開講座 陶芸 2002年
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 韓日陶芸作家交流展に出品及び交流活動に参加 2003年9月 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 教務委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 陶芸の教材化に関するワークショップ(平成14年度京都教育大学・東京学芸大学合同公開講座) .
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 生涯発達・表現コース主任及び造形表現専攻主任 2002年

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	村田 利裕 (むらた としひろ)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・美術科教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1983年
最終修了大学院(修了年)	広島大学大学院 (1983年)
赴任年月	1983年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 初等図画工作科教育 (B)(単、96)、中等美術科教育 (単、25)、中等美術科教育 (共、3)、造形教育概論(単、13)、美術教育学演習 (単、3)、子ども文化論(共同 コーディネータ、113)、学校教育観察・参加研究(6)、美術教育とコンピュータ利用 (単、29)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 美術教育特論 (単、5(1))、美術科授業特別研究(単、6(1))、美術科教育特別研究 (共 コーディネーター、6)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 6人、教員(非常勤)2人、一般企業1人、進学2人、その他1人 H15 6人、教員(非常勤)3人、進学1人、その他 2人 修士論文指導の実績と進路 H14 1人、その他 1人 H15 2人、教員(非常勤)1人、一般企業1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 1人、
留学生の指導実績
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 美術教育はなぜ必要か 2. イメージ空間と動きに関する研究 - 宮崎駿アニメーションの事例から - 3. 紙で遊ぶ世界とその魅力
附属学校での教育等(3件まで) 1. 小・中・高等学校における教育実習の研究授業・検閲授業の指導 2. 「子どもと遊ぶ・見て感じ、つくって思いを育てる」(2004.6)、附属幼稚園、講演と実技講習 3. 附属校の教育研究会での指導助言
教育に関するその他の活動
研究に関する活動実績
専門分野(キーワード3つまで) 1. 教科教育論 2. 教科教材論 3. 教育実践論
現在の研究課題(3件まで) 1. 現代の教科教育体系論 2. 現代の教科教材と創造過程の発達論(障害児(者)との比較を含む) 3. 授業研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「世界とつながる心を育てる - 人の才能とその可能性 -」、(2002.11)、学校教育研究会・学校教育11月号、pp.12-17 2. 「小学校・中学校間の学力形成の断層・美術科教育にみる接続の現状と課題から」 (2003.3) 教科教育共同研究 小学校と中学校の教育内容の接続・連携に関する研究、平成14年度京都教育大学教育改革・改善プロジェクト、pp.72-80 3. 「小・中学校における学力と基礎・基本に関する研究」(2004.3)、平成15年度京都教育大学教育改革・改善プロジェクト、

<p>編者</p>
<p>その他専門領域に関わる研究業績（主な3件）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「造形遊びの学習指導」(2002.6)、共同出版、図画工作科教育学、pp.19-27 2. 「個性的な感じ方を重視した美術鑑賞教育の研究・自発的な態度を促す3つのワークショップから」(2003.6)、日本芸術教授学研究会、芸術教授学6号、pp.11-23 3. 「教育実践の「場」に臨む・画家 北川民次のメキシコ、トラムバムでの体験から」(2003.6)、日本芸術教授学研究会、芸術教授学6号、pp.89-98
<p>科学研究費補助金等の採択実績</p>
<p>所属学会 日本美術教育学会、美術科教育学会、日本教育心理学会、大学美術教育学会、色彩教育研究会、日本芸術教授学研究会</p>
<p>研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年度日本芸術教授学研究会鳴門大会 大会委員長 (2002.8)、共通研究テーマ「子どもと教師が共に学び、表現し、生きる・新しい教育実践の扉を拓く」 ・2003年度日本芸術教授学研究会京都大会 大会委員長 (2003.8)、京都大会研究テーマ「それぞれの感性とさまざまな感動を見つめて・多様な生き方、育みとしての芸術教育」 ・特別企画展、コーディネーター (2004) 「いのちの創造・アートの前にバリアーはない!」、会場：サンポートホール高松、主催：日本芸術教授学研究会、共催：一麦寮、第2びわこ学園
<p>社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績</p>
<p>社会貢献に関する活動実績(主な5件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MOA美術館「全国児童作品展」審査委員 2. 2002～2003年度日本芸術教授学研究会会長」
<p>国際交流に関する活動実績(主な5件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2004.4-2005.3 研究生(大韓民国) 李順民 氏
<p>管理運営に関する活動実績</p> <p>教授会選出：FD委員会</p> <p>学長委嘱：ホームページ検討WG委員</p>
<p>講演テーマ(3件まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科のこれからのあるべき姿 世界とつながる心を育てる ・総合的な学習の時間と図画工作をどう関連づけていけばよいのか ・子どもの想いを表す絵の世界
<p>高等教育機関への授業提供</p> <p>「情報機器の操作」、大阪教育大学</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山科支部図工主任会実技研修会・授業研究会講師(2002.8)「子どもが自分の想いを生かして、造形表現を深めるには ー 新しい時代の図画工作科の基礎・基本とはー」 ・相楽郡小学校教育研究会図画工作科部実技講習会講師(2003.10)「立体作品の鑑賞とその評価方法」 ・作業療法士研修会講師「紙の造形の教材研究 手からの造形経験やあそび心・発見をうながす学習(2000)」対象：高知県作業療法士会会員(主催：つねいし商店・日本色研事業株式会社)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	安江 勉 (やすえ つとむ)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・デザイン分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	芸術学士 / 1985年 愛知県立芸術大学
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1996年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>デザイン基礎 (単 40)、デザイン (単 12)、写真(単 12)、デザイン制作 (単 5)、教育造形B(分 15)、デザイン技法(単 40)、小学校教科専門図画工作(共 90)、基礎ゼミ(単 12)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>デザイン特別演習 (単 5)、美術科教育特別研究 (分 5)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 7人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、教育関係 人、公務員 人、一般企業3人、進学2人、その他1人 H15 3人、一般企業2人、進学1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グラフィックデザイン 2. プロダクトデザイン 3. 写真
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で制作した遊具を幼稚園にて検証(H14) 2. 高校にて教育実習指導(H16) 3. .
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. グラフィックデザイン 2. パッケージデザイン 3. ブックデザイン
現在の研究課題(3件まで) 1. グラフィックデザイン 2. パッケージデザイン 3. ブックデザイン
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 研究発表展「グッズ・デザイン展」企画・運営(美術科学部生13名の発表) H15 2. 研究発表展「ストレンジャー展」企画・運営(美術科大学院生6名の発表) H15 3. 研究発表展「グラフィック展」企画・運営(美術科学部生7名の発表) H14
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. グラフィックアート「明るい緑の長方形」/京展 2003 H15 2. グラフィックアート「明るい青の長方形」/京展 2003 H15 3. JAGDAメンバーズ・ポスター展「FILMS」/(社)日本グラフィックデザイナー協会 H15
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 (社)日本グラフィックデザイナー協会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. (財)大学コンソーシアム京都「芸術系大学作品展 2003」研究室参加 (H15) 2. (財)大学コンソーシアム京都「芸術系大学作品展 2004」実行委員 (H16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 「京都府・陝西省交流芸術展」実行委員(H15) 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 地域連携・広報委員会委員(H16) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 講演会「青木克憲のアートディレクション」企画・運営 H16・15 講演会「新田岳のイラストレーション」企画・運営 H14

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	小林 良子 (こばやし ながこ)
所属講座・分野・職名	美術教育講座・西洋画分野・教務職員
学位 / 取得年・資格(機関)	
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1974年5月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>版画、版画、卒業制作、等の個人指導。造形表現演習、現代美術、 、 、 、 、 、 、 、 、 等の授業のサポートをしている。</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 西洋画 2. 現代美術 3. 記号論
現在の研究課題(3件まで) 1. 記号表現の研究 2. 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 断片/白地図<月の昇る夕べの風景> 2. 断片/白地図<サン=レミのボブラ> 3. 断片/白地図<サン=シメオン農場の道>
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 : 安全衛生委員会化学物質取扱専門委員会委員
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	井谷 恵子 (いたに けいこ)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・保健体育科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(学校教育学) / 2002年
最終修了大学院(修了年)	兵庫教育大学(1989年)
赴任年月	1994年10月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 生涯スポーツ実習(フィットネス)(単、25)、初等体育科教育(共、110)、中等体育科教育(単、50) ダンス(単、15)、ダンス指導論(単、10)、保健体育科教育論演習B(単、4)、保健体育科教育論演習B(単、4)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 保健体育科教育論特別講義(単、7)、保健体育科教育論特別演習(単、7) 保健体育科教育特別研究(分、7)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 4人、教員(専任)4人 H15 3人、教員(非常勤)2人、進学1人 修士論文指導の実績と進路 H14 2人、現職者1人、一般企業1人 H15 1人、現職者1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人
留学生の指導実績 H14 1人、H15 人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 仲間づくりをねらいとするなわとび運動の教材開発に関する研究 2. フィットネス教育が学習者に及ぼす影響 身体活動に対して消極的な態度を示す学習者に着目してー 3. 小学校体育授業におけるジェンダー形成過程についての研究
附属学校での教育等(3件まで) 1. 2002年京都教育大学桃山地区附属学校研究発表会にて指導助言 2. 2002年近畿国立大学付属学校連絡協議会擁護教諭部会において講演 3.
教育に関するその他の活動 小学校教員採用試験対策体育実技講習のマネジメント、及び指導

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 体育カリキュラム 2. フィットネス教育 3. 体育・スポーツとジェンダー
現在の研究課題(3件まで) 1. 体育カリキュラムとジェンダー・ポリティクス 2. 体育とジェンダー形成 3. フィットネス教育のプログラム開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 平成14-15年度科研報告書「アクションリサーチによるフィットネス教育「HELP」の授業モデルの開発と改善」110頁. 2004 2. 翻訳「世界学校体育サミット・優れた教科『体育』の創造を目指して」1-6 体育と健康・安寧. 杏林書院. pp.131-146. 2003 3. 共著「体育科教育学入門」-5-2 体力を高める運動の授業づくり. 大修館書店. Pp.167-174. 2002
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 共編著「スポーツ・ジェンダー学への招待」明石書店. 330頁. 2004 2. 論文「女性体育教師への面接調査からみた学校体育のジェンダー・サブカルチャー」スポーツとジェンダー研究. 1:27-38. 2003 3. 論文「体育・スポーツ界のフェミニズムを阻むもの」現代スポーツ評論. 9 : 57-70. 2003
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C)(1) 平成14~15年度 代表者 アクションリサーチによるフィットネス教育「HELP」の授業モデルの開発と改善 基盤研究(C)(1) 平成13~14年度 分担者 日本の女性スポーツ黎明期における女子スポーツ奨励の理念と活動状況に関する研究・大阪府・愛知県高等学校の事例を中心に. 基盤研究(B)(1) 平成15~17年度 分担者 男女共同参画社会における男女共学化、共修化の研究.
所属学会 日本体育学会、日本スポーツ教育学会、日本教育学会、日本スポーツとジェンダー研究会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府スポーツ振興審議会委員 (2003.4-現在) 2. 日本スポーツ教育学会理事 (2003.4-現在) 3. 国立女性教育会館「平成14年度教師のための男女平等教育セミナー」ワークショップ講師(2002) 4. 全国学校体育研究協議会(文部科学省)第42回全国学校体育研究大会 体育実践発表に対する助言(2003) 5. H16年度京都市女性大学 女性学「自分らしく生きるためのからだ運動文化」講師(2004)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 第3回世界女性スポーツ会議への出席と発表. Action for Gender Equality in Sports in Japan Drawing up "A Proposed Plan for Gender Equality and Evaluation Criteria in Sports(2002) カナダ モントリオール 2.
管理運営に関する活動実績 法人 : 同和・人権委員会委員(2003,2004) 教授会選出: 将来構想委員(2002) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. フィットネス教育・身体づくり 2. 多様な体育カリキュラム 3. 体育・スポーツとジェンダー
高等教育機関への授業提供 体育科学特論 (筑波大学博士課程(2004))
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	井上 文夫 (いのうえ ふみお)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・学校保健分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	医学博士 / 1985年・医師免許
最終修了大学院(修了年)	京都府立医科大学大学院(1984年)
赴任年月	1996年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 <p>H14: 発育発達論(単 76)、救急処置及び看護(単 41)、学校保健(単 66)、スポーツ医学(単 56)、健康(単 57)、小児科学(単 49)、育児学(単 19)、学校保健演習(単 5)、学校保健演習(単 5)</p> <p>H15: 発育発達論(単 77)、救急処置及び看護(単 57)、学校保健(単 63)、スポーツ医学(単 60)、健康(単 39)、小児科学(単 27)、学校保健演習(単 5)、学校保健演習(単 5)</p> <p>H16: 発育発達論(単 30)、救急処置及び看護(単 33)、性と健康(単 61)、学校保健演習(単 5)</p>
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) <p>H14: 学校保健特論(単 3)、学校保健特別演習(単 4)、保健体育科教育特別研究(共 6)</p> <p>H15: 学校保健特論(単 2)、学校保健特別演習(単 3)、保健体育科教育特別研究(共 3)</p> <p>H16: 学校保健特論(単 3)</p>
卒業論文指導の実績と就職状況 <p>H14 6人、教員(非常勤)3人、一般企業3人</p> <p>H15 3人、教員(専任)1人、その他2人</p>
修士論文指導の実績と進路 <p>H14 0人</p> <p>H15 0人</p>
現職者の指導実績 <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
留学生の指導実績 <p>H14 0人、H15 0人、</p>
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) <ol style="list-style-type: none"> 1. 肥満とアレルギー疾患との関連 2. 携帯電話と不定愁訴との関連 3. アロマセラピーの効果
附属学校での教育等(3件まで) <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
教育に関するその他の活動

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 学校保健 2. 小児科 3. 代謝内分泌
現在の研究課題(3件まで) 1. 小児肥満 2. 運動療法 3. ライフスタイル
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 小学校高学年の運動の好き嫌いと体脂肪率との関連、小児保健研究 61: 328-333, 2002
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1 中学生の睡眠とアレルギー疾患との関連について、小児保健研究 61: 59-65, 2002
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究C 平成13~14年度、代表者
所属学会 日本学校保健学会、日本小児科学会、日本小児保健学会、日本肥満学会、日本臨床スポーツ医学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 特になし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市立医科大学客員講師：外来診療(肥満外来)、講義、研究指導(H14, H15, H16) 2. 肥満児の運動指導：ジュニアフィットネスクラブを6年前から開催し、運動、登山、ウォーキングの指導(H14, H15, H16) 3. 小児糖尿病サマーキャンプ：医療スタッフとして参加(H14, H15, H16) 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : H16: 安全衛生委員会委員(衛生管理者) 教授会選出: H14, H15: 大学院運営委員、H16: 教育実践総合センター運営委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 小児肥満 2. 生活習慣病 3. 健康教育
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	杉本 厚夫 (すぎもと あつお)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・体育・スポーツ社会学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	体育学修士/1978年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院修士課程(1978年)
赴任年月	1986年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 子ども臨床社会学(単、200) 総合演習:子どもとメディア(単、20) 小学校体育教材論(単、20) 体育・スポーツ社会学演習、(単、5) スポーツ社会学(単、70) サッカー(単、40)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 体育社会学特論(単、5(2)) 体育社会学演習(単、3(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 5人、教員(専任)4人、一般企業 1人、 H15 2人、教員(非常勤)2人、 修士論文指導の実績と進路 H14 1人、一般企業 1人 H15 1人、現職者 1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 0人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 子どもたちの遊びにおけるコミュニケーション形態の変容と臨床社会学 2. 小学校体育における身体観と「体ほぐし」運動の新たな展開 3. 地域総合型スポーツクラブが学校の部活に及ぼす影響について
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属京都小学校の研究授業の助言者 2. 附属京都小学校、京都中学校、桃山小学校、桃山中学校での教育実習での助言 3. 附属養護学校での教育実習生の事前教育
教育に関するその他の活動 ・京都府立少年自然の家主催の「ネイチャーIN南山城」(小学生のキャンプ)を学生と共に企画し、学生を派遣した。 ・京都の大学「学び」フォーラム2003:模擬授業「できないことは・・・」を京都国際会議場で行った。 ・文科省研究指定校「理科大好きスクール」指導助言者 ・フレンドシップ事業への協力:学生への「子ども達の指導に関する留意点」の講義を行った。 ・教員採用試験への全学的な対策指導:教採セミナー「保健体育」の試験対策に関する講義を行った。

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 臨床社会学 2. 子ども 3. スポーツ
現在の研究課題(3件まで) 1. コミュニケーションの臨床社会学 2. 義務教育におけるキャリア・エデュケーション 3. スポーツ文化の国際比較
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「スポーツの社会的役割」現代保健体育 教授用参考資料、大修館書店、H15 2. 「親子の絆を紡ぐ」京都府青少年補導協会、H15 3. 『自分のことは自分でしないー子どもの臨床社会学』ナカニシヤ出版、H14
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 監訳: W. マンチェンライター「サッカーと日本社会のイベント化」スポーツ社会学研究 12 巻、H16 2. 書評: 松田恵示著「おもちゃと遊びのリアル」大修館書店「体育科教育」、H15 3. 「漂白されたナショナリズム」黄順姫編『サッカー-W杯の熱狂と遺産』世界思想社、H15
所属学会: 子ども社会学会、日本スポーツ社会学会、社会学会、日本体育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等): 日本スポーツ社会学会理事(事務局長)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府社会教育連絡協議会理事、山城地方社会教育等連絡協議会会長 2. 宇治市生涯学習審議会委員長、社会教育委員会委員長 3. 宇治市野外活動センター理事長 4. 京都シティ FM 番組審議会委員長 5. 京都府、大阪府、滋賀県、奈良県の教育関係団体で、37回の講演を行った。
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 国際日本文化研究(ウィーン大学)での特別講演を行った。H15 2. エジンバラ大学の John Horne 氏を招聘し、本学と日本スポーツ社会学会での講演を企画した。H15 3. 韓国プザン大学で、「地域開発とスポーツについて」特別講演を行った。H15 4. 東アジア文化研究(エール大学)での特別講演を行った。H14 5. ウィーン大学の Manzenriter 氏を招聘し、本学と日本スポーツ社会学会での講演を企画した。H14
管理運営に関する活動実績 法人 : 評価室次長 教授会選出: FD 委員会副委員長
講演テーマ(3件まで) 1. 「自分のことは自分でしない」子どもとの豊かなコミュニケーションを求めて 2. 生涯学習社会のあり方について 3. 豊かなスポーツ文化のために
高等教育機関への授業提供 子どもとスポーツ、スポーツとメディア(龍谷大学) 体育社会学(上越教育大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 ・KBS 京都放送ラジオ: 「いくよ・くるよのはりきりフライデー」のモーニングカレッジのレギュラー出演、年30回 ・子ども臨床社会学研究会を主催し、毎月1回の研究会を開催する。 ・毎日放送ラジオ: 「ニュースアングル」にコメンテーターとして出演

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	寺田 光世 (てらだ みつよ)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・運動学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	医学博士 / 1976年・広島大学
最終修了大学院(修了年)	京都学芸大学(昭和39年)
赴任年月	1982年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>生理学(単、90)</p> <p>運動生理学(単、50)</p> <p>体力診断運動処方(単、30)</p> <p>中等保健体育科教育法Ⅰ(単、50)</p> <p>運動生理学演習Ⅰ(単、5)</p> <p>運動生理学演習Ⅱ(単、5)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>体力科学特論(単、2)</p> <p>体力科学演習(単、2)</p> <p>保健体育科教育特論Ⅱ(単、1)</p> <p>保健体育科教育演習Ⅱ(単、1)</p> <p>保健体育科教育特別研究Ⅱ(分、5)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任) 1人、教員(非常勤) 1人、一般企業 2人、進学 2人</p> <p>H15 3人、教員(非常勤) 2人、進学 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、教員(非常勤) 1人</p> <p>H15 0人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 1人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. ストレッチングが動作抵抗および動作速度に与える影響について</p> <p>2. 男女10歳から90歳に至る間の筋量変化について</p> <p>3.</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1.</p> <p>2.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 運動生理学 2. 保健教育法 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. 生体インピーダンスによる筋量測定法の研究 2. 小学校保健教材の開発 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 寺田光世ほか 教育系大学における出版事業活動とその地域貢献の可能性について 平成15年度教育改革・改善プロジェクト報告書 平成16年 2.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 疲れた体をリフレッシュ Q&A (単著) ミネルヴァ書房 2004 2. Ono.S. and M. Terada., Relationship between body mass index and 3000 meters running performance of young female athletes analyzed by Mahalanobis distance. Proc. Fourth ICHPERSD Asia Congress. 59-63. 2003 3. マラソン・ジョギング Q&A (共著) ミネルヴァ書房 2002
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、NSCA(米国)
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府体協スポーツ医・科学委員 2. スポーツ医・科学室運営協議会委員長 3. 宇治市スポーツ振興審議会会長 4. 京都体育学会副会長 5. 日本体育学会代議員
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
管理運営に関する活動実績 法人 : 経営協議会委員、教育研究評議会評議員、学長選考会議議長 教授会選出: 附属図書館長 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1 「解体新書のふしぎ」 2 「日常生活にスポーツを」 3 「スポーツマンの筋量と筋力」
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	藪根 敏和 (やぶね としかず)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・武道分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	体育学修士/1983年・講道館柔道6段(講道館)
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院修士課程体育研究科(1983年)
赴任年月	1990年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>コーチング論(単、20)、運動学(単、50)、生涯スポーツ実習 C(b)・護身術(単、30)</p> <p>武道指導論(単、15)、武道(単、40)、武道・コーチング論演習、(単、5)</p> <p>基礎セミナー(単、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>武道方法特論(単、2(1))、武道方法特別演習(単、2(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(非常勤)2人、公務員1人、その他1人</p> <p>H15 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、公務員1人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、公務員1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>研究生 H14 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 背負投の運動構造と指導法について 2. 障害者スポーツとしての剣道 肢体不自由者を対象として 3. バッティング時のタイミングの取り方とその効果の違いについて
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の参観、実習生への指導 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 武道 2. 運動学 3. コーチング
現在の研究課題(3件まで) 1. 効果的な投げ動作の究明 2. 投技の分類 3. 武道の教育効果
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 藪根敏和他2名、2004、You can do it Judo Series vol.1 SEOINAGE, SPORTS MOTION LABORATORY 2. 藪根敏和他5名、2004、柔道投技の骨組み 背負投編、不味道出版 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 藪根敏和他3名、2004、柔道再発見、不味道出版 2. 藪根敏和他5名、2003、起倒流の修行理論の構造に関する研究、pp. 1・9、大阪武道学研究 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本武道学会、日本体育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日本武道学会評議員 2. 講道館柔道科学研究部運営委員会委員 3. 大阪武道学会理事 4. 京都学生柔道連盟副理事長 5. 全日本ジュニア体重別柔道選手権大会京都予選会の主催(2003、2004)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 世界柔道選手権大会役員(2003) 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 入試委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. スポーツ運動の見方 2. 柔道投技のこつ 3. 武道と礼
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 学科主任、入選研委員(2002、2003)、近畿国立体育大会専門委員(柔道)、学科教育実習委員(2004)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	山下 秋二 (やました しゅうじ)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・保健体育科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(体育科学) / 1992年
最終修了大学院(修了年)	東京教育大学大学院体育学研究科修士課程(1973年)
赴任年月	1993年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>中等保健体育科教育 (単、50) 初等体育科教育A(共、120) 生涯スポーツ実習 A(単、40)</p> <p>生涯スポーツ実習 D(単、40) 保健体育教育論演習A (単、6) 保健体育教育論演習A (単、6)</p> <p>スポーツマーケティング演習(単、10) ハンドボール(単、70)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>保健体育科教育特論 (単、5)</p> <p>保健体育科教育特別演習 (単、5)</p> <p>保健体育科教育特別研究 (分、5)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 7人、教員(専任)3人、教員(非常勤)4人、</p> <p>H15 5人、教員(専任)3人、教員(非常勤)2人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、その他 1人</p> <p>H15 1人、現職者 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>研究生 H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人(大学院)</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体育授業における子どもの学習意欲と教師行動 2. チームスポーツにみるプレイの専門性と集団帰属意識 3. ハンドボールにおける達成動機と競技成績
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の検閲・研究授業 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>H14 全日本学生ハンドボール選手権大会への引率・監督(女子全国ベスト8)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 体育科教育 2. スポーツマネジメント 3. スポーツイノベーション
現在の研究課題(3件まで) 1. 体育の学習評価 2. スポーツサービスの品質評価 3. スポーツプロデュースの方法
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 山下秋二/有山篤利(2004)高等学校体育における評価規準の提示と実践的課題. 京都教育大学教育実践研究紀要 4:111-120. 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 山下秋二ほか(2003)スポーツ経営におけるサービス戦略とサービス評価. 京都体育学研究 19:15-26. 2. 谷幸子ほか(2003)障害者スポーツボランティアの類型化に関する研究. 体育・スポーツ経営学研究 18:1-12. 3. 金山千広ほか(2002)運動プログラムの評価がシフトアップ効果に及ぼす要因の検討 . 聖和大学論集 30:163-171.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本体育学会 日本体育科教育学会 日本体育・スポーツ経営学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 実地教育運営委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. スポーツ施設の経営戦略 2. 現代の消費心理と生涯スポーツ 3. 社会体育指導者の資質と能力
高等教育機関への授業提供 スポーツマネジメント論(立命館大学経済学部)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	和田 尚 (わだ ひさし)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・体育心理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	体育学修士/1972年
最終修了大学院(修了年)	東京教育大学大学院体育学研究科(修士課程)1972年
赴任年月	1980年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>スポーツ心理学(単、60) 体育・スポーツ心理学実習(単、15)</p> <p>体育・スポーツ心理学演習 (単、5) テニス(単、50) ニュースポーツ(単、30)</p> <p>生涯スポーツ実習(単、38)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>体育・スポーツ心理学特別演習(単、4(2))</p> <p>体育・スポーツ心理学特論(単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 5人 教員(専任)2人、教員(非常勤)2人、一般企業 1人、 H15 4人、教員(専任)2人、教育関係 1人、その他 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、 H15 2人、教員(専任) 1人 教員(非常勤)1人、</p>
<p>現職者の指導実績</p>
<p>留学生の指導実績</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校運動部活動における指導者の指導に対する信念の分析 2. 体育授業における教師の「カウンセリング・マインドに関する研究～生徒の学習意欲からの検討～ 3. プロ野球におけるスポーツファン心理の研究～タイガースファンに注目して～
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 体育・スポーツ心理学 2.
現在の研究課題(3件まで) 1. バランス能力の心理的側面 2. 運動継続者の運動に対する信念
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 児童期の心身発達に関する体育心理学的研究～四半世紀に及ぶ精神作業検査を中心に～ 科学研究費補助金(基盤研究(B)) (1)報告書(2004) 研究責任者:船越正康、研究分担者 和田 尚他5名
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 和田尚(2003) 運動パフォーマンスとパーソナリティ. 体育の科学 53:354-358
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(B)(1)(平成13～15年度) 分担者 児童期の心身発達に関する体育心理学的研究
所属学会 日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本教育心理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府スポーツ振興審議会委員(H14,15,16) 2. 京都府スポーツ科学委員会委員(H14,15,16) 3. 京都府医師会スポーツ医学委員会委員(H14,15) 4. 京都市小学校部活動指導者講習会講師(H15,16)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教育研究評議会評議員、 教授会選出: 学術委員、人事委員 学長委嘱 : 法人化準備委員会委員
講演テーマ(3件まで) 1. スポーツ指導の心理学 2. スポーツメンタルトレーニング 3. 子供の発達と運動の指導
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	中 比呂志 (なか ひろし)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・体育経営管理分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士/1989年
最終修了大学院(修了年)	金沢大学教育学研究科(1989年)
赴任年月	1995年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>スポーツ経営学(単、60)、バレーボール(単、70)、スポーツ情報論(単、30)、 スポーツ経営学演習 (単、5)、スポーツ経営学演習 (単、5)、生涯スポーツ特別実習(単) 生涯スポーツ実習 D(単、35)、基礎セミナー(単、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>体育経営管理特論(単、3)、体育経営管理学特別演習(単、2)、保健体育科教育特別研究(分、4)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員(非常勤)1人、一般企業2人 H15 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、教育関係1人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 1人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校体育授業における学習者ニーズに関する萌芽的研究 大阪府私立男子中学校を事例として 2. 大学スポーツ選手におけるサプリメントの利用とドーピング問題に対する意識 3. 観戦者からみたバスケットボールゲームの製品特性～JBL スーパーリーグを対象として～
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 桃山体カドッグ協力・助言 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>精華町子ども体力向上実践事業実行委員会委員長</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. スポーツマネジメント 2. スポーツ環境 3. スポーツ政策
現在の研究課題(3件まで) 1. 学校運動部活動 2. 体力低下 3. 青少年の骨密度
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 伊木雅之・中比呂志・佐藤裕保.2003.小中学生男女の腰椎、大腿骨近位部骨密度とその決定要因に関する横断的研究. Osteoporosis Japane Vol.11 No.2.86-89 2. 谷幸子・中比呂志・山下秋二・清田美絵.2003.障害者スポーツボランティアの類型化に関する研究 活動期待の 視点から。体育・スポーツ経営学研究.18巻.第1号.1-12.
科学研究費補助金等の採択実績 1. 基盤研究C(2).平成16年.研究代表者:中比呂志.5年間の追跡調査からみた思春期男女の骨量変化と最大骨量決定 要因の解明:学齢期の骨折と将来の骨粗鬆症予防のために. 2. デザン研究助成金.平成16年研究代表者:中比呂志.高校生における腰椎及び大腿骨近位部骨密度とその決定要因の縦断的研究 3. 基盤研究C(2).平成14・15年.研究代表者:中比呂志.思春期における腰椎・大腿骨頸部の骨量増加決定要因に関する追跡研究 4. 水野スポーツ振興会スポーツ学等研究助成金.平成14年.研究代表者:中比呂志.学校運動部活動は再生できるか?
所属学会:日本体育学会、日本体力医学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本公衆衛生学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府体育協会スポーツ科学委員会委員(平成13年度-) 2. 京都体育学会理事(平成16年度-)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出:企画委員会委員、学生生活・就職対策委員会委員、就職対策連絡会議委員長 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 「スポーツクラブの運営について」 2. 「運動部活動のあり方について」 3. 「思春期の骨密度と食事・運動との関係」
高等教育機関への授業提供 「京都の大学『学び』フォーラム2004」模擬授業 スポーツ情報論(奈良教育大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 平成15年度高等学校教職経験10年研修講師、平成14年度社会教育主事講師、平成14年度京都府教育職員免許認定講習講師

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	林 英彰 (はやし ひであき)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・体育理論・体育史分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1988 年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院 (1990 年単位取得退学)
赴任年月	1995 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>体育原理 (単、40)、身体文化論 (単、70)、体育原論演習 (単、2)、体育原論演習 (単、2)、 基礎セミナー (単、17)、生涯スポーツ実習 (単、45)、生涯スポーツ実習 (共、40)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>体育学特論 (単、2)、体育学特別演習 (単、1)、 保健体育科教育特別研究 (単、5)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0 人 H15 1 人、教員 (専任) 1 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1 人、教員 (非常勤) 1 人 H15 1 人、教員 (非常勤) 1 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3 件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病児の遊びと母親の子どもに対する愛着及び健康像との関連 2. マス・コミュニケーションにおける情報伝達と意味生成の認知意味論的分析 3. 現代剣道における武士道思想の空洞化について
<p>附属学校での教育等(3 件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 西洋古典 2. 体育の思想史 3. 身体論
現在の研究課題(3件まで) 1. 古代ギリシアにおける体育の思想 2. 学校体育とスポーツ文化 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 大学体育の思想：現代の教養再構築への体育学からの挑戦・総合的判断力育成の可能性を求めて・(2003) 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本体育学会、日本西洋古典学会、International Association for the Philosophy of Sport
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府立久御山高等学校体育コース卒業論文指導助言者(H14、H15年度) 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教学支援室員 教授会選出: 教務委員会委員 学長委嘱 : 学部改組検討委員会委員、近畿四大学連携協議会委員、情報公開委員会委員
講演テーマ(3件まで) 1. 古代オリンピック関連 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	榎本 靖士 (えのもと やすし)
所属講座・分野・職名	保健体育講座・バイオメカニクス分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(体育科学) / 2004年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院体育科学研究科 退学(2001年)
赴任年月	2004年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>バイオメカニクス(単, 35) 小学校教科専門体育 a(共, 45) 小学校教科専門体育 b(共, 45)</p> <p>陸上競技(単, 50) トレーニング論(単, 60) バイオメカニクス演習 I(単, 3) バイオメカニクス演習 II(単, 3)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>身体運動学特論(単, 2(0)) 身体運動学特別演習(単, 2(0))</p> <p>保健体育科教育特別研究 II(分, 3(0))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 体育科学 2. バイオメカニクス 3. 陸上競技
現在の研究課題(3件まで) 1. 中長距離走動作の分析 2. パフォーマンスの評価法 3. 運動能力の開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. . 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 榎本靖士・2004・走運動の力学的エネルギー・バイオメカニクス・身体運動の科学的基礎 金子公宥, 福永哲夫(編)・pp202-207 2. 榎本靖士, 阿江通良・2004・バイオメカニクスからみた長距離走における疲労・バイオメカニクス研究8(2)・112-119 3. 榎本靖士, 阿江通良・2004・日本一流800m選手のレースパターンの特徴・日本陸連科学委員会研究報告3(1)・45-51
科学研究費補助金等の採択実績 奨励研究(H14,15)
所属学会 日本体育学会, 日本バイオメカニクス学会, 国際バイオメカニクス学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日本陸上競技連盟科学委員会幹事(H14,15,16) 2. 日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ)(H14,15,16) 3. . 4. . 5. .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. トップアスリートの科学 2. 誰でもみんな足が速くなる 3. .
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	遠藤 浩 (えんどう ひろし)
所属講座・分野・職名	野外教育講座・野外教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	体育学修士 / 1986 年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院 (1986 年)
赴任年月	1989 年 10 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>バスケットボール(単・80)、小学校体育科教材論C(単・15)、総合演習(単・10)、基礎セミナー保体(単・40)</p> <p>野外教育・レクリエーション論演習(単・2)、野外教育・レクリエーション演習(単・2)、生涯スポーツ実習 Ab(単・50)</p> <p>生涯スポーツ実習 Bb(単・50)、生涯スポーツ実習 E(共・75)、生涯スポーツ実習 Ea(共・40)、生涯スポーツ実習 Eb(共・40)</p> <p>小学校教科専門生活A(単・70)、野外教育論(単・130)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>野外教育学特論(単・2)、保健体育科教育特別研究(分・5)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人、</p> <p>H15 3人、教員(非常勤)3人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、</p> <p>H15 人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育キャンプが参加児童の「生きる力」に及ぼす影響 2. 大学キャンプ実習が参加者の無気力感に及ぼす影響 3. スキー学校の運営に関する研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 野外教育 2. 教育キャンプ 3. アウトドア・レクリエーション
現在の研究課題(3件まで) 1. 2. 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「大学キャンプ実習が参加者のタイプA特性に及ぼす影響」、野外教育研究、7巻1号、p37-47、2003 共同研究2名、筆頭 2. 「キャンプの知 自然と人との教育実践から」、筑波大学野外運動研究室編、勉誠出版、2002 1章2節「問題を抱えているキャンパーと経験の少ないカウンセラー」p19-27 単著分担(16名) 3. 「教育キャンプにおける野外炊事に関する研究」、日本野外教育学会抄録集、p56-57 共同研究2名 筆頭
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本体育学会、日本野外教育学会 日本スキー学会、日本雪工学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市ユースサービス協会 専務理事 および企画委員会委員 (h14-h16) 2. 京都キャンプ協会 理事 (h14-h16) 3. 野外教育研究会「ママさんキャンプ」代表として教育キャンプを主催運営、計14回総日数77日 (h14-h16) 4. 京都府立南山城少年自然の家主催事業「アウトドア・アドベンチャー」、主任講師 (h15-h16) 5. 文部科学省大臣認定事業「キャンプディレクター2級講習会」講師 (h15)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 代表をしている野外教育研究会「ママさんキャンプ」において、カナダキャンプを主催 (h14) 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 自然体験活動の教育的効果 2. 地域における児童生徒の教育活動 3. 自然体験活動における指導法
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	安東 茂樹 (あんどう しげき)
所属講座・分野・職名	技術教育講座・技術科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(教育学) / 2003年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	2002年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>技術教育教材論(単、6)、産業技術論入門(単、18)、中等技術科教育(分、10)、中等技術科教育(分、11)、中等技術科教育(分、2)、職業指導概論(単、1)、木材加工法・実習(共、36)、基礎セミナー(共、17)、中等情報科教育(分、45)、総合演習(分、14)、総合的学習の研究(分、16)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>技術科教育特論(単、2)、技術科教育特別演習(単、3)、産業技術教育特別研究(分、2)、課題研究(単、1)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人、教員(専任)1人 H15 1人、教育関係1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文</p> <p>1. 楽しいものづくり学習を創造する授業方法の構築 2. 高等学校における新教科「情報」の授業実践とその分析</p>
<p>附属学校での教育等</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野 1. 技術科教育論 2. 実践授業論 3. 教材論
現在の研究課題 1. ものづくり・技術的能力の研究 2. 指導法研究 3. 題材開発・教材研究
教育および教員養成に関わる研究業績 1. 安東茂樹編、この発問で・題材・指導法で技術・家庭科研究授業 技術分野・家庭分野、明治図書、pp.1-17、2004 2. 安東茂樹・小栗一彦、半蔵の「からくり人形」機巧に迫るものづくり、「和文化の風」、明治図書、pp.76-85、2003 3. 安東茂樹編、評価規準・評価方法・問題づくり 中学校技術分野編、明治図書、pp.1-20、2003
その他専門領域に関わる研究業績 1. 安東茂樹、第6回技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト実施報告、日本産業技術教育学会誌、pp.219-223、2004 2. 安東茂樹、技術・家庭における目標に準拠した評価と学習指導の改善、中等教育資料 808、文部科学省、pp.16-21、2003 3. 安東茂樹、「課題学習」を支援する題材、CD-ROM 版技術科教育実践講座理論編3、ニチブン、Vol.3 pp.21-26、2002
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本産業技術教育学会、日本教科教育学会、日本教材学会、日本教育実践学会、日本工業技術教育学会、日本教師学学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績 1. 日本産業技術教育学会技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト実行委員長(2003) 2. 兵庫県明石市社会教育委員副議長・学校通学区域審議会委員・朝霧中学校学校評議員(2004) 3. 兵庫県伊丹市立総合教育センター運営協議会委員長(2004) 4. 兵庫県明石市立教育研究所スーパーバイザー(2004) 5. NPO 法人日本ものづくり交流支援協会会員(2004)
国際交流に関する活動実績 1. 日本産業技術教育学会国際関係委員会国際協力専門委員(2003) 2. 日本産業技術科養育学会「産業技術教育」のための国際教育協力シンポジウム実行委員、愛知県知立市、(2003) 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学生生活・就職対策委員 学長委嘱 :
講演テーマ 1. 技術科教育の研究 2. 総合的な学習の実践 3. 初等中等教育段階の評価・評定のあり方
高等教育機関への授業提供 総合学習実践事例研究(兵庫教育大学大学院) 技術科教育研究・技術科教育研究演習(芦屋大学大学院)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	関根 文太郎 (せきね ふみたろう)
所属講座・分野・職名	技術教育講座・機械分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(工学) / 1990年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1992年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>製図(単、50)、技術基礎(単、20)、小学校技術教材論(単、4)、総合演習(共、15)、 創造技術実習(共、15)、機械基礎・実習(単、20)、基礎セミナー(分、10)、 機械工学実験(単、4)、機械工学特講(単、2)、機械工学演習(単、2)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>機械工学特論(単、1)、機械工学特別演習(単、1)、産業技術教育特別研究(分、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人 H15 1人、教員(非常勤)1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精密プレスと金型の最適組合せ決定法の開発 2. せん断加工のシミュレーション 3. 祇園離子ロボットの製作
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 精密塑性加工学 2. 運動解析 3. 運動機構.
現在の研究課題(3件まで) 1. 精密プレスと金型の最適組合せ決定法の開発 2. 機械の変形メカニズムの解析 3. 機械の運動機構の基礎的研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本機械学会、日本塑性加工学会、精密工学会、日本産業技術教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 国際交流委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	土屋 英男 (つちや ひでお)
所属講座・分野・職名	技術教育講座・農業・栽培分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	農学博士 / 1993年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院農学研究科 (1980年単位取得)
赴任年月	1993年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー(複, 28) 技術・環境教育演習 I, II (単, 6) 総合演習 A, B (複, 各 20) 中等技術科教育 II (単, 15) 中等農学科教育 I, II (単, 各 10) 栽培演習 I, II (複, 各 60) 初等専門生活(複, 100) 環境教育論(単, 60) 暮らしと匠の知恵に学ぶ I, II (単, 各 40)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>技術科教育特論 II (単, 2) 技術科教育特別演習 II (単, 3) 栽培学特論 II (単, 1) 栽培学特別演習 II (単, 1) 産業技術特別研究(複, 3) 課題研究(複, 3)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 7人、教員(非常勤)2人、公務員2人、一般企業2人、進学1人 H15 4人、一般企業2人、進学1人、その他1人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、一般企業1人 H15 2人、教員(非常勤)1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの利用の視点からみた京都市伏見区内の公園の現状分析 2. 本学屋上の井戸水散布による階下室温の冷却効果 3. 京都府内の高等学校におけるゴミの実態とその問題解決に向けての技術教育および総合的な学習への適用に関する研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 技術科教育 2. 栽培教育 3. 環境教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 親と子の鴨川に対する認識調査 2. 栽培・自然体験の教育効果 3. 屋上緑化と散水による家屋の冷却効果の解析
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 増尾慶裕・土屋英男: チューリップ栽培における低温処理の理解をより深める学習モデルの開発とその効果 - 生徒の既有スキーマを活用して -, 日本産業技術教育学会誌 46巻1号, pp.7-15 (2004). 2. 増尾慶裕・土屋英男: 構成主義的アプローチによるケナフ栽培とその活用に関する学習法の開発, 農業学習の教育効果に関する研究, 日本農業教育学会刊行, pp.58-64 (2003). 3. 土屋英男: 「課題学習」を支援するカリキュラム, 技術科教育実践講座 理論編3 ニチブン, 東京 (2003).
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 土屋英男・清水健二・勝矢淳雄: 鴨川にいたく近隣地域の小学校児童とその保護者の認識, 用水と排水 45巻6号, pp.16-23 (2003). 2. 土屋英男: 技術科教育の現状と小学校・中学校間接毒の課題, 小学校と中学校の教育内容の接続・連携に関する研究, 京都教育大学教育改革・改善プロジェクト研究成果報告書 (平成14年度), pp.101-106 (2003). 3. 土屋英男: 「総合的な学習の時間」と農業との出会い - その教育的意義と課題 -, 農業と経済 68巻7号, p.16-23 (2002).
科学研究費補助金等の採択実績 萌芽 2002-2004年度 代表者 「児童期の自然活動源体験による成長後の価値観形成とそれに基づくカリキュラム開発」
所属学会 日本産業技術教育学会 日本環境教育学会 日本農業教育学会 こども環境学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. (特定非営利活動法人)循環型地球環境保全機構 研究顧問 (2001~現在) 2. 子どもと川とまちのフォーラム 運営委員 (2003~現在)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 実地教育委員(2002~2004) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 技術科教育の課題 2. 環境教育の教育的意義 3. 農業教育の課題と意義
高等教育機関への授業提供 技術科教育特論(大教大・大学院) 農業科教育法(京都大学, 神戸大学) 総合演習(京都府立大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	福間 則夫 (ふくま のりお)
所属講座・分野・職名	技術教育講座・電気分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(学術) / 1994年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院(1975年)
赴任年月	1976年5月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>近代産業技術 (単、40)、現代システム論入門(分、120)、総合演習(分、15)、技術基礎 (単、15)</p> <p>電気基礎・実習(単、17)、電気技術概論(単、9)、電子回路(単、5)、電気電子実験(単、7)、情報基礎実験(分、15)</p> <p>電気工学特講 (単、3)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>電気工学特論 (単、1)、電気工学特別演習 (単、1)、産業技術教育特別研究(分、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人、一般企業1人</p> <p>H15 0人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. 連続時間制御系のセクタ安定余裕について</p> <p>2.</p> <p>3.</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1.</p> <p>2.</p> <p>3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 自動制御 2. 制御システム理論 3. ロバスト制御系
現在の研究課題(3件まで) 1. 制御システム理論 2. 電気分野の教材開発 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 電気学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	中峯 浩 (なかみね ひろし)
所属講座・分野・職名	技術教育講座・電気分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(学術) / 1994年
最終修了大学院(修了年)	京都工芸繊維大学(1989年)
赴任年月	1995年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 情報機器の操作(単、60)・創造技術実習(共、15)・創造技術実習(共、15) 現代システム論入門(複、80)・計算機概論(単、80) 中等情報科教育(単、20)・電磁気学応用(単、10)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 電気工学特講(2) 電気工学特別演習(2)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 5人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、一般企業3人 H15 4人、教員(非常勤)1人、一般企業1人、進学1人 修士論文指導の実績と進路 H14 1人、一般企業1人 H15 2人、教員(専任)1人、一般企業1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人
留学生の指導実績 H14 1人、H15 1人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 協同学習実験によるペア協調性と学習効果との関係に対する考察 2. 捕食者に対する回避行動における魚群の協調行動のアルゴリズム 3. シミュレーションを取り入れたロボット製作実習の学習効果に関する研究
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属高等学校(SSH)における授業 2. 3.
教育に関するその他の活動 公開講座(中学生にもできるロボット製作) ふれあい伏見フェスタ(歩け、カタツムリロボット!)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. システム工学 2. 情報教育 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. 魚群行動のモデリング 2. 協同学習システムの構築および効果の検証 3. ロボット教材を用いたカリキュラム開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 新池, 三宮, 中峯, 飯間: 学習者の学習課題の解答誤りを予測するニューラルネットワークモデル, ISICIE 論文誌, 17, 7, 297-304, 2004 2. 新池, 中峯, 三宮: 電子回路設計におけるカリキュラム変更による学力低下の一検証, 教育システム情報学会誌, 20, 3, 319-323, 2003 3. Shin-ike, Nakamine & Sannomiya: A Method for Development of Paired Collaborative Learning in a Technical High School, Proc. of the 2002 Amer. Soc. for Eng. Edu. Annual Conf. & Expo., 401, 2793, 2002
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 新池, 守屋, 中峯, 三宮: 共同学習における重要文章抽出法, 教育システム情報学会誌, 19, 4, 224-229, 2002 2. 新池, 中峯, 三宮: NNおよび局所探索法を用いた共同学習におけるペアの組合せ決定法, SICE 論文集, 38, 5, 477-484, 2002 3. Nakamine, Shin-ike & Sannomiya: Analysis of Combination Types in Paired Collaborative Learning by Using a Self-Organizing NN, Proc. of the 6th World Multiconf. on Sys., Cyb. and Inf., 2, 202-207, 2002
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 システム制御情報学会、計測自動制御学会、日本産業技術教育学会、日本水産学会、電気学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3..
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 教務委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. システム工学から見た自己と他者の関係 2. 魚群行動のモデリングとシミュレーション 3.
高等教育機関への授業提供 制御工学(東京水産大学) システム工学(京都芸芸繊維大学) 物理学(近畿大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	佐竹 伸夫 (さたけ のぶお)
所属講座・分野・職名	情報学講座・情報数学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1989 年
最終修了大学院(修了年)	東京大学大学院博士課程単位取得満期退学(1989年)
赴任年月	1991年2月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>情報機器の操作 (A) (H14・H15分、H16単、59)</p> <p>情報教育法 (A) (H14・H15分、H16単、3)</p> <p>基礎セミナー(情数)(H15単、11)</p> <p>Cプログラミング基礎(単、53)</p> <p>Cプログラミング応用(単、46)</p> <p>知的情報処理(H15単、47)</p> <p>情報学講究 (H15・H16単、6)</p> <p>論理基礎(単、53)</p> <p>プログラミング言語 (単、49)</p> <p>プログラミング演習 (単、49)</p> <p>情報学講究 (H15単、6)</p> <p>情報教育講究(B)(H14・H15単、4)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>言語情報数学特論(単、3(1))</p> <p>言語情報数学特別演習(単、2(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任)2人、一般企業2人、その他2人</p> <p>H15 7人、公務員1人、一般企業2人、進学2人、その他2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>なし</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両眼立体視画像の合成に関する研究 2. 合同関係を例とした幾何問題設定の記述形式及び自動証明付与の研究 3. カオスの各種アトラクタのグラフィック表示と因果律に基づく思考形式におけるカオスの意義についての考察
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属養護学校における介護等体験実習参加者への指導・助言

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 情報学 2. 認知科学 3. 人工知能
現在の研究課題(3件まで) 1. 第一言語習得のモデル化及び、自然言語の習得可能性問題の解決策の研究 2. 自然言語の文の統語的曖昧さと意味・文脈的曖昧さの関係
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) なし
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 自然言語の習得可能性問題の解決策の理論構築と、それを検証するプログラム作成に膨大な時間がかかり、今回は、結果を発表するまでには至らず。
科学研究費補助金等の採択実績 なし
所属学会 情報処理学会、ソフトウェア科学会、人工知能学会、認知科学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) なし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 教育改革バイオニア調査研究(京都市教職員グループ)・事業「算数科において学力低下しているかを検証する」における、統計処理に関する指導・助言(H14) 2. 洛北高等学校 類における、「EXCELによる統計処理」にていての講演(H16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) なし
管理運営に関する活動実績 法人 : なし 教授会選出: なし 学長委嘱 : なし
講演テーマ(3件まで) 1. EXCELによる統計処理 2. 人工知能における学習分野の成果の教育への応用 3. 第一言語習得に関する論争
高等教育機関への授業提供 「情報処理演習1Z」、「情報処理演習2K」(佛教大学教育学部)(H14・H15)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 総合科学課程運営協議会委員長(H14後期から、現在に至る。)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	伊藤 伸一 (いとう しんいち)
所属講座・分野・職名	情報学講座・情報学分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	理学博士 / 1994 年
最終修了大学院(修了年)	電気通信大学大学院博士後期課程 (1994 年)
赴任年月	1997 年 10 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>情報言語コミュニケーション(単、60)、情報教育演習Ⅰ(単、10)、計算機シミュレーション(単、10)、 数理と情報(単、8)、留学生基礎(単、8)、留学生セミナー(単、8)、情報教育法(単、3)、基礎セミナー(共、10)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>計算機シミュレーション特論 (単、2) 計算機シミュレーション特別演習 (単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、一般企業2人 H15 0人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、一般企業1人 H15 1人、教員(非常勤)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ar クラスターの相転移に関する分子動力学シミュレーション 2. 浸透シミュレーション 3. Java を使ったシミュレーションの可視化
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	後藤 景子 (ごとう けいこ)
所属講座・分野・職名	家政教育講座・被服学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	学術博士 / 1986 年・中学校教諭 1 級普通免許状 家庭・高等学校教諭 1 級普通免許状家庭(奈良県教育委員会)
最終修了大学院(修了年)	奈良女子大学人間文化研究科(1986 年)
赴任年月	1993 年 10 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>被服科学(単、20) 衣生活概論(単、26) 生活界面科学(単、22) 被服材料性能論(単、16)</p> <p>被服科学実験(単、6) 被服造形実習(単、6) 小学校家庭科教材論(単、7)</p> <p>小学校教科専門家庭(分、75) 生活環境論(分、40)</p> <p>衣生活演習 (単、2) 総合演習 (単、20) 基礎セミナー (共、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>被服学特論(単、2) 被服学特別演習(単、1) 家庭科教育特別研究 (共、1)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1 人、進学 1人</p> <p>H15 3 人、教員(非常勤)2人、公務員 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校家庭科と関連させた『総合的な学習の時間』の構築—草木染めの教材化 2. 色彩を中心とした服装メッセージと印象形成について 3. エキシマ紫外光を用いた高分子の表面改質
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属高校スーパーサイエンス特別授業「洗濯を科学する」
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 被服学 2. 洗浄科学 3. 表面加工学
現在の研究課題(3件まで) 1. 水系洗浄へのエタノールの利用 2. 紫外光を用いた高分子表面の親水化 3. 固体表面のキャラクタリゼーション
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. K. Gotoh・2004・Wettability and surface free energies of polymeric materials exposed to excimer ultraviolet light and particle deposition onto their surfaces in water・Polymer Surface Modification: Relevance to Adhesion・Vol. 3・pp.125-137 2. K. Gotoh, Y. Nakata, M. Tagawa, M. Tagawa・2003・Wettability of ultraviolet excimer-exposed PE, PI and PTFE films determined by the contact angle measurements・Colloid and Surfaces A: Physicochemical and Engineering Aspects・Vol. 234・pp. 165-173 3. K. Gotoh and M. Tagawa・2002・Detachment behavior of Langmuir-Blodgett films of arachidic acid from a gold surface Studied by the quartz crystal microbalance method・Colloid and Surfaces A: Physicochemical and Engineering Aspects・Vol. 196・pp. 145-152
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C)(2)・平成14～16年度・代表者・環境適応型洗浄システムの開発のための洗浄力評価法の検討
所属学会 日本化学会・日本油化学会・日本家政学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) H14年度京都教育大学公開講座「シリーズ環境を考えるー私たちの生活と身近な環境ー」「暮らしの清潔と洗剤」
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 法人化準備委員会(H15)・企画調整室(H16) 教授会選出: 国際交流委員会(H12～14)・将来構想委員会(H14～15)・学部改組検討委員会(H15～16) 学長委嘱 : 新学部構想作業部会(H14)・自己点検評価書作成作業部会(H13～14)
講演テーマ(3件まで) 1. 洗濯のサイエンス 2. 洗濯と環境 3. 分散系の科学
高等教育機関への授業提供 アパレル科学実験(奈良女子大学、H14～15)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	関川 千尋 (せきかわ ちひろ)
所属講座・分野・職名	家政教育講座・住居学・家庭経済学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	工学博士 / 1984年・家政学修士 / 1968年
最終修了大学院(修了年)	奈良女子大学大学院家政学研究科 (1968年)
赴任年月	1978年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績	
住居学(単80) 家庭経済学(単25) 住生活経営論(単14) 住生活経営論演習(単10) 住生活実習(単25) 生活経営論(単31) 総合演習(単20) 基礎セミナー(単7) 小学校専門家庭(共75) 小学校家庭科教材論住居領域(単6) 住居学演習 (単2・2) 生活環境論演習 (単4・4)	
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)	
住居学特論(単1(1)) 住居学特別演習(単2(1)) 家庭科教育特別研究 (単1(1)・1(1)) 課題研究(単1(1))	
卒業論文指導の実績と就職状況	
H14 3人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、一般企業 1人 H15 5人、教員(専任)1人、進学3人、その他 1人	
修士論文指導の実績と進路 H14 1人、教育関係 1人、 H15 1人、現職者 1人	
現職者の指導実績	大学院生 H14 1人
留学生の指導実績	H15 1人(H16年に研究生になる)
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)	
1. 日本のフリースクールの現状に関する研究 2. 阪神・淡路大震災後に建てられた民間供給・高層共同住宅における住環境及び住意識に関する研究 3. 阪神・淡路大震災後の家計における住居費支出の動向について	
附属学校での教育等	
パソコンを使った住居領域の教材開発研究授業の共同実施(附属高等学校と民間私立高等学校との比較研究実施時)	
教育に関するその他の活動	
1. 2004年、京都府総合教育センター：高等学校家庭科教師十年研修講師 / 2. 2003年、日本教育大学協会家庭科部門特別委員会委員長として調査活動をした。(教育関連業績参照) / 3. 京都府教育委員会：高等学校家庭科(住居学及び家庭経済学認定講習講師)	

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで)	1. 住居学 2. 家庭経済学 3. 住教育学
現在の研究課題(3件まで)	1. 住居費に関する研究 2. 住居領域の教材開発研究 3. 高齢者福祉と住生活
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)	
1. 関川千尋・黒光貴峰：家庭科住居領域におけるコンピュータを導入した教材開発のための基礎的研究 高校生のコンピュー環境について、 <u>京都教育大学紀要</u> 第104号, pp. 39-49, 2004 2. 関川千尋：閉鎖型に傾斜する震災後の被災地での集住様式について・阪神・淡路大震災後十年に寄せて、 <u>家庭科教育</u> , 78巻6号, pp. 58-63, 2004	

<p>3. 関川千尋編著 他4名：大学入学前期（高校生）の生活教育の実情と今後の家庭科教師教育の展望・高校生とその保護者の調査から，<u>日本教育大学協会全国家庭科部門特別委員会報告書</u>，全84頁，2003</p>
<p>その他専門領域に関わる研究業績（主な3件）</p> <p>1. 関川千尋：住宅供給における木材利用に関する研究，日本建築学会経済委員会第20回シンポジウム（国際大会）論文集 pp. 113-120，2004</p> <p>2. 関川千尋：ウイーン市高齢者住宅“ハウスマルガレーテン 平成15年住宅・土地事情海外視察に参加して”，住宅，pp. 78-84，2003</p> <p>3. 関川千尋：非常時の「住居費」支出行動 阪神・淡路大震災の場合，日本建築学会計画系論文集，NO 560，pp. 261-268，2002</p>
<p>科学研究費補助金等の採択実績</p> <p>基盤研究B1 平成15～16年度 分担者</p>
<p>所属学会</p> <p>日本家庭科教育学会、日本家政学会、日本建築学会、都市住宅学会、IFHE(International Federation for Home Economics)</p>
<p>研究に関するその他の活動(共同研究) 日本家政学会（高齢者の住生活）</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績</p>
<p>社会貢献に関する活動実績(主な5件)</p> <p>1. 日本建築学会建築経済本委員会委員（～2004），同卒業論文等顕彰事業委員（1999～2005）</p> <p>2. 奈良県教育委員会奈良県産業教育審議会委員（～2005），同副委員長（2004,2005）</p> <p>3. 京都市建築紛争調停委員会委員（～2005）</p> <p>4. 京都府住宅管理審議会委員（～2004）</p> <p>5. 日本家政学会評議員（～2002）</p>
<p>国際交流に関する活動実績(主な3件)</p> <p>1. 第20回IFHE（国際家政学会）現地実行委員会委員として役割を果たす（2000～2004）</p> <p>2. チェコ、オーストリア、フランスの住宅・住宅地の視察参加とその報告（雑誌 住宅 2003.11月号）</p> <p>3. 研究留学生の受入れ（2004～）</p>
<p>管理運営に関する活動実績</p> <p>法人：学科主任（2002，2003），大学院家政教育専修主任（2004）</p> <p>教授会選出：附属学校長選出委員会委員長（2002）</p> <p>学長委嘱：大学院資格審査委員会委員長（2002）</p>
<p>講演テーマ（3件まで）</p> <p>1. 公営住宅と福祉の連携について（社団法人日本住宅協会 平成16年度公営住宅管理研修会）</p> <p>2. 家事労働の経済評価について（三重県八日市市講演）</p> <p>3. 住宅政策への多様なアプローチ（1998 都市住宅学会市民フォーラム）</p>
<p>高等教育機関への授業提供</p> <p>滋賀大学大学院非常勤講師（家庭経営学）（～2002），滋賀県立大学非常勤講師（生活経営学）（～2004），京都女子大学非常勤講師（家庭経営学）（～2004）</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動</p> <p>大学婦人協会奈良支部副委員長（2004）</p>

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	中西 洋子(なかにし ようこ)
所属講座・分野・職名	家政教育講座・食物学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	医学博士 / 1981年・家政学修士 / 1975年
最終修了大学院(修了年)	奈良女子大学大学院家政学研究科(1975年)
赴任年月	1990年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>小学校教科専門家庭(分、74)、小学校家庭科教材論(分、9)、調理科学実験実習Ⅰ(単、17)、調理科学実験実習Ⅱ(単、6)、食品材料学(単、29)、食生活実習(分、23)、生活環境論(分43)、食品化学(単、46)、食物科学(単、38)、調理科学(単、23)、食品栄養学実験(単、12)、総合演習(単、21)、基礎セミナー(共、21)、食物学演習Ⅰ(単、4)、食物学演習Ⅱ(単、4)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>食物学特論(単、2)、食物学特別演習(単、1)、家庭科教育特別研究Ⅰ(単、1)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、一般企業 1人、進学 1人、その他 1人 H15 5人、教員(専任) 1人、一般企業 3人、進学 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茶の抗酸化作用に関する研究 2. 機能性飲料の実態と大学生の利用状況 3. ビタミンCの褐変化に関する研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 食生活 2. 食品調理 3. 家庭科教育
現在の研究課題(3件まで) 1. キウイフルーツ果実に関する研究 2. 生涯を通じた食教育プログラム 3 食品の抗酸化性.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 食品衛生・食材管理教育プログラムの構築、中西洋子、科学研究費補助金研究成果報告書「インターネットによる生涯を通じた食教育プログラムの構築」(研究代表者堀越昌子) 72-79 (2004) 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1 .ガンに対する関心度とガン予防食生活実践における世代間の相違、中西洋子・成瀬明子、京都教育大学紀要、102、55-67 (2003) 2 . 3 .
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C) 平成13~15年度 分担者 インターネットによる生涯を通じた食教育プログラムの構築
所属学会 日本家政学会 日本調理科学会 日本家庭科教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1 高等学校教職経験10年研修「教科指導演習」講座家庭科・スキルアップ2の講師(2004年). 2 京都府教育職員免許法認定講習会「食物学」の講師.(2003年) 3 ふれあい伏見フェスタ「心と身体の健康チェック」に協力(2002年~2004年). 4 .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1 . 2 .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 企画委員会委員(H13.11~H16.3) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 食品の機能 2. 食生活の現状と課題 3. .
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	井上 えり子 (いのうえ えりこ)
所属講座・分野・職名	家政教育講座・家庭科教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士/1989年
最終修了大学院(修了年)	神戸大学大学院教育学研究科(1989年)
赴任年月	2004年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>初等家庭科教育(単、50)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>家庭科教育特論(単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p>
<p>現職者の指導実績</p>
<p>留学生の指導実績</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>京都府教育委員会 高等学校家庭科教育講座 講師(2004年8月9日)</p> <p>鳥取県教育委員会 中学校10年経験者研修(家庭科) 講師(2004年8月16日~19日)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 家庭科教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 家庭科教育史研究 2. 家庭科授業研究 3. 不登校問題への教育支援
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 井上えり子、2004年1月、「文検家事」男性合格者・谷忠一のライフヒストリー、鳥取大学教育地域科学部紀要(教育・人文科学)第5巻第2号、pp.65-85 2. 井上えり子、2003年1月、林勇記の家事教育論(1)・「文検家事」批判者のライフコースと家事教育論、鳥取大学教育地域科学部紀要(教育・人文科学)第4巻第2号、pp.249-271
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件)
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(B)(1)、平成14~平成16年度、分担者、「エンパワーメントの課題と方策に関する比較研究」
所属学会 日本家庭科教育学会、日本家政学会、日本生活学会、日本民俗学会、教育史学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績
講演テーマ(3件まで) 1. 現代の教育課題と家庭科教育の役割 2. 食教育と家族学習
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	宇都宮 博 (うつのみや ひろし)
所属講座・分野・職名	家政教育講座・家庭経営学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(教育学) / 2000年
最終修了大学院(修了年)	広島大学大学院教育学研究科(1999年)
赴任年月	2004年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>小学校教科専門家庭(分、75)</p> <p>生活経営学演習 (単、4)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>家庭経営学特論(単、4)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 家族関係学 2. 生涯発達論
現在の研究課題(3件まで) 1. 結婚生活の持続と心理的適応 2. 両親の夫婦関係と子どもの発達 3. 青年のエイジングに対する態度
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) ・ 湯川聡子・小林久美・北浦多榮子・宇都宮博 2004 高齢者疑似体験の学習効果とその限界・家庭科教育における体験学習が 高齢者理解に及ぼす効果 その1・九州女子大学紀要, 40, 1-15.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 宇都宮博 2004 高齢期の夫婦関係に関する発達心理学的研究 風間書房 2. 宇都宮博 2003 老年期における夫婦の関係性と性役割態度 高齢者のケアと行動科学, 9, 57-65. 3. 宇都宮博 2002 配偶者との関係性の危機と成熟 岡本祐子(編) アイデンティティ生涯発達論の射程 ミネルヴァ書房, Pp.198-223.
科学研究費補助金等の採択実績 若手研究(B)(平成14~16年度) 代表者 高齢期夫婦における介護・被介護関係への移行と心理的適応に関する実証的研究
所属学会 日本発達心理学会・日本教育心理学会・日本家族心理学会・日本家政学会・日本家庭科教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府総合教育センター主催 平成16年度高等学校教職経験10年研修講師
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 夫婦関係の発達心理学・ともに生きることの意味・ 2. 家族の健康性について考える・子育て期を中心に・ 3. 育ちの「核」としての家庭・個人化する家族のなかで・
高等教育機関への授業提供 ・中高年心理学(大分大学教育福祉科学部 平成15年度)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	榊原 典子 (さかきばら のりこ)
所属講座・分野・職名	家政教育講座・家庭科教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	家政学修士 / 1979 年
最終修了大学院(修了年)	奈良女子大学大学院(1979 年)
赴任年月	1988 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>初等家庭科教育 (単、30), 中等家庭科教育 (単、20), 中等家庭科教育 (単、1), 家庭科教材演習 (単、10), 家庭科教育演習 (共、4), 家庭科教育演習 (共、4), 住宅計画学演習 (単、5), 小学校教科専門生活 (分、50) パソコン Basic 入門 (共、100), 情報教育法 (共、10), 総合演習 (共、15), 基礎セミナー (共、17)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>家庭科教育特論 (単、2(2)), 家庭科教育特別演習 (単、1(1))</p> <p>家庭科教育特別研究 (単、1(1)), 家庭科教育特別研究 (単、1(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 5人、教員(専任)2人、教員(常勤)2人、その他1人</p> <p>H15 4人、教員(専任)2人、教員(常勤)2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 1人、教員(非常勤)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校家庭科『家族』学習に関する研究 家族関係の評価により気づきを深める試み 2. 家庭科への導入をめざした学校教育における開発教育のカリキュラムの検討 3. 教師による自作教育支援ソフトの導入について
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属京都小・中学校 教育実践研究協議会 協力者 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 家庭科教育 2. 環境工学 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. 家庭科における学習者特性と課題解決学習 2. 家庭科における環境教育 3. 家庭科における教材開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 榊原典子、追谷紀子 2003 家庭科における開発教育のカリキュラムの検討 京都教育大学紀要第103号 P.17~32 2. 沖花彰、榊原典子 2003 京都教育大学における情報リテラシー教育の一つの試み その2-履修必修後の変化について-京都教育大学教育実践研究紀要第3号 P.179~185 3. 関川千尋、他 2002 大学入学前期(高校生)の生活教育の実情と今後の家庭科教師教育の展望-高校生とその保護者の調査から-日本教育大学協会・全国家庭科部門特別委員会入口部会報告書 P.26-31, P.49-50
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 榊原典子、國嶋道子 2002 太陽熱利用空気集熱式床暖房住宅の温熱環境とその評価 ハウスクリマ研究会 ハウスクリマ研究ノート第27号 P.19-30 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C)(2)平成10・11年度 研究代表者 太陽熱エネルギー利用システム住宅の居住実態と温熱環境の評価
所属学会 日本家庭科教育学会、日本家政学会、日本建築学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 平成16年度 京都府教員研修中学校技術・家庭研修会 講師 2. 2003年度 財団法人省エネルギーセンター 省エネルギー教室 講師 3.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 教務委員会委員、附属教育実践総合センター運営委員会委員、総合的学習・生活科教育運営委員会委員、 学長委嘱 : フレンドシップ事業「ふれあい教室」担当員、情報処理センター運用担当者、学生相談員、セクシャル・ハラスメント相談窓口員
講演テーマ(3件まで) 1. 小学校家庭の授業改善および評価 2. 中学校技術・家庭の授業改善および評価 3. 中等家庭における住居指導
高等教育機関への授業提供 家庭科教育法(京都女子大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	太田 耕人 (おおた こうじん)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・英米文学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1981 年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学文芸・言語研究科 (1983 年)
赴任年月	1983 年 11 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>英米文学研究 (共、4)、英米文学講読 (単、20)、英米文学演習 (単、15)、英文学史 (単、25)、リーディング (単、20)、英語 III (単、10)、英語 I (単、40)、演劇 (単、70)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>英米文学特講 III (単、5)、英米文学演習 (単、5)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 1人、一般企業1人、進学1人</p> <p>H15 1人、一般企業1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. <i>King Lear</i> and the Image of Family</p> <p>2. Love and Friendship in Shakespeare's <i>Twelfth Night</i></p> <p>3. Death-marked love - Audience Response in Shakespeare's <i>Romeo and Juliet</i></p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1.</p> <p>2.</p> <p>3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 英国ルネサンス演劇 2. シェイクスピア研究 3. イギリス演劇
現在の研究課題(3件まで) 1. シェイクスピア時代の上演形態 2. 英国ルネサンスの劇場 3. 英国ルネサンス演劇のト書き分析
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 太田耕人「アゴラとしての批評・蜷川演出『ペリクリーズ』にふれて」 『シアターアーツ』vol. 18 平15. 8、pp. 46-53 2. 太田耕人「シェイクスピア劇の笑いと社会・『十二夜』をめぐるひとつの読み」 『シアターアーツ』vol.16 平14. 4、pp. 41-45 3. 太田耕人「インダストリーか、実験か?・英国演劇界の現状と新作劇」 『テアトロ』717号 平14. 1、pp. 98-101
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究C(2)平成14年度 代表者 グローブ座におけるエリザベス朝演劇の所作の研究 基盤研究C(2)(平成15~16年度) 代表者 グローブ座におけるエリザベス朝演劇の舞台空間と上演の研究
所属学会 日本英文学会・日本シェイクスピア協会・International Shakespeare Association・日本演劇学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 朝日舞台芸術賞選考委員 [朝日新聞社・東京本社](H14-16) 2. シアターアーツ賞選考委員 [国際演劇評論家協会・日本支部](H14-15) 3. 京都芸術センター運営委員 [京都市](H14-16) 4. 京都市芸術特別奨励制度審査委員 (H14-16) 5. 大阪市文化芸術振興事業評価委員 (H14-16)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学生生活委員会委員 (H14-15) 入試委員会委員 (H16) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. シェイクスピア時代の劇場 2. シェイクスピア時代の英語とせりふ 3. Narratology Revisited
高等教育機関への授業提供 英米文学特別講義(久留米大学比較文化研究科博士課程) Extensive Reading (京都外国語大学) 英米文学特殊講義(立命館大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	鈴木 寿一 (すずき じゅいち)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・英語科教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学士 / 1972 年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	1998 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中等英語科教育 I・II・III・IV (単、20) ・ 英語科教育特殊講義 IA・IB・IIA・IIB (単、15) ・ 児童英語教育 (単、14) ・ 英語教育学研究 A・B (分、4) ・ 音声学実習 (単、18) ・ 英語音声学講読 (単、12) ・ 英語 III (単、2) ・ 英語基礎 A (単、31) ・ 英語学習法実習 (単、22)
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語科教育特論 II・IV (単・4) ・ 英語科教育特別演習 II・IV (単・4) ・ 課題研究 (単・4) ・ 英語科教育特別研究 (分・4)
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6 人、教員(専任)1人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 4 人、教員(専任)2人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 3 人、教員(専任) 1人、教員(非常勤) 1人、 大学院博士課程進学 1人</p> <p>H15 3 人、教員(専任) 1人、教員(非常勤) 2人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 3人、H15 2人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . The application of total physical response for developing listening fluency and improving communicative competence 2 . The effectiveness of total physical response on grammar and vocabulary learning-an empirical study. 3 . An empirical study on the appropriate length of pauses for Japanese EFL learners' listening comprehension
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 教育実習指導 2 . 附属学校教育研究大会講演・指導助言 3 .
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1.リスニング 2.リ・ディング 3. T P R
現在の研究課題(3件まで) 1. T P Rによる文法指導と語彙指導 2. 4技能の指導法 3. プレ・インメ・ジング研究と英語指導法
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 鈴木寿一ほか (2004) 文部省高等学校用検定教科書 <i>Mainstream II New Stream II</i> 増進堂 2. 鈴木寿一(2003) 「こうすれば両立できる! コミュニケーション能力の育成と入試に対応できる学力の養成 - 実証データをふまえて」『近畿中高大英語教育連絡協議会紀要』第35号 3. 鈴木寿一ほか (2003) 文部省高等学校用検定教科書 <i>Mainstream I New Stream I</i> 増進堂.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 小池生夫(監修)(2003) 『応用言語学事典』pp. 481-482. 研究社. (項目執筆)
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 ・外国語教育メディア学会 ・関西英語教育学会 ・大学英語教育学会 ・日本音声学会 ・ことばの科学研究会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 英語教員資質向上研修講師(平成15~19年度: 京都府。京都市。滋賀県。平成15年度: 神戸市) 2. ス・パ・イングリッシュ・ランゲ・ジ・ハイスクール運営指導委員・授業指導委員・学術顧問 京都府立嵯峨野高等学校・滋賀県立米原高等学校(以上、平成14年~16年度) 京都市立紫野高等学校(平成15~17年度) 3. 文部科学省研究指定学力向上フロンティアスクール顧問 貝塚市立第三中学校(平成15~16年度) 4. 都道府県英語教育研究会研修会講師(京都府14年度、京都市15年度、兵庫県14年度、滋賀県16年度) 5. 中学高校英語教員のための英語教育セミナー・年2回各2日間の企画・実施(平成14~16年度)
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 教授会選出: ・実地教育運営委員会委員(16年度) ・附属学校長選考委員会委員(15年度) ・大学院運営委員会委員(14年度)
講演テーマ(3件まで) 1. 4技能の効果的な指導法 2. T P Rによる文法指導と語彙指導 3. 効果的な英語学習法
管理運営に関するその他の活動 ・大学院担当教員資格審査委員(平成13~15年度) ・学科主任(平成13~15年度) ・専修主任(平成16年度)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	奈倉 洋子 (なぐら ようこ)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・ドイツ語分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1971年
最終修了大学院(修了年)	早稲田大学大学院博士課程 (1975年)
赴任年月	1997年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績	
平成 14 年	平成 15 年
ドイツ語コミュニケーション A/B	ドイツ語コミュニケーション A/B
ドイツ語 C/D	ドイツ語 C/D
ドイツ語 A/B	ドイツ語 A/B
ドイツ文化 A/B	ドイツ文化 A/B
欧米言語文化研究 A/B	欧米言語文化研究 A/B
大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)	
平成 14 年	平成 15 年
ヨーロッパ文学	ヨーロッパ文学
卒業論文指導の実績と就職状況	
H14 2人、進学 2人	
H15 4人、教育関係 1人、一般企業 1人、その他 2人	
修士論文指導の実績と進路	
H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人	
H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人	
現職者の指導実績	
大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人	
留学生の指導実績	
H14 1人、H15 人、	
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)	
1. ベートーベンの第九交響曲の日本における受容の研究	
2. 香りについての文化史的研究	
3. チャールズ・チャップリン研究	
附属学校での教育等(3件まで)	
1.	
2.	
3.	
教育に関するその他の活動	

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. ドイツ近・現代文学 2. 比較文学・比較文化研究 3. 大衆文化研究
現在の研究課題(3件まで) 1. グリムのメルヒェンの日本における受容について 2. サイレント時代の映画の比較研究 3. 旅行記の比較研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. ドイツ語教科書の作成 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 言文一致運動とグリムのメルヒェン 2. 『女学雑誌』とグリムのメルヒェン 3. 黎明期のドイツ映画と日本
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本独文学会 世界文学会 比較文化学会 など
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. Germanistinnen(女性ドイツ語ドイツ文学者)の会機関誌編集 2.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. グリム研究所(ドイツ・カッセル)との研究交流 2.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 人事委員(平成15年) 学術委員(平成13年~14年) 附属学校長選考委員会委員(平成14年,平成16年) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. グリム童話の世界 2. ミヒャエル・エンデの世界・『モモ』、『はてしない物語』を中心に 3. 統一ドイツのその後
高等教育機関への授業提供 京都大学非常勤講師(ドイツ語担当)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 大学院専修主任(平成13年~15年) 学科主任(平成16年) 大学院担当教員資格審査委員(平成16年度)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	伊勢 晃 (いせ あきら)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・フランス語分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(文学) / 1998年
最終修了大学院(修了年)	関西学院大学大学院(1994年)
赴任年月	2004年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>フランス文化 IA/B (単, 12) フランス語コミュニケーション A/B(単, 19)</p> <p>フランス語 C/D (単, 2) フランス語 A/B (単, 2)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>ヨーロッパ文学特論 II(単, 1 (1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 .</p> <p>2 .</p> <p>3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 20世紀フランス文学 2. フランス語教授法 3. アヴァン・ギャルド芸術
現在の研究課題(3件まで) 1. アポリネールにおける秩序と無秩序 2. 効果的な教材開発 3. 文学とジャーナリズム
教育および教員養成に関わる研究業績 1. 伊勢 晃・谷口千賀子,『グラメール』, 早美出版社, 2002 2. 伊勢 晃,「シェルシュ・ミディの人々(上・下)」,『ふらんす』9, 10月号, 白水社, 2003
その他専門領域に関わる研究業績 1. 伊勢 晃,「アポリネールのパロディ喜劇『カザノヴァ』について」,『年報フランス研究』37 関西学院大学フランス学会, 2003 2. 伊勢 晃,「マルシェ・ド・ラ・ポエジー雑感」,『詩学』9月号, 詩学社, 2003 3. 伊勢 晃,「アポリネールと未来派 L'Antitradition futuriste をめぐって」,『年報フランス研究』36 関西学院大学フランス学会, 2002
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本フランス語フランス文学会, 日本フランス語教育学会, 文体論学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. パリ文学の会における講演(2003)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. フランス20世紀アヴァン・ギャルド文学 2. フランス語教授法 3. ギヨーム・アポリネールとその仲間
高等教育機関への授業提供 フランス文学購読(関西学院大学文学部), 初級フランス語(関西学院大学経済学部), 中級フランス語(関西学院大学商学部)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 実地教育運営委員, 就職対策連絡会議委員

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	児玉 一宏 (こだま かずひろ)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・英語学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(人間・環境学) / 2004年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院人間・環境学研究科(2000年)
赴任年月	2004年1月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>平成16年度前期</p> <p>基礎セミナー(共、47)</p> <p>英語学演習A(単、13)</p> <p>英語学研究A(分、2)</p> <p>英語 A(c) (単、21)</p>
<p>大学院の授業担当実績</p> <p>平成16年度前期</p> <p>英語学特論 (単、3(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ</p>
<p>附属学校での教育等</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野 1. 認知言語学 2. 構文文法 3. 言語習得
現在の研究課題 1. 用法基盤モデルと認知言語習得論の展望 2. 「免疫系の認知文法」の可能性 3. 認知言語学の構文研究と英語教育への還元
教育および教員養成に関わる研究業績 1. 児玉一宏 (2003a) 「認知言語学と英語教育との接点」『第29回全国英語教育学会 南東北研究大会発表要綱』pp.297-300. 2. 児玉一宏 (2003b) 「言語習得研究が英語教育に教えてくれるもの」『他者を見る目』 pp.159-182, 大阪教育図書.
その他専門領域に関わる研究業績 1. 児玉一宏 (2003c) 「認知語彙論と構文の習得」池上嘉彦・山梨正明・河上誓作[監修] 吉村公宏編著『認知音韻・形態論』pp.241-283, 大修館書店. 2. 児玉一宏 (2003d) 「言語習得」山梨正明・有馬道子編著『現代言語学の潮流』 pp.223-232, 勁草書房. 3. 児玉一宏 (2003e) 「認知言語学と言語習得 用法基盤モデルと構文習得研究を 中心に」『英語青年』(研究社)第148巻11号, pp.684-487.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本認知言語学会、日本英語学会、日本英文学会、日本語用論学会、日本言語学会 英語語法文法学会、関西英語教育学会、大学英語教育学会、日本免疫学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績
国際交流に関する活動実績
管理運営に関する活動実績
講演テーマ 1. ことばの不思議 2. 言語研究が英語教育に教えてくれるもの 3. 免疫学と言語学の対話
高等教育機関への授業提供 英語 (京都大学) 英語 (京都薬科大学) 英語科教育法 [集中] (京都府立大学) 英語学セミナー(卒論指導) [集中] (京都光華女子大学)
管理運営に関するその他の活動 英文学科入試委員、英文学科教務委員(副)、情報処理委員会委員

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	坂田 薫子 (さかた かおるこ)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・英米文学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1990 年
最終修了大学院(修了年)	日本女子大学大学院文学研究科博士課程後期英文学専攻・単位取得満期退学(1993 年)
赴任年月	1997 年 10 月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>英語コミュニケーションA(単、19)、英語コミュニケーションB(単、27)、英語(リスニング)IV(単、10)、西洋文学(単、74)、リスニングI(単、24)、英米文学講読I(単、40)、英米文学講読II(単、35)、英米文学演習I(単、11)、英米文学演習II(単、11)、英米文学研究A(共、3)、英米文学研究B(共、3)、英文学史(単、22)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>英米文学特論II(単、3(1))、英米文学特別演習II(単、3(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教育関係1人、一般企業2人 H15 2人、教員(専任)1人、公務員1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人 H15 0人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. H.G.ウェルズの『タイム・マシーン』とダーウィニズム 2. 十八世紀英国の庭園 3. エミリー・ブロンテの『嵐が丘』の自然描写
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. イギリス文学 2. イギリス文化 3. ジェンダー研究
現在の研究課題(3件まで) 1. 文学に見られる十九世紀イギリス社会文化 2. 文学に見られる十八世紀イギリス社会文化 3. 文学とジェンダー研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 坂田薫子(単訳) 2004年、『チヨムスキーとグローバリゼーション』(ジェレミー・フォックス(著))、岩波書店 2. 坂田薫子(単) 2003年、「テスは何を語ったのか」、『ハーディ研究』、42・60、113・114 3. 坂田薫子(共著) 2002年、『新しいイヴたちの視線』、彩流社、155・174
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会： 日本英文学会、日本ハーディ協会、The Thomas Hardy Society(英国)
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出：国際交流委員会、FD委員会 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. イギリス文学 2. イギリス文化 3. 社会人のための英語学習法
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	西本 有逸 (にしもと ゆういち)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・英語科教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	学校教育学修士 / 1997 年
最終修了大学院(修了年)	兵庫教育大学大学院 (1996 年度)
赴任年月	2001 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎セミナー(共 38)・英語コミュニケーション(単 25)・英語科教育購読(単 30)・リーディング(単 17)・英語基礎B(単 33)・小学校英語教材論(単 20)</p> <p>中等英語科教育 (単 25)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>英語科教育特論 (単 5(1))</p> <p>英語科教育特別演習 (単 5(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 8人、教員(専任)3人、教員(非常勤)2人、その他 3人</p> <p>H15 4人、教員(専任)4人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、進学 1人</p> <p>H15 5人、教員(専任)4人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 大学院1人、H15 大学院1人 研究生2人</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . The effectiveness of processing instruction in Japanese EFL classrooms (修士論文) 2 . The effects of artificial pauses on students' reproduction with conditional sentences (修士論文) 3 . An experimental study on the comparison of two reading aloud practices (卒業論文)
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>京都教育大学英語の教え方研究会を月に一回、主宰している。</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 英語教育 2. 英語教育におけるリテラシーの発達 3. 英語教育における人格の発達
現在の研究課題(3件まで) 1. ヴィゴツキーの文化歴史的理論 2. A. N. レオンチェフの活動理論 3. A. A. レオンチェフの言語活動理論
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 西本有逸 2004「英語科教育の基礎・基本」『小・中学校における学力と基礎・基本に関する研究』pp. 7-10. 京都教育大学 2. 西本有逸 2003「小・中学校英語教育の連携課題」『小・中学校の教育内容の接続・連携に関する研究』pp. 49-54. 京都教育大学 3. 西本有逸 2002「中学校英語科教育の現状と課題」『中学校の教育内容に関する研究』pp. 33-37. 京都教育大学
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 西本有逸 2004 「ヴィゴツキーと第二言語習得(3)」 『ヴィゴツキー学』 第5巻 pp. 1-7. ヴィゴツキー学協会 2. 西本有逸 2003 「ヴィゴツキーと第二言語習得(2)」 『ヴィゴツキー学』 第4巻 pp. 1-10. ヴィゴツキー学協会 3. 西本有逸 2002 「ヴィゴツキーと第二言語習得(1)」 『ヴィゴツキー学』 第3巻 pp. 1-8. ヴィゴツキー学協会
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 全国英語教育学会・関西英語教育学会・外国語教育メディア学会・ヴィゴツキー学協会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市教育委員会 平成16年度京都市立高等学校・養護学校英語科教員10日間集中研修 講師 2. 京都市教育委員会 平成15年度京都市立高等学校・養護学校英語科教員10日間集中研修 講師 3. 関西英語教育学会 京都地区理事(平成15年10月～現在) 4. 関西英語教育学会 紀要編集委員(平成15年12月～現在) 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 国際交流委員会 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 英語教育を支える豊かな視座 2. 英語教育の基礎・基本 3. ヴィゴツキーの人間の精神発達の文化歴史的理論
高等教育機関への授業提供 英語科教育法(京都外国語大学・奈良女子大学・大阪市立大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	二枝 美津子(にえだ みつこ)
所属講座・分野・職名	英語教育講座・英語学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	文学修士 / 1975年
最終修了大学院(修了年)	津田塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学(1982年)
赴任年月	1984年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>(H14)基礎セミナー(単、4)、言語学序論(単、25)英語史(単、8)英語音声学講読(単、24)英文法A(単、38)英語学演習B(単、16)英語学研究A(単、12)、英語学研究B(単、12)、英語B(単、3)</p> <p>(H15)基礎セミナー(単、7)、言語学序論(単、27)英語史(単、19)英文法A(単、30)英文法B(単、13)英語学演習A(単、21)、英語学演習B(単、6)英語学研究A(単、6)英語学研究B(単、6)、英語A(単、2)</p> <p>(H16)基礎セミナー(単、8)言語学序論(単、24)英文法A(単、32)英語学研究A(2、2)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>(H16)英語学特殊研究(単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 5人、教員(専任)1人、公務員 1人、一般企業 1人、進学 1人、その他1人</p> <p>H15 10人、教員(専任)6人、一般企業 2人、進学 1人、その他1(保育士)人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未来表現の認知言語学的アプローチ 2. 時制の一致と主体性 3. 前置詞 on と in のメタファー研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 認知言語学(認知文法) 2. 言語類型論 3. 語用論
現在の研究課題(3件まで) 1. 被動者-主語文の分析 2. 他動性と能格性 3. 態(voice)とアスペクト
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「常識?非常識?今思うこと」『英語科ニューズレター 4号』教育出版 pp.7-9 (H14年)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 「被動者-主語文の認知言語学的分析」『認知言語学論考 No.3』(山梨正明他編) ひつじ書房 pp.93-146 (H16年) 2. 「中間構文・能格構文・再帰構文」『英語教育研究 No.26』関西英語教育学会 pp.89-108 (H15年) 3. 「言語表現と Iconicity」『京都教育大学紀要 Vol.101』 pp.37-47 (H14年)
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本認知言語学会、日本英語学会、日本言語学会、日本語用論学会、関西英語教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 1. 共同研究:「存在」に関する生成的・認知的研究(松井千枝 京都ノートルダム女子大学教授)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府教育委員会教職10年目研修(英語学)講師(H15年)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 留学生(欧米言語専攻)を指導教員として指導(H12~16年) 2. 留学志願者の大使館宛の推薦状、および語学力証明書作成(H14年)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 英語の成り立ち 2. 時と空間の認知と言語 3. ことばの意味の広がり
高等教育機関への授業提供 (H14) 京都光華女子大学、英語、英語学を考える、英語の歴史 京都精華大学、英語学、英語学 (H15) 京都光華女子大学、英語学について読む、英語の歴史、英語の世界 京都精華大学、英語学、英語学 聖母被昇天短期大学、英語学概論 (H16) 京都光華女子大学、英語学について読む、英語の歴史、英語の世界 京都精華大学、英語学、英語学
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 言語社会コース主任、欧米言語文化専攻主任 英文学科教務担当、外国語(英語)の授業計画、外国語(英語)非常勤講師の依頼、申請等

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	太田 正己 (おおた まさみ)
所属講座・分野・職名	障害児教育講座・障害児教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1987 年 学校心理士 (日本教育心理学会)
最終修了大学院(修了年)	兵庫教育大学 (1987 年)
赴任年月	1989 年 4 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 障害児教育演習 A 及び B (単、各 5)、発達障害教育学概論 (分<隔年で単>、60)、障害児教育方法 (単、35)、障害児教育臨床 A 及び B (単、各 12)、発達障害学演習 (単、5)、基礎セミナー (分、20)、総合演習 (分、20)
大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数) 発達障害教育方法特論 (単、8 (3)) 発達障害教育方法特別演習 (単、3 (1)) 課題研究 (単、2 (1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 9人、教員(専任) 1人、教員(非常勤) 5人、公務員 1人、一般企業 1人、進学 1人、 H15 4人、教員(非常勤) 3人、教育関係 1人
修士論文指導の実績と進路 H14 2人、現職者 1人、教員(専任) 1人、 H15 2人、現職者 1人、教員(非常勤) 1人、
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人
留学生の指導実績 H14 1人、H15 1人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 長さの単位の同一性概念における一考察 知的障害児への任意単位の概念の指導を通して 2. 自閉症児におけるひらがな文字指導についての考察 3. 養護学校・福祉施設等の体験研修が通常学校の教員に及ぼす影響 交流教育理解を中心として
附属学校での教育等(3件まで) 1. 特別支援教育の現状と課題について講義 2. 障害児の授業研究に関する活動 3. 障害児教育相談に関する活動
教育に関するその他の活動

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 障害児の授業研究 2. 障害児の授業づくり 3. 自閉症児の指導法
現在の研究課題(3件まで) 1. 障害児の授業づくり. 2. 障害児の授業研究 3. 知的障害養護学校の教科書の研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 太田正己(2004)『特別支援教育のための授業力を高める方法』、黎明書房 2. 太田正己(2003)『名言と名句に学ぶ障害児の教育と学級作り・授業づくり』、黎明書房 3. 太田正己、編著(2003)『障害児のための個別の指導計画・授業案・授業実践の方法』、黎明書房
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 太田正己(研究代表)(2004)『特別な教育的ニーズ』を有する子どもの指導と支援体制に関する研究』、教育改革・改善プロジェクト経費研究報告書 2. 太田正己(2003)「子どもの実態把握と授業づくり」教育改革・改善プロジェクト経費研究報告書(研究代表:矢野喜夫) 3. 太田正己(2003)『自閉症児教育方法史(増補版)』、文理閣
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本特殊教育学会、日本発達障害学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市教育研究開発学校運営指導委員会委員長 2. 京都府立桃山養護学校専門家チームメンバー 3. 滋賀県特別支援教育推進協議会会長 4. 京都市立東総合養護学校評議員 5. 京都府立桃山養護学校評議員
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績(主な5件) 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 障害児の授業研究・授業づくり 2. 自閉症児の指導法 3. 特別支援教育
高等教育機関への授業提供 : 障害児指導法特講(岡山大学特殊教育特別専攻科)、障害児の授業研究(国立特殊教育総合研究情緒障害概念の変遷(国立特殊教育総合研究所))
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	冷水 來生 (しみず よりお)
所属講座・分野・職名	障害児教育講座・障害児心理分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1982年・教員免許(東京都教育委員会)
最終修了大学院(修了年)	東京大学大学院教育学研究科(1982年)
赴任年月	1982年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 障害児心理演習 A(単, 2) 障害児心理演習 B(単, 2) 障害児発達心理演習(単, 1) 障害児心理特講(単, 20) 障害児発達心理講読(単, 5) 発達障害心理学概論(単, 60) 障害児心理臨床 A(単, 5) 総合演習(A2)(分, 20) 基礎セミナー(分, 60) 障害児特別研究(B)(特専)(単, 3) 発達障害特論(特専)(単, 12)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 発達障害心理特別演習 (単, 2) 発達障害心理特論 (単, 3) 課題研究(分, 5)
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 2人、教員(専任)1人、教員(非常勤)人、教育関係人、公務員人、一般企業人、進学人、その他1人 H15 0人
修士論文指導の実績と進路 H14 人、現職者1人、教員(専任)人、教員(非常勤)人、教育関係人、公務員人、一般企業人、その他人 H15 人、現職者2人、教員(専任)人、教員(非常勤)人、教育関係人、公務員人、一般企業人、その他人
現職者の指導実績 大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人
留学生の指導実績 H14 人、H15 人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 発達障害児における象徴遊びの発達と2語文出現の関係 2. 聴覚障害者のカウンセリングにおけるコミュニケーション方法について 3. 自閉症児のセラピーにおける手話使用について
附属学校での教育等(3件まで) 1. 2. 3.
教育に関するその他の活動

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 手話の心理学的研究 2. 補助・代替的コミュニケーション 3. 言語発達障害
現在の研究課題(3件まで) 1. 手話の心理学的研究 2. 補助・代替的コミュニケーション 3. 言語発達障害
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 平成15年度京都教育大学教育改革・改革プロジェクト報告書「ノンバーバルコミュニケーションの研究」 2. 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 聴覚障害者が見たアメリカ社会・障害者法と情報保障 現代書館, 2004 2. コミュニケーション障害児への手話の導入について(1)~(3) 2004 日本特殊教育学会第42回大会発表論文集 3.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C)平成15, 16年度・代表者 言語発達障害児におけるサイン言語の獲得しやすさに及ぼす認知的要因に関する研究
所属学会 日本特殊教育学会, 日本教育心理学会, 日本心理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都教育大学公開講座「特別支援教育」 平成15年度 2. 京都教育大学公開講座「障害児教育と医療」 平成16年度 3.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 難聴者のみたアメリカ社会 2. 3.
高等教育機関への授業提供 障害児教育指導法 , (京都大学教育学部)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	田中 道治 (たなか みちはる)
所属講座・分野・職名	障害児教育講座・障害児心理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学博士(Ph.D) / 1982年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学大学院博士課程(1979年)
赴任年月	2002年10月



教育に関する活動実績

学部 の授業担当実績 障害児心理演習 A、障害児心理演習 B、障害児心理調査演習、発達障害学特講、障害児心理臨床 A、障害児心理臨床 B、 発達障害心理学概論、総合演習(A2)、基礎セミナー(発教)、基礎セミナー(発教)
大学院 の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 発達障害心理特別演習(3)、発達障害心理特論(10) 特別専攻科の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 障害児特別研究(A)、障害児心理特論、障害児研究(A)、障害児心理
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 0人、 H15 2人、教員(非常勤)1人、その他1人 修士論文指導の実績と進路 H14 0人、 H15 0人、 修了論文指導の実績と就職状況 H14 0人、 H15 6人、教員(専任)6人
現職者の指導実績 大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人 特別専攻科生 H14 人、H15 6人
留学生の指導実績 H14 人、H15 人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 障害をもつきょうだいの同胞の障害理解について 2. 学習障害(困難)児の発達を踏えた指導 3. (超)重度障害児の内面理解に基づく教育的反応の在り方について
附属学校での教育等(3件まで) 1. 2. 3.
教育に関するその他の活動

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 知能 2. 学習 3. 人格(動機づけ)
現在の研究課題(3件まで) 1. 教授行動と外的指向性 2. 教員の発達観、障害観、教育観 3. 媒介過程と動機づけスタイル
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 知的障害養護学校における総合的な学習の時間の取り組み、教育実践研究、20、71-77. 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 知的障害児及び健常児における自己意識の発達、特殊教育学研究、42(1)、1-11. 2. 精神遅滞児(者)の外的指向性に関する発達の研究、特殊教育学研究、41(3)、317-323. 3. 精神遅滞児の学習を規定する課題解決能力の発達、風間書房
科学研究費補助金等の採択実績 奨励研究(20163579)
所属学会 日本心理学会、日本教育心理学会(常任編集委員、H16.3まで)、日本特殊教育学会(常任編集委員)、日本保育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) ノンバーパルコミュニケーションの研究(大学と附属の共同研究)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 発達障害相談室(代表担当) 2. 京都おもちゃライブラリー協議会顧問 3. 公開講座講師(企画代表) 4. 京都市教委特別支援教育コーディネーター養成講座「知能診断」講師 5. .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 筑波大学留学生歓迎交流会企画・運営 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教員養成課程協議会委員、障害児教育講座主任、大学院運営委員会委員 教授会選出: 学術委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3. .
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	小谷 裕実 (こたに ひろみ)
所属講座・分野・職名	障害児教育講座・障害児病理分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(医学) / 1997年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	2001年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 人権問題論 (分、210)、総合演習(分、20)、基礎セミナー(分、40)、重症心身障害学(単、50) 障害児医学臨床A B(単、各20)、障害児発達医学演習(単、5)、障害児医学演習A B(単、各5) 障害児特別研究D(単、6)、観察実地研究(分、20)、学校教育観察・参加研究(共、80)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 発達障害医学特論 (単、5(2))、発達障害医学特別演習 (単、5(2))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 8人、教員(専任)2人、教員(非常勤)2人、一般企業1人、進学1人、その他(福祉関係)2人 H15 5人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、進学1人、その他(福祉関係)2人 修士論文指導の実績と進路 H14 1人、公務員1人 H15 3人、教員(非常勤)1人、その他(福祉関係)2人
現職者の指導実績 大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人
特別専攻科の指導実績 H14 5人、 H15 4人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 高機能広汎性発達障害幼児の社会的対人関係とその発達について 2. 自閉症児の発達過程について—関係発達論的視点からの考察— 3. 低出生体重児の父親の心理的受容について
附属学校での教育等(3件まで) 1. 平成14年度教育研究改革・改善プロジェクト「障害児個別指導計画のための発達アセスメント法の開発」共同研究 2. 平成15年度同上「特別な教育的ニーズを有する子どもの指導と支援体制に関する研究」講演会主催(於附属養護学校) 3. 平成16年度 附属桃山中学校夏季研究会「軽度発達障害児の理解と対応」講演
教育に関するその他の活動 平成14年、15年度リカレント公開講座担当、平成16年度公開講座担当

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 小児神経学 2. 発達障害の診断 3. 新生児医学(低出生体重児の発達)
現在の研究課題(3件まで) 1 軽度発達障害児の医療と教育 2 ソーシャルスキルトレーニング 3 . 低出生体重児の発達予後と支援
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1 . LD 周辺児のソーシャルスキル指導の試みー学生ボランティアを活用したプログラムの開発ー 山口正剛、小谷裕実、LD 研究 Vol.13 No.1 pp173-180, 2004
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1 . 思春期・青年期における重症児の発達と医療、小谷裕実、障害者問題研究 Vol.31 No.1 pp30-38, 2003 2 . 発達検査法の実際と児への対応 発達障害児を中心に、小谷裕実、新生児フォローアップガイド 第 章、診断と治療者 pp 87-107, 2003 3 . 近畿地方における知的障害児の肥満実態調査および肥満指導に関する考察 第 1 報、中佳久、小谷裕実、小児保健研究 Vol.62 No.1 pp17-25, 2003
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本小児科学会、日本小児神経学会、小児保健学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1 . 京都府教育委員会就学指導委員会委員 2 . 京都府教育委員会特別支援教育推進体制モデル事業専門家チーム委員 3 . 京都府教育委員会教科用図書選定審議会委員 4 . 京都市教育委員会就学指導委員会委員 5 . 京都府船井郡八木町および園部地方振興局の乳幼児健康発達管理事業嘱託医
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1 . スウェーデンから外国人講師を招いての講演会主催：平成 1 5 年度教育研究改革・改善プロジェクト「特別な教育的ニーズを有する子どもの指導と支援体制に関する研究」経費による講演会(於附属養護学校) 2 . 英国の自閉症学校への学生(有志のみ)派遣による見学研修(平成 1 5 年度) 3 . 英国の教員を、附属養護学校に案内し見学依頼(副校長により案内さる)
管理運営に関する活動実績 法人 : 衛生管理者(平成 1 5 年度、産業医免許取得)(H16) 教授会選出 : 人権委員会委員(H16)
講演テーマ(3件まで) 1 軽度発達障害児の支援(医療と教育の連携). 2 重症心身障害児の医療. 3 子どもの発育発達.
高等教育機関への授業提供 障害児診断学(兵庫教育大学大学院) 障害児医学特論 (奈良教育大学大学院)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	吉利 宗久 (よしとし むねひさ)
所属講座・分野・職名	障害児教育講座・障害児教育分野・講師
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(学校教育学) / 2004年
最終修了大学院(修了年)	兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程単位修得満期退学(2001年)
赴任年月	2001年10月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>「発達障害教育学概論」(共、70)、「障害児教育史」(単、50)、「障害児教育講読」(単、10)</p> <p>「障害児教育演習 A」(単、2)、「障害児教育演習 B」(単、2)、「発達障害学演習」(単、2)</p> <p>「社会活動論」(分、150)、「人権問題論」(分、200)、「総合演習」(分、20)、「基礎セミナー」(分、15)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>「発達障害教育特論」(単、5(2))</p> <p>「発達障害教育特別演習」(単3(2))</p> <p>「課題研究」</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人</p> <p>H15 1人、教育関係1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路(括弧内は特別専攻科)</p> <p>H14 6(5)人、現職者(2)人、教員(専任)(1)人、教員(非常勤)(2)人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 4(3)人、現職者(3)人、教員(専任)1人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人、 専攻科生 H14 2人、H15 3人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シュタイナーの教育思想と治療教育(学部) 2. 近畿圏域における養護学校高等部の交流教育(特別専攻科) 3. 特殊学級の合同学習における教育活動とその成果(大学院)
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公開研究会助言 2. 校内研修会話題提供 3. 介護等体験に関する共同研究
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>学内教授セミナー 講師, 人権に関する講演会 講師</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで)	1. インクルージョン 2. 特別支援教育 3. 特殊教育法制史
現在の研究課題(3件まで)	1. アメリカのインクルージョン 2. アメリカの特殊教育制度 3. 特別支援教育の動向
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)	1. 吉利宗久, 平岡恵子, 北山千嘉子, 小竹健一, 太田正己, 中峯浩, 手島光司(2004)教員養成における「介護等体験」の実施体制と活動内容・国立大学附属養護学校の取り組みを中心に. 京都教育大学紀要, 105, 79-96. 2. 吉利宗久, 水石陽子(2003)「特別支援教育」に関する教育委員会の対応とその進捗状況・質問紙調査を通して. 京都教育大学紀要, 103, 77-92. 3. 吉利宗久, ジャックリーン・フィリップス(2003)アメリカ合衆国における障害児の支援システムとインクルージョン・ハワイ州の取り組みを中心に. 障害者問題研究, 31(1), 73-80.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件)	1. 吉利宗久(2004)アメリカ合衆国のインクルージョンにおける協同学習モデルとその成果. 発達障害研究, 26(2), 128-138. 2. 吉利宗久(2003)インクルージョンに対する教育関係者の意識と態度・アメリカ合衆国における研究の動向. 特殊教育学研究, 41(4), 439-448. 3. 吉利宗久(2004)養護学校改革の動向と地域性. 藤井聰尚(編)特別支援教育とこれからの養護学校. ミネルバ書房. pp.48-66.
所属学会	日本発達障害学会 日本特殊教育学会 日本特別ニーズ教育学会

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件)	1. 京都市教育委員会教員研修会 講師 2. 京都市立養護学校講演会 講師 3. 京都市教育委員会学校サポートチーム(平成16年度~) 4. 京都府・京都市教育職員免許法認定講習 講師(平成14年度~) 5. 日本特殊教育学会システム研究委員会 構成員
国際交流に関する活動実績(主な5件)	1. ハワイ大学等海外研究者との共同研究
管理運営に関する活動実績	法人 : 教授会選出: 学長委嘱 : フレンドシップ委員(平成15年度)
講演テーマ(3件まで)	1. アメリカのインクルージョンの動向 2. アメリカの特殊教育制度 3. 「特別支援教育」の動向
高等教育機関への授業提供	障害者福祉特論(岡山大学 特殊教育特別専攻科) 障害児教育概説 (花園大学 社会福祉学科) 障害児教育原論(佛教大学 通信教育課程)

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	加用 文男 (かよう ふみお)
所属講座・分野・職名	幼児教育講座・幼児心理分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1977 年
最終修了大学院(修了年)	東京大学教育学研究科博士課程単位取得退学 (1982 年)
赴任年月	1983 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>幼児心理学総論(単、40)、言葉(保)(単、40)、幼児教育演習 b(単、6)、幼児教育演習 b(単、6)、幼児教育演習 b(単、6)、保育実践指導法 b(単、25)、基礎ゼミ(共、20)、総合演習(共、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>幼児心理学特論(単、6(1))、幼児心理学特別演習(単、20(3))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 6人、教員(専任)1人、教員(非常勤)2人、公務員 1人、一般企業 1人、その他 1人</p> <p>H15 6人、教員(専任)2人、教員(非常勤)1人、公務員 2人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14</p> <p>H15 1人、現職者 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児におけるかくれんぼの発達の分析. 2. ごっこ遊びにおける言葉の使い分け. 3. 幼稚園での遊びの分析から見た「連携」「支援」概念の限界.
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. H15 親子での泥だんごづくり会(付属幼稚園) 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>教育委員会をはじめとした機関に依頼されての講演など</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1 発達心理学 . 2 遊びの心理学 . 3 .
現在の研究課題(3件まで) 1 ごっこ遊びの矛盾について . 2 ごっこ遊びにおける言語行為の分析 . 3 泥だんご遊びの研究 .
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1 加用文男「遊びの中から学ぶ」『教育心理学』(無藤隆・麻生武編 北大路書房)2004, 53-60 2 . 3 .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1 加用文男「幼児のプライドに関する研究」『心理科学』2002 第23巻第2号 17-29頁 2 . 3 .
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本教育心理学会、日本心理学会、日本発達心理学会、感情心理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1 . 2 . 3 . 4 . 5 .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1 . 2 . 3 . 4 . 5 .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出 : 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1 . 子どもの遊び 2 . 3 .
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	平井 恭子 (ひらい きょうこ)
所属講座・分野・職名	幼児教育講座・保育内容の研究分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1989年
最終修了大学院(修了年)	岡山大学大学院(1989年)
赴任年月	2001年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>音楽教育指導法(単、15)、基礎セミナー(共、20)、総合演習(共、20)、幼児教育演習 (C)(単、5)、音楽基礎(単、15)、保育実践指導法(共、50)、幼児教育演習 (c)(単、5)、表現 (保)(単、18)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>幼児教育内容特論(単、4)、幼児教育内容演習(単、4)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 8人、教員(専任)6人、教員(非常勤)1人、教育関係 人、公務員 人、一般企業1人、進学 人、その他 人 H15 4人、教員(専任)3人、教員(非常勤)1人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 0人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児を対象としたわらべうた指導に関する研究・奄美大島のわらべうたを中心に・ 2. 幼児期における音楽的表現・1、.2歳児の音楽的発声を中心に・ 3. 幼児向けテレビ番組の音楽教材が幼児に与える影響・「おかあさんといっしょ」を中心に・
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 京都教育大学附属幼稚園主催「納涼大会」への参加、協力(学生によるブラックファンタジー上演他) 平成14年~16年 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 音楽 2. 幼児 3. 表現
現在の研究課題(3件まで) 1. 保育者養成におけるソルフェージュ指導 2. わらべうた遊びにみられるリトミック的要素 3. 乳幼児の歌唱行動の発達
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 幼稚園教員養成課程における音楽基礎能力の育成(関西楽理研究) 2. 保育者養成におけるソルフェージュ指導に関する研究(2)(日本保育学会第55回大会発表論文集) 3. 学校音楽教育におけるトーンチャイムの活用(教育実践研究紀要第3号)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 幼児を対象にした歌の会～ポストンにおける取り組み(関西楽理研究) 2. 幼児の歌唱行動に関する一考察・ことばのアクセントとわらべうたの旋律との関係について・(京都教育大学紀要 No.101) 3.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本保育学会、日本音楽教育学会、日本乳幼児教育学会、日本ダルクローズ音楽教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 幼児教育科3.4回生学外公演(宇治市こざくら幼稚園にて)主催 2. 第45回近畿音楽教育研究大会(於:中京もえぎ幼稚園)指導、助言 3. 「読み聞かせ」の会主催(本学附属図書館にて)(H14,15,16) 4. ふれあい伏見フェスタ「遊びの広場」企画、実施(H15,H16) 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	伊藤 悦子 (いとう えつこ)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・人権教育(社会教育)分野・教授
学位/取得年・資格(機関)	教育学修士/1982年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院(1988年度)
赴任年月	1992年2月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>基礎ゼミ(共、40)</p> <p>社会教育論(単、60)、社会教育演習(単、15)、観察(分、25)、同和・人権教育論(単、100)、教職の研究(分、70)、同和教育の研究(単、20)、生涯学習論(単、25)、人権問題論(分、180)、人権問題論(単、65)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>人権教育特別演習(単、3)</p> <p>人権教育特論(単、4)</p> <p>人権教育特論(単、4)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、その他2人</p> <p>H15 4人、教員(非常勤)2人、公務員1人、一般企業1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人、</p> <p>H15 1人、現職者1人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 1人、H15 2人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「中学校における『人権をテーマにした総合学習』の現状とあり方」 2. 「ワーキングマザーの就労支援のための保育園のあり方」 3. 「小学校と地域社会の連携」
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 付属桃山中学校3年生対象の人権教育2時間 2. 付属京都小学校教職員対象の人権研修 3. 付属桃山中学校教職員対象の人権研修
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>2002年7/18～8/28 社会教育主事講習(副主任講師)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 人権教育 2. 同和問題 3. 部落史
現在の研究課題(3件まで) 1. 人権教育の方法論 2. 部落史 3. 融和教育の歴史.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 戦後の同和地区における長欠問題の実態と要因、2004, 関西教育学会紀要28号、161-165頁 2. 人権啓発の課題と可能性 京都市を事例として、2003, 部落解放研究150号 24-41頁、 3. 人権教育における参加型学習の意義と限界、2003, めめんと11号
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 第4回高槻市人権意識調査報告書、2004, 137-139及び150-153頁 2. 大阪の部落史6巻「解説」、2004, 解放出版社 31-34頁 3. 人権意識の現状と課題、2003, 教委連だより、141号 22-38頁
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本社会教育学会、教育史学会、関西教育学会、教育社会学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府社会教育委員(h15, 16) 2. 京都府人権教育企画推進委員会委員(h14, 15, 16) 3. 京都府生涯学習推進ネットワーク推進委員(h15, 16) 4. 高槻市人権施策推進審議会委員(h14, 15, 16) 5. 亀岡市人権教育・啓発推進指針策定委員会委員(h14)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 企画委員会(h14) 学長委嘱 : 人権委員会(h16) 同和・人権教育促進委員会(h14, 15) 独法化WG(h14)
講演テーマ(3件まで) 1. 人権意識 2. 部落史 3. 人権教育
高等教育機関への授業提供 「日本教育史」(京都工芸繊維大学、h14)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	岩田 純一(いわた じゅんいち)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・発達心理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学博士 / 1985 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院教育学研究科修士課程(1972 年度)
赴任年月	1990 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>心理学(単、320) 教育心理学(単、90) 発達心理学演習(単、15) 教育心理学課題実験(単、2) 児童の心理学(単、50)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>発達心理学特別演習(単、20(3)) 発達心理学特論(単、27(1)) 言語発達心理学特論(単、34(5))</p> <p>臨床人間形成学実習(単、18(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員(専任)2人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 2人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業1人、進学1人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係1人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p> <p>H15 2人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係2人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母親のもつ愛着パターンと maltreatment との関連 2. 子どもとファンタジー：空想 現実判断能力とイメージ生成 3. 幼児の「心の理論」獲得に及ぼす要因の検討
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属幼稚園園長 2. 附属桃山地区三校園「豊かな育ちを生み出す学びの環境づくり」の実践研究に協力者として参加 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 発達(乳幼児・児童) 2. 自己・自我 3. 言語・認知
現在の研究課題(3件まで) 1. 自己の発達 2. 言語の発達 3. 認知の発達
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 岩田純一 2004 協同的な学びの成立 初等教育資料 p78・84. 文部科学省(東洋館出版) 2. 岩田純一 2003.1~2005.3 子どもと出会う 「幼児の教育」に隔月連載中 日本幼稚園協会(フレーベル館) 3. 岩田純一 2002 自己を作る鏡と鑑 梅本堯夫監修「認知発達心理学」の11章, p229-252. 培風館
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 岩田純一 2004 原点としての子ども 「児童心理学の進歩」の特別論文 p229-322. 日本児童研究所(金子書房) 2. 岩田純一 2004 意志の芽生えの発達 「教育と医学」p44-50. 慶應大学出版会 3. 岩田純一 2002 乳幼児の発達とメタファ 「言語」p40・44. 大修館
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本教育心理学会：日本発達心理学会：日本保育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 著書「わたし の発達」に日本保育学会文献賞を受ける

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 兵庫県私立幼稚園協会研究会で講演(平成14) 2. 滋賀県幼稚園教育研究会で講演(平成16) 3. 京都府夏期研修講座で講義(平成16) 4. 滋賀県教育委員会園長等運営管理協議会で講演(平成15) 5. 八日市教育委員会教員研修会で講演(平成16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 自己の育ちと保育 2. 言語環境と認知 3. 幼児期の発達と教育
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 日本学術振興会特別研究員等審査委員会専門委員、臨床発達心理士資格認定委員会講習会講師ならび資格認定口述審査者

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	堀内 孜 (ほりうち つとむ)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1973 年
最終修了大学院(修了年)	東京教育大学大学院教育学研究科(博)(1977 年)
赴任年月	1977 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育行財政演習 (単、15)、教育行財政演習 (単、14)、現代教育論(単、101)、教職の研究B(分、98)、教職の研究D(分、106)、公教育経営論A(単、135)、公教育経営論B(単、79)、公教育経営論C(単、19)、教育制度学特講(単、10)、観察(分、20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>公教育経営特別演習 (単、5(3))、公教育経営特別演習 (単、6(2))、教育行財政特論(単、10(2))、学校経営特論(単、8(2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、教員(専任)1人、進学1人 H15 2人、教員(専任)2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 3人、現職者1人、その他2人 H15 2人、現職者1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 6人(大学院2、日研生2、教員研修留学生1、短期留学生1) H15 11人(大学院1、日研生2、短期留学生2、中島奨学生1、先導プログラム5)</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学級編成基準弾力化に伴う都道府県教育委員会と市町村教育委員会の関係に関する考察 2. 「指導力不足教員」への対応施策と今後の課題 3. 校長会の組織と役割に関する研究
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属高校での出張講義(教育基本法について) 2. 附属京都小学校、附属京都中学校合同研修会での講義 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>教員採用セミナー講義(教育制度・教育行政・教育法規・教育時事)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 公教育経営学 2. 教育行政学 3. 学校経営学
現在の研究課題(3件まで) 1. 学校の自律性確立条件 2. 教育行政の地方分権化 3. タイ国の教師教育改革
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 堀内孜(編)、2004、『学級編制・教職員配置における教育行政・学校経営上の改善方策に関する研究』(科研費報告書) 2. 堀内孜、2003、「公教育経営改革の国際比較と日本の位置」、『日本教育経営学会紀要』第45号、169-173頁 3. 堀内孜、2003、「タイの教育改革にみる国家」、『ポストモダンの教育改革と国家』教育開発研究所、155-163頁
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 堀内孜、2004、「義務教育費国庫負担制度の見直しがなぜ必要か」、『教職研修』33-1、30-33頁 2. 堀内孜、2003、「学校の自律性確立と指導行政の転換課題」、『平成14年度学校改善プロジェクト活動報告書』、国立教育政策研究所、111-116頁 3. 堀内孜、2002、「教科書制度と教科書問題」、『教育研究所紀要』、文教大学、3-10頁
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(B-1)「学級編制・教職員配置における教育行政・学校経営上の改善方策に関する研究」(2001～2003年度)研究代表者
所属学会 日本教育経営学会、日本教育行政学会、日本教育学会、関西教育行政学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 日本教育経営学会「国際貢献賞」受章(2004) タイ国教育省教育功労賞受賞(2002)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市教育委員会「教員の評価に関する調査研究協力者会議」委員長(H15～現在) 2. 「宇治市学校規模適正化検討懇話会」委員長(H15～現在) 3. 兵庫県「地方分権検証委員会・教育部会」委員長(H14～H15) 4. 大学評価・学位授与機構大学評価委員会・評価員(H14) 5. 国際協力機構・タイ国別支援委員会委員(H15～現在)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. タイ国教育省地域総合大学庁/地域総合大学連合顧問(H14～現在) 2. 第6回日タイ教育行政学共同セミナー司会(H15) 3. 第10回日韓教育行政学共同セミナー司会(H15) 4. タイ国バンサムデット・チャオプラヤ地域総合大学講演(H16) 5. 第9回日韓教育行政学共同セミナー総司会(H14)
管理運営に関する活動実績 学長委嘱 : 国際交流委員会専門委員
講演テーマ(3件まで) 1. 地方分権改革 2. 学校経営改革 3. 学校評価・教員評価
高等教育機関への授業提供 教育経営の理論と実践(鳴門教育大学・大学院)H15、教員研修経営論(兵庫教育大学・大学院)H15
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 広島大学教育開発国際協力研究センター客員研究員、筑波大学教育開発国際協力研究センター客員研究員、国立教育政策研究所「学校改善研究プロジェクト」共同研究員

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	松井 仁 (まつい ひとし)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育臨床心理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(教育学)/1993年、 臨床心理士(臨床心理士資格認定協会)、学校心理士 (日本学校心理士会)
最終修了大学院(修了年)	東京大学大学院教育学研究科 教育心理学専攻博士 課程(1993年)
赴任年月	2001年10月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 基礎セミナー発達教育 (分、20)、基礎セミナー発達教育 (分、20)、基礎セミナー人間科学(分、8)、 生徒指導・教育相談 B(単、103)、生徒指導・教育相談 B(単、100)、カウンセリング概論(単、38)、精神検査法実習 (単、18)、 学校臨床心理学入門(単、21)、教育心理学課題実験(共、15)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 臨床心理査定演習 (単、17(3))、臨床心理査定演習 (単、15(3))、教育臨床心理学特論 (単、16(5))、 臨床心理実習(共、12(3))、病院実習(共、10(4))、課題研究
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 2人、一般企業 1人、進学 1人 H15 2人、教員(非常勤) 1人、進学 1人
修士論文指導の実績と進路 H14 3人(M2以上)、現職者 2人、その他 1人 H15 2人(M2以上)、教育関係 2人
現職者の指導実績 大学院生 H14 2人、H15 1人、 研究生 H14 なし、H15 なし
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 「子どもにとらえ方に関する教師の気づき」 2. 「生徒がとらえる学級風土と生活意識の関係」 3. 「ユーモアのストレス過程に対する緩和効果」
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属桃山中学校での校内研修講師「不登校」 2. 附属高等学校でのSSH評価に関する助言(運営指導委員)
教育に関するその他の活動 滋賀県総合教育センター「学級担任のためのカウンセリング入門」講師(H14) 教採セミナー(相談)(H14・15・16)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 学校臨床学 2. 教育測定・評価 3. 教育心理学
現在の研究課題(3件まで) 1. 教師の児童生徒認知スタイルの査定 2. 学級環境のアセスメント 3. 組織評価の実践的活用
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 松井仁・村田喬子 2004 調査を通してみた教師の学年協働意識、京都教育大学教育実践研究紀要、4号、147-154. 2. Matsui,H. 2003 Teachers' cognition for children in their class. Conference proceedings of Hawaii International Conference on Social Sciences 2003 (HICSS2003), CD-Rom. 3. 松井仁 2003 思春期における精神的健康と学級環境、京都教育大学紀要、102号、13-21.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Matsui,H. 2004 Teachers' development from the viewpoint of their cognition for children. Abstract Book of International Congress of Psychology 2004 (ICP2004), p578 2. 松井仁・安藤徹郎 2004 高校生における学級風土と学校生活意識、京都教育大学紀要、104号、1-12. 3. Matsui,H. & Itoh,A. 2002 Construction of the Classroom Climate Inventory and Relations with Students' Mental Health. Conference proceedings of Hawaii International Conference on Social Sciences 2002 (HICSS2002), CD-Rom.
科学研究費補助金等の採択実績 平成 14-16 年度「教師の学級把握スタイルの評価と力量形成の支援システムの構築(科研費・基盤研究C、研究代表者として)」
所属学会 日本心理学会、日本教育心理学会、日本心身医学会、産業精神保健学会、日本心理臨床学会、 日本教育工学会、日本教師学会、日本テスト学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 1. T H C 研究所と共同で勤労者対象のストレス調査(新・総合健康調査票W A C)の開発を継続した。 2. 日本教育心理学会の編集委員を務めた(H14-16)。
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府・京都市による教育職員免許法認定講習の講師「生徒指導・相談(H14・15)」および「カウンセリング(H16)」 2. 京都府教育委員会教職経験10年研修の講師「学校教育相談(H15)」 3. コンソーシアム京都主催「学びの祭典」模擬授業の講師(H14・15) 4. 京都教育大学主催公開講座「学校カウンセリングの諸問題」等の講師および運営(H14・15・16) 5. 近隣高等学校における模擬授業の講師「教師と子どもの関係づくり」等(H14・15・16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 協定大学への表敬訪問と視察(上海師範大学(中国)、H14) 2. 大学間協定締結にむけた視察(春川教育大学(韓国)、H15)
管理運営に関する活動実績 法人 : 大学評価室 室員(H16.4-現在) 教授会選出: 教育実践センター運営委員(H13.11-H16.3)、国際交流委員会(副委員長 H14.11-H16.3) 学長委嘱 : F D 委員会(H14.1-H16.3)
講演テーマ(3件まで) 1. 思春期のこころ 2. 教師と子どもの関係づくり 3. 教師の成長と学校カウンセリング
高等教育機関への授業提供 H16「心理学実習(心理統計の基礎)」(京都大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 (株)アール・ブロメトリック社への技術助言

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	水谷 宗行 (みずたに むねゆき)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・発達心理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1976 年
最終修了大学院(修了年)	九州大学大学院 (1977 年度)
赴任年月	1977 年 7 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育心理学(単、110) 教育心理学課題実験(単、3) 教育心理学実験 A(単、18)</p> <p>教育心理学実験 B(単、18) 教育心理学実験 (分2/3、16) 発達心理学講読(単、23)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>認知発達論特論(単、15(2)) 認知発達論特別演習(単、10)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、進学 3人、その他 1人</p> <p>H15 4人、教育関係 1人、進学 2人、その他 1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、その他 1人</p> <p>H15 1人、その他 1人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 0人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 2人(卒論指導)</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己開示場面における音楽の影響 2. 対人認知における顔写真刺激と言語刺激について 3. 身体方向、視線が初対面の二者会話に及ぼす影響
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 認知発達 2. 動的対象 3. 乳児期
現在の研究課題(3件まで) 1. 乳児期の表象能力の研究 2. 動的対象の認知 3. 大学教育への構成的グループエンカウターの導入
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 水谷宗行 2003 大学講義科目への構成的グループエンカウターと討論の導入について 教育実践研究紀要 第3号 p.187-195 京都教育大学附属教育実践総合センター
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 水谷宗行 2004 人間の発達初期の記憶について—われわれは誕生時を記憶しているか— 子ども学 第6号 p.19-31 甲南 女子大学 国際子ども学研究センター 2. 水谷宗行 2002 発達と学習 弓野憲一 編 発達・学習の心理学 p.1-15 ナカニシヤ出版 3. 水谷宗行 2002 乳児期の認知発達の特徴 田島信元他編 認知発達とその支援 p.94-102 ミネルヴァ書房
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本心理学会 日本教育心理学会 日本発達心理学会 関西心理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 人事委員 F D委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 認知発達 2. 乳幼児期の発達 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	村上 登司文(むらかみ としふみ)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育社会学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1980年
最終修了大学院(修了年)	広島大学大学院教育学研究科(1981年)
赴任年月	1990年3月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育社会学(単、168) 教育社会学調査演習(単、9) 教育社会学特講(単、16) 総合演習(単、12) 子ども社会論(単、16) 国際理解教育論(単、21) 教職の研究(分、110)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育社会学特別演習(単、8) 平和教育特論(単、22) 教育社会学特講(単、23)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、その他1人 H15 0人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、公務員1人 H15 1人、現職者1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 平和教育 2. 教育社会学 3. 戦争体験継承
現在の研究課題(3件まで) 1. 平和教育の社会学的研究 2. 平和博物館による戦争についての教育 3. 子どもの平和意識の形成
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 村上登司文 2004「平和教育・平和を創る人を育てる」『今平和とは何か・平和学の理論と実践』法律文化社 pp.278-304. 2. 村上登司文 2002「グローバル化と教育」『子どもの支援の教育社会学』北大路書房、pp.127-135
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 村上登司文 2003「平和博物館と軍事博物館の比較・比較社会学的考察」『広島平和科学』25号、pp.123-143.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C) 2000-2002年度 代表者「軍事博物館と平和博物館の比較社会学的研究」
所属学会 日本教育学会 日本教育社会学会 日本平和学会 関西教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 平和教育授業研究会(PEG)の開催 2. 平和学習の公開講座 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 実地教育運営委員会 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 2. 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	矢野 喜夫 (やの よしお)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育心理学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1973 年
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院教育学研究科(1973 年)
赴任年月	1974 年 11 月



教育に関する活動実績

<p>学部授業担当実績</p> <p>教育心理学(単、101)、教育心理学基礎購読(単、29)、教育心理学演習(単、14)、精神検査実習 (分、31)、教育心理学課題演習(単、4)、生涯発達論(単、38)、心理学(単、207)、青年の心理学(単、57)、現代人間論(単、53)</p>
<p>大学院授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育心理学特論 (単、25)、教育心理学特別演習 (単、4)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 1人、進学 1人、その他 1人 H15 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 1人、その他 2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H15 1人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 1人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童期の遊び・友だち関係と思春期の共感性との関係 2. 劣等感と他者認知の関係 3. 偶発記憶における事故関連運動機づけ効果
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属養護学校校長職(H14年度) 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 記憶発達・回想記憶 2. 対人認知・帰属 3. 行為発達・意味論
現在の研究課題(3件まで) 1. 行為の意図・感情理解 2. うそ・だまし・ふり 3. 相互作用型ロボットと幼児・障害児のかかわり
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 矢野喜夫 2003(H15) 子どもの活動を評価する視点 平成14年度京都教育大学教育研究改革・改善プロジェクト 成果報告書「障害児個別指導計画のための発達アセスメント法の開発」(代表者 矢野喜夫)、p44-48
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 矢野喜夫 2002(H14) 行為の意味と発達 梅本堯夫監修「認知発達心理学 表象と知識の期限と発達」第3章 pp.48-6 1、培風館 2. 矢野喜夫 2002(H14) 学齢期 児童期 柏木恵子・藤永保(監)シリーズ臨床発達心理学 第2巻 認知発達とその支援 第2部第9章 pp109-125.
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 ：日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、関西心理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 受託共同研究(独立行政法人 通信総合研究所、H15年度)「ロボットと乳幼児との身体的・社会的インタラクションの実験的研究」

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日本テレビ番組「特命リサーチ 200X」『子どものうそ』(H14,12月放送)制作協力 2. 高大連携出張講義「人間科学」京都府立北陵高校(H16,6月)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 外国人客員研究者受け入れ(H14,5) Emmanuel Manalo ニューージーランド・オークランド大学 学生学習センター所長
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出： 学長委嘱 : 京都教育大学附属養護学校校長(H14年度)、京都教育大学情報処理センター長(H15,16年度)
講演テーマ(3件まで) 1. 遊びから見た障害児の社会性発達 2. 子どものうそ・ふり・自己呈示 3. 社会的感情の発達
高等教育機関への授業提供 教育心理学(京都工芸繊維大学、H15年度後期)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 京教で京響と第九を歌おう会合唱団 幹事運営委員

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	相澤 伸幸 (あいざわ のぶゆき)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育哲学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(教育学) / 2002年
最終修了大学院(修了年)	東北大学大学院教育学研究科博士後期課程(1999年度)
赴任年月	2003年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育の理念と歴史B・D(単、100) 道徳教育の研究A(単、100) 教育学基礎講読(単、30)</p> <p>教育哲学(単、35) 人間形成論(単、25) 教育哲学演習(単、15)</p> <p>基礎セミナー(共、50) 観察(分、25)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育哲学特論(単、13) 教育哲学特論(単、10) 教育哲学特別演習(単、2)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H15 4人、教員(専任)1人、教員(非常勤)1人、進学 2人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H15 1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H15 0人、 研究生 H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H15 1人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉と教育の問題 ポルノウの対話への教育について 2. 人間形成における模倣の有効性と可能性 3. レイチェル・カーソンの環境概念と教育思想
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 教育学 2. 教育哲学 3. 人間形成論
現在の研究課題(3件まで) 1. ニーチェの教育哲学 2. ヘルダーの人間形成論 3. ゲーテの人間形成論
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 関口はつ江・山室吉孝・相澤伸幸、2004年、『保育講座 教育原理』財団法人 日本学芸協会 2. 相澤伸幸、2004年、「ニーチェ「力への意志」と人間形成論」『プロテウス』第6号、91-108頁 3. 相澤伸幸、2003年、「近代ヨーロッパにおける保育思想の黎明について」『旭川大学女子短期大学部紀要』第34号、1-9頁
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 相澤伸幸、2002年、「ヨーロッパにおける地域論序説 ヘルダーに至るまで」『地域研究所年報』第25号、55-65頁 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績 若手研究B・2003年、「力」と「人間形成」の関わりの問題
所属学会 教育哲学会、日本ヘルダー学会、東北教育哲学教育史学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都地域連携道徳教育推進委員(H16・) 2. 京都府教育職員免許法認定講習講師(H16) 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 教育学 2. 道徳教育 3. 教育学
高等教育機関への授業提供 教育原理(京都造形芸術大学) 道徳教育の研究(京都造形芸術大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	内田 利広 (うちだ としひろ)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育臨床心理学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1990年、臨床心理士(臨床心理士資格認定協会)
最終修了大学院(修了年)	九州大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得後(1993年)
赴任年月	1994年10月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>生徒指導・教育相談 (単, 100) 精神検査法実習 (分, 25)</p> <p>心理療法論(単, 20) 教育相談実習 (単, 20) 教育相談実習 (単, 15)</p> <p>臨床心理学演習(単, 15) 教育心理学課題実験(共, 15)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育臨床心理学特論(単, 20〔5〕) 学校カウンセリング実習(単, 15)</p> <p>教育臨床心理面接特論(単, 15〔3〕) 臨床心理実習(共, 12〔3〕)</p> <p>臨床心理実習(共, 13〔3〕) 病院実習(共, 10〔4〕) 課題研究</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 2人、進学2人 H15 3人、進学3人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 4人、現職者1人、公務員1人、その他2人 H15 2人、その他2人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 0人、 研究生 H14 1人、H15 1人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 1人(研究生)</p>
<p>業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コラージュ技法における基礎的理論の構築・体験過程理論・フォーカシングからの接近・ 2. 内的作業モデルから捉えた母親の認知的枠組み 3. 一般大学生のアパシー傾向と家族システムの関連
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習における学生指導 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>学生のハートケア・ボランティア活動(京都市教育委員会)におけるコーディネート</p> <p>洛風中学校(京都市教育委員会特区中学)における学生ボランティア(洛風バル)に関するコーディネート</p> <p>学生相談担当教官(カウンセラー)・保健管理センターカウンセラー</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 臨床心理学 2. 家族心理学 3. 学校臨床
現在の研究課題(3件まで) 1. 思春期青年期の問題行動(不登校) 2. スクールカウンセラーの役割と課題 3. 家族心理学・母子関係(愛着)
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 子どもの家庭・環境:「不登校」・子どもを通して考える家庭の力・地域の力・ 内田利広 ウィング・バル 第2号((社)京都府青少年育成協議会)(2004年3月) pp.8-9 2. 中学生の教師に対する自己開示に及ぼす教師特有のピループの影響・学級担任による生徒理解のあり方についての一考察 内田利広・石橋浩和 京都教育大学紀要第103号(2003年9月) pp.129-141 3. 子どものかすかな意欲をキャッチする・スクールカウンセリングの観点から・ 内田利広 児童心理6月号 第57巻第8号(2003年6月) pp.30-33
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 学校カウンセリングとスクールカウンセラー(特集「学校カウンセリングを考える」) 内田利広 京都教育大学心理教育相談室紀要 第1号(2004年3月) pp.110-111 2. 内的作業モデルに関する文献展望と今後の課題 内田利広・山口美穂・河合三奈子 京都教育大学紀要第103号(2003年9月) pp.111-128 3. 中学生の「学校適応感」や「逸脱願望の抑制」に影響を及ぼす要因に関する研究・学校生活と心理状態に関する実態調査を通して・ 内田利広・盛永俊弘 教育実践研究紀要第3号(2003年3月) pp.125-134
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本心理臨床学会 日本家族心理学会 日本教育心理学会 日本精神分析学会 日本人間性心理学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都市教育委員会不登校児童・生徒適応支援連携協議会委員(平成14年~) 2. 京都府臨床心理士会学校臨床心理士(スクールカウンセラー)部会担当理事(平成14年~) 3. 京都府教育委員会スクーリング・サポート・ネットワーク協議会委員 4. 八幡市教育研究所スーパーバイザー
国際交流に関する活動実績(主な5件)
管理運営に関する活動実績 教授会選出:教務委員会委員(H14-15) ・ 教育実践総合センター運営委員(H16~) 学長委嘱:自己点検・評価委員会専門委員(分野別教育評価)(H14)
講演テーマ(3件まで) 1. 児童・思春期の子どもとの理解と関わり 2. スクールカウンセラーとの連携 3. 子育て支援(家族システム・母子関係)
高等教育機関への授業提供 教育相談論(京都工芸繊維大学) 学校臨床心理学特論(龍谷大学大学院)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	岡部 美香 (おかべ みか)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育史分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	博士(人間科学) / 2000年
最終修了大学院(修了年)	大阪大学大学院人間科学研究科(2000年)
赴任年月	2004年7月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>西洋教育史特論Ⅰ(単、2(1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>平成16年7月に赴任のため記載事項なし</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>平成16年度京都府教育職員免許法認定講習(H16.8.24-27)の講義(教育史)を担当</p> <p>平成16年度文部科学省・児童生徒の心に響く道徳教育推進事業研究(広島県尾道市立長江小学校)研究協力</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 教育(思想)史 2. 高等教育における授業研究 3. 教育人間学
現在の研究課題(3件まで) 1. 20世紀新教育に関する歴史的研究 2. 学校・地域・大学の連携による教育に関する実践的研究 3. 人間形成・ケアに関する臨床教育人間学的研究
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 岡部美香「マナー教育における<教える・教えられる>関係に関する考察 自律的な身体形成に向けて」、『体育原理研究 第34号』、平成16年3月、27-36頁 2. 太田佳光・岡部美香(編)「えっ!学校を変える 先生の本音と挑戦」、『黎明書房、平成15年5月 3. 岡部美香「教育学教育実践とFD 知を生成し継承する場としての大学授業をめざして」、『教師教育研究第16号』、平成15年5月、75-84頁
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 岡部美香「日常のなかの教育思想」、『人間と教育を考える 教育人間学入門』、学術図書出版、76-93頁 2. 岡部美香「ドイツにおける『児童の世紀』の受容状況(1) 1902年から1992年まで」、『愛媛大学教育学部紀要 第一部 教育科学 第49巻第1号』、平成14年9月、13-30頁 3. 岡部美香「<自己決定>に関する試論 近代教育学における子ども 大人関係の捉え直しに向けて」、『愛媛大学教育学部紀要 第一部 教育科学 第49巻第2号』、平成15年2月、1-14頁
科学研究費補助金等の採択実績 奨励研究(A)・若手研究(B)「子ども中心主義の教育思想と優生学との関連性に関する比較教育史的研究」(H13~14・研究代表者) 若手研究(B)「近代教育学における<自律性>概念の成立と展開に関する歴史的教育人間学的研究」(H15~17・研究代表者) 基盤研究(B-1)「教育学における優生思想の展開 歴史と展望」(H15~17・研究分担者) 萌芽研究「地域防災に対する学校の役割と防災教育の教材開発に関する研究」(H14~15・研究分担者)
所属学会 日本教育学会、教育哲学会、教育史学会、教育思想史学会、大学教育学会、関西教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) 特になし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 愛媛県松山市男女共同参画推進センター運営委員(H15~16) 2. 文部科学省委嘱 児童生徒の心に響く道徳教育推進事業連絡協議会 委員(H14~16) 3. 愛媛県松山市男女共同参画推進財団・市民意識調査企画委員(H14~16) 4. 愛媛県教育委員会 道徳教育啓発研究委員会 委員(H14~16)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 特になし
管理運営に関する活動実績 平成16年7月に赴任のため記載事項なし
講演テーマ(3件まで) 1. 子ども-大人関係論 2. 人間形成・産育の歴史と現在 3. 総合学習および総合単元的な学習
高等教育機関への授業提供 教育史・比較教育制度学(松山大学・H14~16) 教育原理(松山大学・H14)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 特になし

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	徳岡 慶一 (とくおか けいいち)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育方法学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1986年
最終修了大学院(修了年)	筑波大学博士課程教育学研究科 (1988年)
赴任年月	1996年4月

教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育方法・技術論 (a) (単、 1 1 0)</p> <p>教育方法・技術論 (b) (単、 8 0)</p> <p>教育方法・技術論 (c) (単、 5 5、コンソーシアム京都への持ち出し科目)</p> <p>教職の研究 (a) (分、 9 0)</p> <p>教育方法学演習 (単、 7)</p> <p>子ども学習過程論・学習の探求 (単、 2 0)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の () 内は、現職者数)</p> <p>教育方法学特論 (単、 1 0 (4))</p> <p>教育方法学特別演習 (単、 8 (4))</p> <p>課題研究 (単、 2 (1))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教員 (非常勤) 2人、進学 1人</p> <p>H15 3人、教員 (非常勤) 3人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、現職者 1人</p> <p>H15 1人、現職者 1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 1人、H15 1人、</p>
<p>留学生の指導実績</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読み聞かせの教育的意義に関する理論的研究 (修士論文) 2. 児童が持つ誤概念 (r u) とそれを修正する手だてについて・分数・小数の指導を通して (修士論文) 3. 問題解決学習と基礎学力の向上との関係 (卒業論文)
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省開発学校指定研究 (附属京都小・中学校) 『「 9 年制義務教育学校」の設立に向けた小中学校 9 年一貫教育システムの確立に関する研究開発』運営指導委員 (2003 年度 ~ 2005 年度)
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 教育方法学(学習指導論) 2. 授業論 3. 教師教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 学ぶ意義が実感できる授業の内容と方法の理論と実践の構築 2. アメリカ中等教育の教科指導におけるテーマ学習の内容と方法
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 『宇治市立小中学校の児童生徒の意識調査』及び『宇治市学校教育についての保護者アンケート』報告書』宇治市教育委員会、2～52頁、2004年。 2. 『児童・生徒の学習意欲の低下に関する一考察 その原因と処方箋を中心に』『京都教育大学附属教育実践総合センター研究紀要』第3号、147・158頁、2003年。 3. 『総合的な学習の時間』における学習の履歴』カリキュラム研究会(研究代表者 岡本正志)『総合的な学習』に関するカリキュラム開発研究』平成14年度教育改革・改善プロジェクト経費報告書、35・39頁、2003年。
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 『教育学の学び方』福沢周亮他責任編集『学校心理学ハンドブック』教育出版、230頁、2004年。 2. 『教育課程・方法学』『教職課程』5月臨時増刊号、110～113頁、2003年。
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C)(2) 平成16～18年度 代表者 「アメリカ中等教育の教科指導におけるテーマ学習の内容と方法」
所属学会 日本教育学会、日本教育方法学会、日本カリキュラム学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府教育職員免許法認定講習会講師(H15) 2. 宇治田原教育委員会 宇治田原町立奥山田小学校今後のあり方検討委員会委員(H15～) 3. 鳥取県教育センター主催 小学校教職経験者(3年経過教員)研修(「基礎基本の定着向上」担当)(H15) 4. 亀岡市教育研究所主催 特別教育セミナー講師(「学力をめぐって・算数・数学を中心に」)(H15) 5. 京都教育大学社会教育主事講習講師(H14)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. タイ国R I 訪問団を対象に「日本の教員養成について」の講義を行う。(H16)
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 地域交流・広報委員会(～H14年10月) 教務委員会(H14年11月～) 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. これからの学力について 「生きる力」と基礎学力との接続を中心に 2. 総合学習における教師の学習指導(評価を除く)にあり方について
高等教育機関への授業提供 教材開発論(大阪府立大学、H14)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	藤岡 秀樹 (ふじおか ひでき)
所属講座・分野・職名	学校教育講座・教育心理学分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1981年・学校心理士・臨床発達心理士
最終修了大学院(修了年)	京都大学大学院教育学研究科博士課程(1985年)
赴任年月	1998年8月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育心理学(単、99)、教育統計学実習 (単、33)、教育統計学実習 (単、21)、教育心理学実験 (分、17)、教育心理学課題実験(共、18)、職業指導概論(単、25)、総合的学習の研究(分、28)、総合演習(単、15)、青年の心理学(単、44)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育心理学特論 (単、10(3))、教育心理学特別演習 (単、12(4))、進路指導特論(単、8(4))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、教育関係1人、その他2人</p> <p>H15 3人、進学2人、その他1人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、教員(非常勤)1人</p> <p>H15 1人、教員(非常勤)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 1人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学への進学動機に関するモデル検証 2. 要約作業が文書理解に及ぼす効果 3. ものづくり学習『木材加工』の製作過程における協同作業の分析
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校公開研究発表会(桃山地区3校園)助言者 2. 附属桃山小学校校内研修会「生徒指導」講師 3.
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>石川県教育センター、京都市総合教育センター、滋賀県教育センター、尼崎市教育センター、高槻市教育センター 研修講師</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 教育評価 2. 総合的学習 3. 学校心理学
現在の研究課題(3件まで) 1. 教育評価 2. 総合的学習の指導と評価 3. 学業不振児・LDの診断と指導のあり方
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 藤岡秀樹 2004 『心の教育』と教師教育 日本教師教育学会年報 13、45-51. 2. . 3. .
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 藤岡秀樹 2004 絶対評価 日本学校心理学会(編) 『学校心理学ハンドブック』60-61. 教育出版 2. 藤岡秀樹(編) 2003 小学校新指導要録記入文例 1000 日本標準 3. 藤岡秀樹 2003 指導要録における評価の課題 観点別状況 『学習指導の現代的課題』166-169. 学校教育研究所
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 日本教育心理学会、教育目標・評価学会、日本教科教育学会、日本学校心理学会、日本心理学会、日本読書学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 日本学校心理士会幹事・同京都府支部長(14～16) 2. 日本教育心理学会理事(15～16) 3. 教育目標・評価学会理事(15～16) 4. . 5. .
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. . 2. . 3. . 4. . 5. .
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出:「生活科・総合的学習」委員会委員 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 教育評価 2. 総合的学習の授業づくり 3. 学力向上のための指導のあり方
高等教育機関への授業提供 京都学園大学大学院(H15. 教育評価・心理検査特論)、龍谷大学(H14～16. 教育心理学)、京都文教大学(H14～15. 学習心理学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	Andrew Obermeier (オ-バ`マヤ-・ア-ン`ト`リュ-)
所属講座・分野・職名	英語教育分野・外国人教師
学位 / 取得年・資格(機関)	外国語教育修士
最終修了大学院(修了年)	Colorado 大学教育学部修士
赴任年月	2000年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>コミュニケーション・イングリッシュ I, IIa, IIb, I準(客24名); リスニング Ia, Ib単、客20名); 総合学習(単、客20名); ライティング I, IIa, III準、客25); 比較文化 (単、35)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 人、H15 人、 研究生 H14 人、H15 人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 人、H15 人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1 . 2 . 3 .</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1 . 附属小学校の英語活動のための協力 2 . 3 .</p>
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 英語教育 2. 外国語教育 3.
現在の研究課題(3件まで) 1. 教材開発 2. 外国語教育の評価 3. カリキュラム開発
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. Obermeier, A (2004) Non- Verbal Communication in Foreign Language Education. <i>The Language Teacher</i> , 28(11). 2. Obermeier, A (2004) Issues Regarding the Required General English Curriculum at Kyoto University of Education: Establishing Curricular Process, 京都教育大学紀要, No. 104. 3. Obermeier, A (2002) Readers' and Writers' Workshop for EFL. 全国メディア学会関西支部研究集録9
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Yamada, M. 他4名(2004) TOEIC TEST 600 レベル 文法・語法・語彙、大修館商店 2. (Genius 和英辞典 第二版。(2003) 編集委員。大修館商店 3. Suzuki, J., Obermeier, A 他1名(2003) Mainstream II 検定教科書。増進堂。
科学研究費補助金等の採択実績
所属学会 Japan Association for Language Teaching; Teachers of English as an Foreign Language; 全国英語教育学会、外国語教育メディア学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. English Carnival at 伏見フェスタ 2. 滋賀県総合教育センター・小学校英語活動支援講座 3. 4. 5.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. アウストリア、カナダ、米国との短期留学: 交渉・引率・視察 2. イギリス Citizenship Education 講演通訳 3. 4. 5.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 : 国際交流委員会
講演テーマ(3件まで) 1. 小学校における英語活動 2. 小学校英語活動のためのカリキュラム開発 3.
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	岡本 正志(おかもと まさし)
所属講座・分野・職名	教育実践総合センター・教育内容分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1974年
最終修了大学院(修了年)	大阪教育大学大学院(1974年)
赴任年月	2001年4月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 初等生活科教育 A, C (単, 60), 総合的学習の研究(共, 35), 小学校教科専門生活 B, C (分, 120), 自然認識の歩み(単, 80)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 科学技術社会教育特論(単, 6(2)) 科学技術社会教育特別演習(単, 4(1))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人 H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人
修士論文指導の実績と進路 H14 人、現職者 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、その他 人 H15 2人、現職者 1人、その他 1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 人、H15 1人、 研究生 H14 人、H15 人
留学生の指導実績 H14 人、H15 3人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 1700年代アメリカ植民地でのキナズリーによる静電気実験講座・知的エンターテインメントとしての科学教育の源流・ 2. エネルギーを中心とした STS 教育の試み・中日エネルギー教育の比較をめぐって・ 3. 19世紀における自然科学の細分化と
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属桃山小学校校長 2. SSH運営指導委員 3. 附属高校SSH研究発表会・共同研究者
教育に関するその他の活動 京都エネルギー教育研究会代表, 理科大すきスクール運営協力者(大阪・枚方市楠葉南小学校), 「教育改革通信」編集委員, 科学の祭典実行委員

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 科学史 2. 科学教育 3. 総合学習論
現在の研究課題(3件まで) 1. 学校教育と市民教育の連続性を考慮した総合的なエネルギー教育の開発 2. 電磁気学確立期におけるマクスウェリアンの役割に関する研究

<p>3. 英国CASEカリキュラムの日本における適用の可能性に関する研究</p>
<p>教育および教員養成に関わる研究業績（主な3件）</p> <p>1. 検定外中学理科教科書を創る会編,『新しい科学の教科書』(全3冊,共著),文一出版,2003</p> <p>2. 左巻健男編,『授業づくりのための理科教育法』(共著),東京書籍,2004</p> <p>3. 左巻健男他編,『新しい理科の教科書』小学5年(共著),文一総合出版,2004</p>
<p>その他専門領域に関わる研究業績（主な3件）</p> <p>1. 日本における物理教育の創始者たち・物理教育の形成期を探る・,大学の物理教育,2003-1,2003.3</p> <p>2. ジュールによる熱の仕事当量の測定実験,熱測定,Vol.29, No.5, 2002</p> <p>3. 川村康文編,『STS教育読本』(共著),かもがわ出版,2003</p>
<p>科学研究費補助金等の採択実績</p> <p>・資源エネルギー庁委託研究・エネルギー教育地域拠点大学,H14-16,代表者,「地域社会における,学校教育と市民教育の連続性を考慮した総合的なエネルギー教育のとりくみ」</p> <p>・科学研究補助金,基盤研究(B)(1),H12~14,分担者,「科学教育への科学史導入の意味とその教材化に関する包括的研究」</p>
<p>所属学会 日本科学史学会,日本科学教育学会,日本理科教育学会,日本物理学会他</p>
<p>研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績</p>
<p>社会貢献に関する活動実績(主な5件)</p> <p>1. 京都エネルギー教育研究会代表(H15~現在)</p> <p>2. 省エネセンター「省エネ教室」講師(H15~現在)</p> <p>3. 「科学の祭典」実行委員(H12~現在)</p> <p>4. 科学史学会・科学史教育特別委員(H12~14)</p> <p>5. 日本物理学会・物理学史分科会世話人(H14~15)</p>
<p>国際交流に関する活動実績(主な5件)</p> <p>1. 「日本・イラン・中国におけるエネルギー教育国際フォーラム」主催代表(H16.7)</p> <p>2. ドイツ・デンマークにおけるエネルギー教育調査(H16.3)</p> <p>3. 中国におけるエネルギー教育調査(H16.6)</p> <p>4. イランとのエネルギー教育共同研究(H16.7~現在)</p> <p>5. オーストラリア,ベレア小学校訪問(附属桃山小学校・交流事業)(H16.8)</p>
<p>管理運営に関する活動実績</p> <p>法人 :</p> <p>教授会選出:生活科教育運営委員会委員長,生活科・総合的学習運営委員会委員長,</p> <p>学長委嘱 :附属桃山小学校校長,資格審査委員会委員,附属学校長選定委員会委員,附属高校SSH運営指導委員</p>
<p>講演テーマ(3件まで)</p> <p>1. エネルギー教育の現状と課題(INSS,04.5.17)</p> <p>2. エネルギー概念はいかに形成されるか(エネルギー情報センター,04.1.6)</p> <p>3. 楽しいとはどういうことか・楽しい理科教育をつくるために(枚方市教委,04.7.29)</p>
<p>高等教育機関への授業提供</p> <p>理科教育法(京都大学),科学史・科学論(同志社大学),科学史(京都女子大学)</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動</p> <p>教育実践総合センター運営委員,「教育実践研究紀要」編集委員</p>

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	本間 友巳 (ほんま ともみ)
所属講座・分野・職名	教育実践総合センター・教育臨床分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士(1981年)・臨床心理士
最終修了大学院(修了年)	東京学芸大学大学院(1981年)
赴任年月	2000年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>生徒指導・教育相談 C(A)(単, 80)</p> <p>生徒指導・教育相談 C(B)(コンソーシアム持ち出し)(単, 60)</p> <p>学校教育相談室実習(単, 20)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育臨床心理学特論 (単, 20(3)) 臨床心理面接特論 (単, 15(2))</p> <p>臨床心理基礎実習(共, 14(1)) 臨床心理実習(共, 10(2))</p> <p>学校臨床実習 (単, 16(1)) 病院実習(共, 10(2))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p> <p>H15 人、教員(専任) 人、教員(非常勤) 人、教育関係 人、公務員 人、一般企業 人、進学 人、その他 人</p>
<p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 3人、教育・カウンセリング関係3人、</p> <p>H15 3人、教員(専任)1人、教育・カウンセリング関係 2人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人 心理教育相談室研究員 H14 1人、H15 2人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. カウンセリング場面におけるコミュニケーション過程の実験的研究 ・インテーク面接における解読や理解をめぐって・</p> <p>2. 中国帰国中学生の異文化適応支援の試み・学校における支援プログラムの提言・</p> <p>3. 中学生における友人との距離のとり方と葛藤との関係</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1. 附属学校大学院生相談員派遣プロジェクト</p> <p>2. 附属学校教員への教育臨床コンサルテーション</p> <p>3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>京都市教委「学びのパートナー」学生派遣</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 臨床心理学 2. 教育臨床 3. カウンセリング
現在の研究課題(3件まで) 1. 不登校・いじめ 2. スクールカウンセリング 3. 外国人児童生徒の適応
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 共著(2004.5)「不登校とその親へのカウンセリング(第10章不登校をどう考えるか)」 ぎょうせい pp.141-151 2. 単著(2004.4)「対応の難しい親とのかかわり」 児童心理 58.5 pp.65-69 3. 共著(2003.7)「実践スクールカウンセリング(第2部第2章いじめ)」 金剛出版 pp.76-87
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 単著(2003.12)「中学生におけるいじめの停止に関連する要因といじめ加害者への対応」 教育心理学研究 51.4 pp.390-400 (優秀論文賞) 2. 単著(2003.3)「高校生の登校を規定する要因と中途退学者への評価意識・中学生との比較」 京都教育大学教育実践研究紀要3 pp.111-118 3. 共著(2003.3)「心理学分野大学院生による附属学校への「相談員」派遣プロジェクト」 京都教育大学研究プロジェクト報告書(研究代表者 本間友巳)
科学研究費補助金等の採択実績 「来日・帰国外国人児童生徒」の適応と援助に関する実践的研究(H15~H17)
所属学会 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会, 日本カウンセリング学会, 異文化間教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府不登校ネットワーク会議座長(H16) 2. 京都市スクールカウンセラー・京都府スクールカウンセラースーパーバイザー(H16) 3. 全国学校臨床心理士ワーキンググループ(H12~) 4.
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 上海師範大学派遣教員(H16.3) 2.
管理運営に関する活動実績 法人 : 教授会選出: 学長委嘱 :
講演テーマ(3件まで) 1. 教育相談・生徒指導 2. カウンセリング・心理療法 3. 発達・子育て
高等教育機関への授業提供
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 心理教育相談室の管理運営

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	浅井 和行 (あさい かずゆき)
所属講座・分野・職名	教育実践総合センター・リカレント教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1998年
最終修了大学院(修了年)	京都教育大学大学院教育学研究科 (1998年)
赴任年月	2000年4月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>教育実践基礎演習 b,d (単, 80)</p> <p>初等生活科教育法 (単, 60)</p> <p>視聴覚教育メディア論 (単, 50)</p> <p>実地教育 A (共, 60)</p>
<p>大学院の授業担当実績 (受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>教育実践研究特論 (単, 9(4))</p> <p>教育実践研究特別演習 (単, 8(4))</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 0人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 0人</p> <p>H15 1人、教員(専任)1人</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 0人、H15 1人、 研究生 H14 0人、H15 0人</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 0人、</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <p>1. ポートフォリオ評価による教師の実践的力形成に関する研究</p> <p>2.</p> <p>3.</p>
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <p>1.</p> <p>2.</p> <p>3.</p>
<p>教育に関するその他の活動</p> <p>現職教員研修(10年目研修を含む)</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. メディア教育 2. 教師教育 3. 教育工学
現在の研究課題(3件まで) 1. メディア・リテラシー教育カリキュラムの開発と評価 2. 教師の実践的力量形成 3.
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 浅井和行編(2003)「インターネットと総合学習」黎明書房 2. 高乗秀明、浅井和行(2003)「コミュニケーションとメディアを生かした授業」日本文教出版 3. 浅井和行(2002)「子どもを研究者にする総合的な学習」, 田中博之編著「調査研究型カリキュラムを創る」明治図書, pp.33-52
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. Kazuyuki ASAI, Kenichi KUBOTA (2004) Curriculum Development for Media Literacy Education, International Symposium & Conference Educational Media in School, pp.183-190 2. 浅井和行(2003)「デジタル化時代の教育放送番組のあり方」教育メディア研究、第9巻第2号, pp.50-54 3. 浅井和行, 大隅紀和(2002)「現職教師によるディスプレイ型ポートフォリオの評価活動」京都教育大学教育実践研究紀要, 第2号, pp.1-5
科学研究費補助金等の採択実績 放送文化基金(2003~4年・代表者)「学校放送番組を活用したメディア・リテラシー教育のカリキュラム開発」
所属学会 教育メディア学会, 教育工学会, 教育情報学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)
社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績
社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 全国放送教育全国大会会場校担当(2003~) 2. 松下視聴覚教育研究賞審査員(2003~) 3. 小学校との校内共同研究(2003~) 4. NHK 学校放送番組活用プロジェクト委員(2003~) 5. 文部科学省デジタルコンテンツ配信事業地域アドバイザー(2004~)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. JICA モンゴル教員再訓練プロジェクト運営委員, 短期専門家(2003~) 2. JICA ボリビア「子どもが主体の学習作りコース」(2003) 3. JICA ドミニカ「基礎教育システム改善コース」(2004) 4. 韓日メディア教育国際学会設立準備(2003~) 5. 蒙日教師教育共同研究(2004~)
管理運営に関する活動実績 法人 : 地域連携広報委員会委員(H16) 学長委嘱 : セクハラ相談窓口教員(H16)
講演テーマ(3件まで) 1. デジタル時代の学力と評価 2. 子どもを取り巻くメディア環境 3. メディア・リテラシーと機能的学力
高等教育機関への授業提供 視聴覚教育メディア論, メディア教育論(京都女子大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 関西教育メディア研究協議会幹事, 京都放送教育研究協議会顧問

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	佐々木 真理 (ささき なおまさ)
所属講座・分野・職名	教育実践総合センター・教育方法・技術分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学修士 / 1991 年
最終修了大学院(修了年)	兵庫教育大学大学院 (1991 年)
赴任年月	1998 年 4 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 情報社会論 (単、100) 情報社会・倫理 (単、30) 教育工学(大学コンソシアム提供、単、100) 情報機器の操作C(単、30) 情報科教育法(単、5) 教育実践応用演習(単、10) 国際教育協力論(大学コンソシアム提供、単、40)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 教育工学特論(単、10(5)) 教育工学特別演習(単、10(5))
修士論文指導の実績と進路 H14 2人、現職者1人、その他1人 H15 2人、現職者1人、その他1人
現職者の指導実績 大学院生 H14 1人、H15 1人、 研究生 H14 4人、H15 4人
留学生の指導実績 H14 2人、H15 2人
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 表現する能力の育成を指向した教育メディアの適正化及び選択方法の改善 2. 国際間の遠隔教育における指導方法およびメディア・ネットワークの活用方法の改善に関する研究
附属学校での教育等(3件まで) 1. 附属桃山小学校：中国・吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市新興小学校とのビデオ会議による遠隔共同授業(英語活動)の企画・実施(H15.11-H16.2, 10回) 2. 附属桃山中学校：中国・上海師範大学附属中学とのビデオ会議による遠隔共同授業(国語・数学)の企画・実施(H15.2-6, 10回) 3. 附属高等学校・附属京都中学校：タイ・RU プラナコンシアユタヤ校附属中学校とのビデオ会議による遠隔協同授業(数学科 守屋誠司・科学研究)の実施支援(H14-H15, 6回)
教育に関するその他の活動 1. 教員研修留学生(タイ1名・韓国1名)受入れ, H14-H15 2. 京都府長期教育職員研修生(年4名)受入れ, H14-H16 3. 教育改革・改善プロジェクト経費による教官学術交流プログラム招聘教員の受入れ(高 偉勳・上海師範大学信息网络中心), H15 4. メディア・ネットワーク研究会MENE主宰(会員数約40名、京滋阪神の教員・関係企業など), H14-H16
研究に関する活動実績
専門分野(キーワード3つまで) 1. 教育工学 2. 情報教育 3. 遠隔教育
現在の研究課題(3件まで) 1. ビデオ会議による遠隔授業・講義方法の開発 2. 遠隔メディアを利用した国際理解・多文化理解教育

<p>教育および教員養成に関わる研究業績（主な3件）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐々木真理 監修・編集, 竹下琢哉, 寺川裕一郎, H16, 「先生のための ICT ガイドブック」, 平成 15 年度 京都教育大学 教育研究改革・改善プロジェクト経費 採択研究 研究成果物, 全 136 頁 2. 大隅紀和監修, 浅井和行編著, H15, 「総合学習と遠隔教育メディア」, インターネットと総合学習・黎明書房, pp.31-44 3. 佐々木真理 翻訳, H15, 「タイ王国教育省 2001 年基礎教育課程」, 国際協力事業団 JICA, 全 54 頁
<p>その他専門領域に関わる研究業績（主な3件）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 北村光一 他 3 名, H16, アニメーション映像付きプレゼンテーション・スキル学習教材の有効性に関する研究, 京都教育大学 教育学部附属教育実践総合センター教育実践研究紀要, 第 4 号, pp.121-132 2. Charin Mangkhang 他 2 名, H14, The View about Teaching Material of Moral Dilemma Story on Moral Study in the International Distance Joint Class Activity Between Japan and Thailand (原文タイ語・英題), Educational Research Journal, Faculty of Education, Chiang Mai University, 第 1 巻第 3 号, pp.70-82 3. 佐々木真理 他 2 名, H14, タイ国へのコンピュータ教育援助(その 8), 京都教育大学紀要, 第 101 号, pp.77-92
<p>科学研究費補助金等の採択実績</p> <p>基盤研究(C)(2), H16-H18, 研究分担者, 創造性の育成を目指す算数・数学を核とした遠隔協同総合学習の研究(研究代表者: 守屋誠司)</p>
<p>所属学会 ヒューマンインターフェース学会 日本教育工学会 日本教育情報学会 日本産業技術教育学会</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績</p>
<p>社会貢献に関する活動実績(主な5件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省・京都市教育委員会 学習指導カウンセラー(情報教育), 京都市立大藪小学校, H15-H16 2. 文部科学省・京都府南部地域学校インターネット3活用推進事業, スーパーバイザー, 精華町教育委員会, H14-H15 3. 文部科学省・学校の情報科推進のためのネットワーク活用方法研究開発事業, 研究助言指導, 亀岡市教育委員会, H13-H15 4. 京都府立南八幡高等学校 国際環境コース・アドバイザー, H15-H16
<p>国際交流に関する活動実績(主な5件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学附属学校とタイ・RU 附属中学校, 中国・上海師範大学附属中学, 同・延吉市新興小学校との遠隔共同授業の企画・実施, H14-H16 2. 国立大学教育実践研究関連センター協議会 国際協力幹事, H12-H16 3. 日本ユネスコ国内委員会・文部科学省等主催アジア・太平洋地域教育工学東京・京都セミナー, 京都教育大学で開催, H15-H16 4. JICA 短期派遣専門家(技術指導), タイ教育用情報技術開発能力向上プロジェクト, 教育省・生涯教育センター, H14-H16(11 回) 5. 同上 プロジェクト, カウンターパート研修, 「マルチメディア・ホームページ作成」, 鳴門教育大学, H14-H15(3 回)
<p>管理運営に関する活動実績</p> <p>学長委嘱 : 実地教育委員(教育実践総合センター代表) 教育実践総合センター運営委員・SCS 運営委員</p>
<p>講演テーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IT 社会の将来像を考える 2. IT 社会の光と影 3. 個々の課題やニーズに応じた情報機器を活用した指導
<p>高等教育機関への授業提供</p> <p>SCS 遠隔共同講義「授業実践研究」・「教育メディア研究」講師(輪番), H14-H16</p> <p>鳴門教育大学「マルチメディアと教育技術」集中講義, H16</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動</p> <p>メディア教育開発センターNIME・大学間遠隔講義システム SCS の運用管理・運営, 本学公開視聴への便宜供与, H14-H16</p>

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	高乗 秀明 (たかのり ひであき)
所属講座・分野・職名	教育実践総合センター・実地教育分野・助教授
学位 / 取得年・資格(機関)	教育学士 / 1974 年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	2001 年 4 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>H14～H16 特別活動の研究(B)(単 93) 特別活動の研究(D)(単 85)</p> <p>H14～H16 社会活動論(A)(共 158) 社会活動論(B)(共 108)</p> <p>H14・H15 教育実践基礎演習(A)(単 68) 教育実践基礎演習(D)(単 52)</p> <p>H14・H15 総合的学習の研究(A)(分 45) 総合的学習の研究(B)(分 35)</p> <p>H14 教育実践基礎演習(B)(単 71) 教育実践基礎演習(C)(単 31)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>H14・後期 実地教育特別演習 単 10(4)</p> <p>H15・後期 実地教育特別演習 単 9(3)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 0人、</p> <p>H15 0人、</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 2人、現職者2人、</p> <p>H15 1人、現職者1人、</p>
<p>現職者の指導実績</p> <p>大学院生 H14 2人、H15 1人、 研究生 H14 1人(京都市教育委員会派遣行政職員)、H15 1人(同左)</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 0人、H15 2人(国費による教員研修留学生)</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校の総合的な学習に時間における学びの研究 ・公立小学校実践を通じたその子らしい学びに対する支援のあり方について 2. 社会性が培われる総合的な学習の時間 3. 総合的な学習の時間と子どもの学力 体験活動を通じた学習集団の高まり
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. H15～H17の3カ年、文科省指定の研究開発校である附属京都小・中学校の研究「9年制義務教育学校」に関する運営指導委員 (新教科「アントレプレナー科」の担当)
<p>教育に関するその他の活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生科研費の活動への指導助言 「スクールボランティア推進プロジェクト」(H15)「今求められる教師像」(H16) 2. 学生のスクールボランティア活動等の支援(H13～)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 授業研究 2. 特別活動 3. 社会科教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 実地教育プログラムの開発 2. アントレプレナーシップ教育 3. 実践学としての教育方法学
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 「コミュニケーションとメディアを生かした授業」(共著・日本文教出版 H15) 2. 「起業家をモデルとした創造性と社会性を伸ばす社会体験型教材の開発」のための海外事例調査研究報告書(H15) 3. 京都教育大生と一般他大学生との「合同実習」に関する研究(H14)
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(B) 平成15年～17年 代表者 起業家をモデルとした創造性と社会性を伸ばす社会体験型教材の開発
所属学会 日本教育方法学会 日本特別活動学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 「創業・ベンチャー 国民フォーム」の調査研究委員会委員(H14) 2. 長岡京市教育センター企画運営委員(H14～H16) 3. NPO法人アントレプレナーシップ開発センター理事(H15～H16) 4. 文部科学省主催「青少年ボランティア活動等促進連絡協議会(近畿大会)」での講演及びシンポジウムのコーディネーター(H15) 5. 京都市社会福祉協議会「福祉教育・ボランティア学習事業推進検討委員会」座長(H15)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. イギリス、フィンランドでのアントレプレナーシップ教育に関する調査研究(H15.9)
管理運営に関する活動実績 法人 : 企画調整室員(H16) 教授会選出: 地域交流・広報委員会(H14・H15) 学長委嘱 : 統合に関する課題別検討委員(H14), 「特色ある大学教育支援プログラム」検討委員(H15), 学部改組委員会(H15)
講演テーマ(3件まで) 1. 子どもの自立心を育て、将来像を描く意欲を育てるアントレプレナーシップ教育 2. 学校教育や社会教育でのボランティア活動並びにボランティア教育について 3. 学年主任及び学級担任の立場から、小・中学校での学年経営・学級経営について、そのあり方、運営の実際を考える。
高等教育機関への授業提供 特別活動論(京都工芸繊維大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 1. 「地域支援データベース」の企画・制作担当(H15) 2. 東京都三鷹市立第四小学校におけるアントレプレナーシップ教育の指導助言(H15.16)

研究に関する活動実績

<p>専門分野(キーワード3つまで)</p> <p>1. 環境経済 2. 環境教育 3. 産業教育</p>
<p>現在の研究課題(3件まで)</p> <p>1. 環境教育 2. 産業教育 3. 珠算教育</p>
<p>教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件)</p> <p>1. .</p> <p>2. .</p> <p>3. .</p>
<p>その他専門領域に関わる研究業績(主な3件)</p> <p>1. 塵劫記とそろばんの今日的意義</p> <p>2. 珠算教育と社会</p> <p>3. 珠算式暗算と珠算教育者</p>
<p>科学研究費補助金等の採択実績</p>
<p>所属学会 環境経済・政策学会、日本商業教育学会、日本環境教育学会、日本農業教育学会</p>
<p>研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)</p>

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

<p>社会貢献に関する活動実績(主な5件)</p> <p>1. .</p> <p>2. .</p> <p>3. .</p> <p>4. .</p> <p>5. .</p>
<p>国際交流に関する活動実績(主な5件)</p> <p>1. .</p> <p>2. .</p> <p>3. .</p> <p>4. .</p> <p>5. .</p>
<p>管理運営に関する活動実績</p> <p>法人 :</p> <p>教授会選出: 地域連携・広報委員会委員</p> <p>学長委嘱 :</p>
<p>講演テーマ(3件まで)</p> <p>1. 21世紀における珠算教育の役割 2. 塵劫記とそろばん 3. 帰徐法について</p>
<p>高等教育機関への授業提供</p>
<p>社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動</p>

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	梁川 正 (やながわ ただし)
所属講座・分野・職名	環境教育実践センター・生物生産教育分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	農学博士 / 1987 年
最終修了大学院(修了年)	大阪府立大学大学院博士課程単位修得満期退学 (1979 年)
赴任年月	1979 年 11 月



教育に関する活動実績

<p>学部の授業担当実績</p> <p>環境園芸学演習 (単、5)、環境園芸学演習 (単、4)、近代産業技術 (単、18)、環境植物学実習 (分、27)、環境植物学実習 (分、22)、栽培実習 (分、26)、栽培実習 (分、3)、農業実習 (分、8)、農業実習 (分、14)、園芸と環境 (単、29)、植物組織培養論(単、26)、環境園芸学実験実習(単、10)、基礎セミナー環 a(単、7)、小学校教科専門理科(分、94)</p>
<p>大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数)</p> <p>栽培学特論 (単、1)、栽培学特別演習 (単、1)、産業技術教育特別研究(分、3)</p>
<p>卒業論文指導の実績と就職状況</p> <p>H14 3人、一般企業1人、進学1人、その他1人</p> <p>H15 4人、一般企業1人、進学1人、その他2人</p> <p>修士論文指導の実績と進路</p> <p>H14 1人、その他1人</p>
<p>現職者の指導実績</p>
<p>留学生の指導実績</p> <p>H14 大学院生1人</p>
<p>卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 塩素殺菌剤を用いたカーネーションの苗生産の簡便化に関する研究 2. 園芸植物の葉色変化に及ぼす温度の影響 3. 北山杉の樹皮を原料とした素材を用いた草花の栽培
<p>附属学校での教育等(3件まで)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3.
<p>教育に関するその他の活動</p>

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 花卉園芸 2. 生物生産教育 3. 環境園芸教育
現在の研究課題(3件まで) 1. 簡便な園芸種苗生産 2. 杉樹皮などの廃棄物の栽培素材への利用 3. 久美浜海岸に自生する海浜植物の増殖
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 梁川 正 他4名 (2004) 幼稚園における植物栽培活動と子どもの教育への意義, 平成15年度京都教育大学教育改革・改善プロジェクト経費成果報告書 pp.1-25. 2. 梁川 正・河嶋喜矩子 (2003) 幼稚園における植物栽培活動とその意義, 農業学習の教育効果に関する総合的研究, 日本農業教育学会 pp.1-8. 3. 梁川 正 (2002) 作物の栽培, 第3部 研究資料, 技術・家庭学習指導書, 技術分野, 開隆堂 pp. 142-204.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 梁川 正 他2名 (2003) 殺菌剤によるプラスチック容器を用いた簡便な無菌培養法によるラン類の増殖, 名古屋国際蘭会議記録本 pp. 15-18. 2. 梁川 正 (2003) 花卉種苗の簡便な in vitro 生産とウイルス無毒化, 科学研究費補助金研究成果報告書 pp.1-111. 3. 梁川 正・宇野 幸治 (2003) 培養環境がカラコエ植物体切片のカルス及び器官形成に及ぼす影響, 京都教育大学環境教育研究年報 11:89-96.
科学研究費補助金等の採択実績 基盤研究(C2) 12~14年度, 代表者, 花卉種苗の簡便な in vitro 生産とウイルス無毒化
所属学会 園芸学会、日本農業教育学会、日本環境教育学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等)

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 環境教育実践センター主催事業 「子どもとともに植物の栽培体験教室」(14年度) 2. 子どもゆめ基金助成事業 「野菜や草花を栽培して育てる楽しみや不思議さ、大切さを学習する体験教室」(15年度) 3. 文部科学省大学等地域開放特別事業 大学 Jr. サイエンス&ものづくり 「植物栽培と植物の不思議さ体験教室」(15年度) 4. 中学生「生き方探求・チャレンジ体験」受入 京都市立向島中学校(15年度) 神川中学校(16年度) 京都市教育委員会 5. 文部科学省大学等開放推進事業(放送大学) 大学 Jr. サイエンス事業 「植物栽培と植物の不思議さ体験教室」(16年度)
国際交流に関する活動実績(主な5件) 1. 2. 3.
管理運営に関する活動実績 教授会選出: 環境整備等委員会委員(15年度) 附属学校長選定委員会委員(14,15,16年度) 学長委嘱: 国際交流会館主事(14,15,16年度)
講演テーマ(3件まで) 1. いのちを育てる植物栽培活動 2. 植物の生長・増殖の不思議 3. 久美浜に自生する海浜植物の増殖
高等教育機関への授業提供 栽培実習(奈良教育大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動

教員個人別教育研究活動

氏名(ふりがな)	中村 道彦 (なかむら みちひこ)
所属講座・分野・職名	保健管理センター・精神医学分野・教授
学位 / 取得年・資格(機関)	医学博士 / 1979 年
最終修了大学院(修了年)	
赴任年月	2001 年 4 月



教育に関する活動実績

学部の授業担当実績 健康科学論(単、100)、心理生理学(単、100)、社会活動論(分、300)、人権問題論(分、300)
大学院の授業担当実績(受講者数の()内は、現職者数) 臨床心理面接特論(単、25(3))、学校保健論(単、15(3))、 臨床心理カンファレンス(共、40(7))、学校保健特別演習(単、15(3))、 保健体育科教育特別研究(分、4(1))、精神医学特論(単、25(5))、心身医学特論(単、30(5))
卒業論文指導の実績と就職状況 H14 0人、 H15 0人、 修士論文指導の実績と進路 H14 3人、現職者1人、教員、公務員1人、その他1人 H15 4人、教員(非常勤)1人、教育関係1人、公務員2人
現職者の指導実績 大学院生 H14 5人、H15 7人、 研究生 H14 2人、H15 2人
留学生の指導実績 H14 0人、H15 0人、
卒業論文および修士論文の主なテーマ(3件まで) 1. 大学生の抑うつとコントロール感についての考察 2. 青年期における無気力感と父性イメージとの関連に関する研究 3. ストレス過程における認知的評価とコーピングに身体感覚が及ぼす影響
附属学校での教育等(3件まで) 1. 心理教育「怒りとうまくつきあうための学習」(附属京都中学並びに附属高等学校) 2. 附属高等学校保護者会における教育講演 3. 附属高等学校における相談会
教育に関するその他の活動 1. 附属中学・高校の保護者(母親)を対象とした摂食障害家族教室の開催 2. 京都府総合教育センターにおける教職20年研修等の講師 3. 京都府教育委員会における職員研修の講師 4. 他大学における講義(佛教大学、聖母女学院短大、京都府立医科大学)

研究に関する活動実績

専門分野(キーワード3つまで) 1. 精神医学 2. 心身医学 3. 精神保健福祉
現在の研究課題(3件まで) 1. 心理教育 2. 家族教室 3. 精神保健
教育および教員養成に関わる研究業績(主な3件) 1. 山下美和子・2004年・附属高校の保護者を対象とした摂食障害家族教室の実施とその意義について・第38回日本心身医学会近畿地方会・2004年7月31日(京都) 2. 中村道彦・2002年・校内の危機的状況に対する保護者の意識調査の報告・京都教育大学紀要・51～62頁 3.
その他専門領域に関わる研究業績(主な3件) 1. 梅藤裕子・2004年・体感音楽装置の使用に伴う心身の反応に関する調査・第4回日本音楽療法学会学術大会・2004年9月4日～5日(岡山) 2. 3.
科学研究費補助金等の採択実績 なし
所属学会 日本精神神経学会、日本精神科診断学会、日本てんかん学会、日本心身医学会、日本音楽療法学会、精神医学史学会
研究に関するその他の活動(共同研究/受賞/特許等) なし

社会貢献・国際交流・管理運営などに関する活動実績

社会貢献に関する活動実績(主な5件) 1. 京都府精神医療審査会(2002～2004) 2. 京都府衛生管理者研修会(2004) 3. 民生委員・児童委員人権問題啓発研修会(2003, 2004) 4. 京都市福祉事務所職員研修(2003, 2004) 5. 京都府中小企業管理監督者ゼミ(2002, 2003)
国際交流に関する活動実績(主な5件) なし
管理運営に関する活動実績 法人 : 労働安全衛生委員 教授会選出: 学長委嘱 : 保健管理センター所長、産業医、健康管理医
講演テーマ(3件まで) 1. 精神保健(メンタルヘルス)と自殺防止 2. 摂食障害などの心身症 3. 不安と抑うつ
高等教育機関への授業提供 医学一般(佛科大学) 精神保健(聖母女学院短大) 神経症(京都府立医科大学)
社会貢献・国際交流・管理運営に関するその他の活動 第38回日本心身医学会近畿地方会および第22回近畿地区講習会の主催(2004年7月31日) ふれあい伏見フェスタ「心と体の健康チェック!」の主催

氏 名 索 引

	漢 字	氏 名	カ ナ 氏 名	掲載頁	
ア～オ	相澤	伸幸	アイザリ ノブキ	…… 242	
	饗場	知昭	アイハ トモキ	…… 112	
	浅井	和行	アイ カズキ	…… 258	
	荒木	光樹	アキ ヒカル	…… 264	
	安東	茂樹	アンドウ シゲキ	…… 172	
	石川	誠誠	イカ マコト (美術教育専修)	…… 124	
	石川	誠誠	イカ マコト (社会科教育専修)	…… 68	
	伊勢	晃子	イ アキラ	…… 204	
	井谷	恵子	イニ ケイ	…… 150	
	伊藤	悦子	イトウ エツコ	…… 228	
	伊藤	伸一	イトウ シンイチ	…… 184	
	伊藤	徹	イトウ トオル	…… 58	
	位藤	紀美子	イトウ キミコ	…… ナ	
	井上	えり子	イトウ エリコ	…… 192	
	井上	文夫	イノウエ フミオ	…… 152	
	伊吹	紀男	イブキ トシオ	…… 108	
	岩田	純一	イワタ ジュンイチ	…… 230	
	岩村	伸一	イワムラ シンイチ	…… 126	
	上田	博之	ウエダ ヒロキ	…… 128	
	植山	俊宏	ウエヤマ トシロ	…… 30	
	内田	利広	ウチダ トシロ	…… 244	
	宇都宮	博	ウツノミヤ ヒロシ	…… 194	
	占部	博信	ウラハ ヒロノブ	…… 70	
	榎本	靖士	エノモト ヤスシ	…… 168	
	遠藤	浩之	エントウ ヒロシ	…… 170	
	大澤	弘之	オオサワ ヒロキ	…… 120	
	太田	耕人	オオタ コウジン	…… 198	
	太田	正己	オオタ マサミ	…… 214	
	大竹	博巳	オオタケ ヒロミ	…… 76	
		Obermeier	Andrew	オーバーマイヤー アンドリュー	…… 252
		岡田	直樹	オカダ ナキ	…… 140
		岡部	美香	オカベ ミカ	…… 246
		岡村	倫行	オカムラ トモキ	…… 130
	岡本	正志	オカモト マサシ	…… 254	
	冲花	彰	オキナ アキラ	…… 80	
	荻野	雄	オギノ ユウ	…… 60	
カ～コ	香川	貴志	カガリ タカシ	…… 62	
	垣内	幸夫	カキウチ ユキオ	…… 114	
	梶原	裕二	カヅワラ ユウジ	…… 92	
	加用	文男	カヨウ フミオ	…… 224	
	川口	容子	カガクチ ヨウコ	…… 116	
	小谷	裕宏	コタニ ヒロミ	…… 220	
	小児	一宏	コタマ カズヒロ	…… 206	
	小寺	正一	コテラ マサカズ	…… 26	
	小林	茂夫	コバヤシ シゲオ	…… 132	
	小林	良子	コバヤシ リカコ	…… 148	

	漢 字 氏 名	カ ナ 氏 名	掲載頁
	小林 幸男	コバヤシ ユキオ	…… 19
	駒田 聡子	コマダ サトシ	…… 36
	後藤 景子	ゴトウ ケイコ	…… 186
サ～ソ	榭原 典子	サキハラ ノリコ	…… 196
	坂田 薫子	サカタ カルコ	…… 208
	佐々木 真理	ササキ マコト	…… 260
	佐竹 伸夫	サタケ ノブオ	…… 182
	芝原 寛泰	シバハラ ヒロヤス	…… 82
	冷水 來生	シメズ ヨシオ	…… 216
	杉本 厚夫	スギモト アツオ	…… 154
	鈴木 寿一	スズキ ジュウイチ	…… 200
	関川 千尋	セキガワ チヒロ	…… 188
	関根 文太郎	セキネ フミタロウ	…… 174
タ～ト	田岡 文夫	タカ オチ	…… 44
	高嶋 隆一	タカシマ リウイチ	…… 94
	高乘 秀明	タカノ ヒデアキ	…… 262
	武島 良成	タケシマ ヨシナリ	…… 64
	武田 一郎	タケダ イチロウ	…… 46
	田中 里志	タナカ サトシ	…… 96
	田中 多佳子	タナカ タカコ	…… 122
	田中 道治	タナカ ミチル	…… 218
	谷口 和成	タニグチ カズナリ	…… 104
	谷口 慶祐	タニグチ ケイスケ	…… 106
	谷口 淳一	タニグチ ジュンイチ	…… 134
	谷口 匡一	タニグチ タダシ	…… 38
	丹下 裕史	タング ヒロフミ	…… 142
	丹後 弘司	タノゴ ヒロシ	…… 72
	土屋 英男	ツチヤ ヒデオ	…… 176
	手島 光司	テシマ コウジ	…… 28
	寺田 光世	テラダ ミツヨ	…… 156
	徳岡 慶一	トクカ ケイチ	…… 248
ナ～ノ	中 比呂志	ナカ ヒロシ	…… 164
	中西 洋子	ナカニシ ヨウコ	…… 190
	中 峯 浩	ナカミネ ヒロシ	…… 180
	中 村 道彦	ナカムラ ミチヒコ	…… 268
	奈 倉 洋子	ナクラ ヨウコ	…… 202
	二 枝 美津子	ニエダ ミツコ	…… 212
	西 勇 夫	ニシ イサオ	…… 118
	西城 戸 誠	ニシキト マコト	…… 66
	西 本 有 逸	ニシモト ユウイチ	…… 210
ハ～ホ	浜 田 麻 里	ハマダ マリ	…… 42
	林 英 彰	ハヤシ ヒデアキ	…… 166
	坂 東 忠 司	バンドウ タダシ	…… 19
	日 比 嘉 高 子	ヒビ ヨシタカ	…… 40
	平 井 恭 子	ヒライ キョウコ	…… 226
	平 石 隆 敏	ヒライシ タカトシ	…… 48

	漢字氏名	カナ氏名	掲載頁
	広木正紀	ヒロキ マサル 84
	福間則夫	フクマ ノオ 178
	藤井まり子	フジイ マリコ ナシ
	藤岡秀樹	フジオカ ヒデキ 250
	細川友秀	ホソカワ トモヒデ 110
	堀内友孜	ホリウチ ツトム 232
	本間友巳	ホンマ トモミ 256
マ～モ	前川紘一郎	マエカワ コウイチロウ 86
	真神仁宏	マガミ ニンコウ 136
	巻本彰一	マキモト ショウイチ 98
	松井仁	マツイ ヒトシ 234
	松良俊明	マツラ トシアキ 88
	水谷宗明	ミズタニ ムネアキ 236
	水山光春	ミズヤマ ミツハル 50
	宮崎充弘	ミヤザキ ミツヒロ ナシ
	向井浩	ムカイ ヒロシ 100
	武蔵野實	ムサシノ マコト 90
	宗雪修三	ムネキ シュウゾウ 32
	村上忠幸	ムラカミ タダユキ 102
	村上登司文	ムラカミ トシフミ 238
	村田隆紀	ムラタ タカノリ 25
	村田利裕	ムラタ トシヒロ 144
	守屋誠司郎	モリヤ セイジ 74
	森山卓郎	モリヤマ タクロウ 34
ヤ～ヨ	安江勉	ヤスイ ツトム 146
	八塚春児	ヤツツカ シュンジ 52
	梁川正夫	ヤナガリ タダシ 266
	矢野喜夫	ヤノ ヨシオ 240
	藪根喜敏	ヤブネ トシタカ 158
	山口一雄	ヤマグチ カズオ ナシ
	山下秋二	ヤマシタ シュウジ 160
	山下宏文	ヤマシタ ヒロフミ 54
	吉利宗久	ヨシトシ ムネヒサ 222
ワ	脇坂淳	ワキサカ アツシ 138
	渡邊伸樹	ワタナベ ノブキ 78
	和田萃	ワダ アツム 56
	和田尚	ワダ ヒサシ 162

教員個人別教育研究活動の記載のない教員

位 藤 紀美子
小 林 幸 男
坂 東 忠 司
藤 井 まり子
宮 崎 充 弘
山 口 一 雄

編集後記

アニュアルレポートの発行については、国立大学時代に本学におかれていた自己点検評価委員会の中で、その必要性がたびたび指摘されていた。平成16年4月の法人化後に設置された大学評価室では、課題となっていたこのレポートの作成を重要な任務の一つと位置づけ、その発行に取り組むことになったが、ここにようやく完成を見ることになった。その間、既存の類似冊子との関係の調整や、将来の文書の電子化を見据えた議論、さらに教員の個人別教育研究活動の報告の提出を促す作業などに手間取り、残念ながら当初の予定よりも少し遅れての発行となった。

このレポートに記されたさまざまなデータは、これからの自己点検評価の貴重な資料となるとともに、まもなく実施される第三者評価に対しての準備として位置づけることが出来る。

レポートの完成は、全学の教員の協力のたまものであるが、とりわけ事務局総務課企画広報室の皆さんの献身的な努力があって初めて実現したものである。ここに記して、特に感謝の意を表する。

平成16年12月

国立大学法人京都教育大学 大学評価室

室長(学長)	村田隆紀
室次長	杉本厚夫
室員	水山光春
室員	松井仁

編集協力者

理事	菊川治
企画広報室長	石坪美子



このマークは、大学基準協会
の定める大学基準に適合した
大学が使用できるマークです。

京都教育大学
アニュアルレポート2004

発行日 2004年12月22日

編集 国立大学法人京都教育大学大学評価室

発行 京都教育大学 〒612-8522京都市伏見区深草藤森町 1

電話 075-644-8186

<http://www.kyokyo-u.ac.jp>